



# Sun™ Management Center 3.5 Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 システムのための追補マニュアル

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No. 817-2725-10  
2003年8月, Revision A

コメントの宛先: [docfeedback@sun.com](mailto:docfeedback@sun.com)

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人 日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、AnswerBook2、docs.sun.com、および Sun Fire は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植のある可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Management Center 3.5 Supplement for Sun Fire 6800/4810/4800/3800 Systems Part No: 816-7381-10 Revision A
-----	---



# 目次

---

はじめに xxi

## 1. はじめに 1

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム用の補助ソフトウェア 1

このマニュアルで使用されている用語 3

プラットフォームとハードウェアドメインの区別 6

このマニュアルで使用している例について 8

## 2. インストールとセットアップ 11

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム専用のパッケージ 12

Sun Management Center の主な機能と対応する節 16

SC のフェイルオーバー機能の有効化 17

- ▼ SC のフェイルオーバー機能を有効にして論理 IP アドレスを作成する 18

システムコントローラ上の SNMP の設定 18

- ▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する 19
- ▼ ドメイン上の SNMP を設定する 20

インストールウィザードによる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのインストール 22

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールの概要 22

セットアップウィザードによる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのセットアップ 23

- ▼ セットアップウィザードを使用してプラットフォームエージェントを  
セットアップする 23
- ▼ セットアップウィザードを使用してドメインエージェントをセットアッ  
プする 36

#### ウィザードの高度なセットアップオプションの使用 37

##### 「エージェント更新」による複数ホストの更新 38

- エージェント更新プロセスを起動する前に 38
- ▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用構成ファイルを作成する 38
- エージェント更新プロセスの使用 39
- エージェント更新でサポートされる構成 39
- ▼ Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新す  
る 39
- ▼ 追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0  
Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する 43

#### Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームエージェントのインスタンスの 作成と設定 44

- ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する 44
- ▼ 複数のプラットフォームエージェントのインスタンスを作成する 45
- ▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire  
6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定す  
る 46
- ▼ プラットフォームインスタンスを起動する 47
- ▼ プラットフォームインスタンスを停止する 47

#### 起動ウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアの起動 47

#### 停止ウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアの停止 48

#### アンインストールウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアのア ンインストール 48

#### グループへのユーザーの割り当て 48

- ▼ 管理者およびオペレータグループにユーザーを割り当てる 48

#### 設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除 49

- ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のデフォルトのプラットフォーム管理モ  
ジュールの設定を取り消す 50

- ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理インスタンスの設定を取り消す 50
- ▼ プラットフォームエージェントを削除する 51
- ドメインの設定 51
  - ▼ ハードウェアドメインを作成する 51
  - ▼ 管理ドメインを作成する 52
- 3. プラットフォームエージェントによるプラットフォームおよびドメインの管理 53
  - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュール 53
    - ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のドメインオブジェクトだけを作成する 55
    - ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のプラットフォームオブジェクトだけを作成する 55
    - ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 の複合オブジェクトを作成する 56
  - プラットフォーム管理モジュールのドメインテーブルへのアクセス 60
    - ドメイン X のスロットテーブル 61
      - ドメイン X の空きスロット 61
      - ドメイン X の CPU ボード 62
      - ドメイン X の 入出力ボード 63
      - ドメイン X の不明なボード 64
    - ドメイン X の構成部品 (コンポーネント) テーブル 64
      - ドメイン X の CPU モジュール 65
      - ドメイン X の DIMM モジュール 66
      - ドメイン X の E キャッシュ 66
      - ドメイン X の WCI 67
      - ドメイン X の WCI ポート 68
  - ドメイン 68
  - ドメインテーブルの操作 70
    - ▼ ドメインのキースイッチ設定を変更する 71

▼ ドメインのログホストを設定する	73
▼ FRU 情報を表示する	74
▼ ホストの詳細を表示する	75
プラットフォーム管理モジュールのプラットフォームテーブルへのアクセス	76
プラットフォームシステム	77
プラットフォームのシャーシ	77
プラットフォームのスロットテーブル	78
プラットフォームの空きスロット	79
プラットフォームの CPU ボード	80
プラットフォームの入出力ボード	81
プラットフォームの L2 リピータ	82
プラットフォームのファントレー	83
プラットフォームの電源装置	84
プラットフォームのシステムコントローラ (SC)	85
プラットフォームの不明なボード	86
プラットフォームの構成部品テーブル	86
プラットフォームの CPU モジュール	87
プラットフォームの DIMM	88
プラットフォームの E キャッシュ	89
プラットフォームの WCI	89
プラットフォームの WCI ポート	90
プラットフォームのドメイン	91
プラットフォームテーブルの操作	92
▼ 使用可能なボードを割り当てる	94
▼ ボードを割り当て解除する	95
▼ ボードの電源をオンまたはオフにする	96
▼ ボードをテストする	96
▼ システムコントローラを設定する	97

- ▼ ログホストを設定する 99
- ▼ FRU 情報を表示する 100
- ▼ ホストの詳細を表示する 100
- ▼ ドメインのアクセス制御リストを編集する 101

#### Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの物理表示と論理表示 102

- ▼ 物理および論理表示する 102

#### プラットフォーム管理のハードウェア規則 108

- スロットの状態規則 (rspa1000) 109
- システム周波数クロック規則 (rspa1001) 109
- ドメインの状態規則 (rspa1002) 110
- ドメインのキースイッチ規則 (rspa1003) 110
- システムコントローラのフェイルオーバー規則 (rspa1004) 110
- システムコントローラの変化規則 (rspa1005) 111
- ログまたはトラップホストの変化規則 (rspa1006) 111
- システムコントローラの応答なし規則 (rspa1007) 112
- CPU モジュールの状態規則 (rspa1008) 112
- システムコントローラのファームウェアのバージョン規則 112
- システムボードのテスト状態規則 (rspa1010) 113
- ドメインまたはボードの電源状態規則 (rspa1011) 113

#### データ収集テーブル 114

#### 4. ドメインエージェントによるドメインの管理 117

##### 管理ドメインの設定 117

##### エージェントの起動と停止 117

##### ノードの作成 118

##### 構成リーダーモジュール 118

- ▼ 構成リーダーモジュールを使用する 118
- 構成リーダーモジュールの読み込み 122
- ▼ モジュールを読み込む 123

ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス	124
ドメインシステム	125
ドメインのボード	126
ドメインの CPU ユニット	127
ドメインの DIMM	128
ドメインの入出力コントローラ	128
ドメインの Sun Fire Link ASIC	129
ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA	129
ドメインの入出力デバイス	130
ドメインのディスクデバイス	131
ドメインのテープデバイス	131
ドメインのネットワークデバイス	132
ドメインのメモリーコントローラ	132
ドメインの構成リーダーの規則	133
CPU ユニットの状態規則 (rcrse207)	133
テープの状態規則 (rcrse225)	133
システムボードの状態規則 (rcrse301)	134
接続点の状態規則 (rLnkVld)	134
Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの規則	134
CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8 Update 5 以降 (rsr1000)	135
CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8 Update 5 以前 (rsr1001)	135
SCSI 警告メッセージ規則 (rsr1002)	136
UNIX 警告メッセージ規則 (rsr1003)	136
Genunix 日付の警告メッセージ規則 (rsr1004)	137
Genunix クロックの警告メッセージ規則 (rsr1004)	137
ファンプレーンの警告メッセージ規則 (rsr1006)	138
LUN 障害規則 (rsr1007)	138
PLOGI 障害規則 (rsr1008)	138



ECC 訂正規則 (rsr1009)	139
Q ロジックエラー規則 (rsr1010)	139
カーネル訂正規則 (rsr1011)	140
SCSI 情報イベント規則 (rsr1012)	140
SCSI ディスクオンライン規則 (rsr1013)	140
温度状態規則 (rsr1014)	141
電源状態規則 (rsr1015)	141
ドメインの物理表示と論理表示	142
5. ドメインからの動的再構成 (DR)	145
前提条件	145
DR モジュール	146
DR の属性	147
接続点	148
CPU/ メモリー	148
PCI/cPCI/hPCI 入出力ボード	149
WPCI	150
cPCI/hPCI カード	151
SCSI	152
空きスロット	153
MaxCPU	154
動的接続点	154
CPU コンポーネント	155
メモリーコンポーネント	156
入出力コンポーネント	157
SCSI コンポーネント	158
ドメインからの DR 操作	158
サポートされている <code>cfgadm</code> のオプション	159
ドメインからのドメイン情報の表示	160

- ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認 160
- ボードの割り当て 160
  - ▼ ボードを割り当てる 160
- ボードの割り当て解除 161
  - ▼ ボードを割り当て解除する 161
- システムボードのアタッチ 162
  - ▼ システムボードをアタッチする 162
- システムボードのデタッチ 162
  - ▼ システムボードをデタッチする 163
- ボードの接続 163
  - ▼ システムボードを接続する 164
- ボードの切断 164
  - ▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する 164
  - ▼ SCSI ボードを切断する 165
- ボード、コンポーネント、メモリーの構成 166
  - ▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリーを構成する 166
- ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除 167
  - ▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する 167
  - ▼ メモリーを構成解除する 168
- ボードの電源オン 169
  - ▼ ボードの電源をオンにする 169
- ボードの電源オフ 169
  - ▼ ボードの電源をオフにする 169
- ボードのテスト 170
  - ▼ ボードをテストする 170
- 状態の表示 171
  - ▼ 状態を表示する 171

- A. CLI による Sun Management Center ソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、起動、停止 173
  - ソフトウェアのインストール 173
    - ▼ CLI を使用して補助ソフトウェアをインストールする 173
  - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のプラットフォーム管理モジュールの設定 175
    - システムコントローラ上の SNMP の設定 176
      - ▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する 176
      - ▼ ドメイン上の SNMP を設定する 177
    - エージェントとサーバー階層の設定 179
      - ▼ エージェントマシン上の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する 179
      - ▼ サーバー上の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールのサーバー階層だけを設定する 180
  - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームエージェントのインスタンスを作成と設定 181
    - ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する 181
    - ▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する 181
    - ▼ 管理者およびオペレータグループにユーザーを割り当てる 182
  - CLI によるソフトウェアの設定 184
    - ▼ Sun Management Center サーバーでドメイン管理モジュールを設定する 184
    - ▼ プラットフォームでプラットフォーム管理モジュールを設定する 184
  - CLI によるソフトウェアのアンインストール 186
    - ▼ CLI を使用して Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする 187
    - ▼ 追加モジュールを個別にアンインストールする 188
  - Sun Management Center コンポーネントの起動 190
    - ▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを起動する 190
    - ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを起動する 190

▼ 全ての Sun Management Center コンポーネントを起動する	191
Sun Management Center コンポーネントの停止	191
▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを停止する	192
▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを停止する	192
▼ 全ての Sun Management Center コンポーネントを停止する	192
用語集	195
索引	199

# 目次

---

- 図 1-1 プラットフォームおよびドメイン管理者の表示アクセス 2
- 図 1-2 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラへのアクセスを可能にするプラットフォームエージェント 3
- 図 1-3 複数のホストで構成される管理ドメインが表示されているメインコンソールウィンドウ 4
- 図 1-4 複数のハードウェアドメインからなる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームの詳細表示 5
- 図 1-5 一般的な Sun Fire 6800 のアイコン 5
- 図 1-6 プラットフォームの詳細ウィンドウ (上) とハードウェアドメインの詳細ウィンドウ (下) 7
- 図 1-7 アイコンを開く (または閉じる) 方法 9
- 図 2-1 サーバーホストだけの問い合わせのパネル 24
- 図 2-2 プラットフォーム管理のプラットフォーム構成のパネル 26
- 図 2-3 プラットフォーム管理のドメインのコミュニティ構成のパネル 27
- 図 2-4 プラットフォーム管理のドメインの IP 構成のパネル 28
- 図 2-5 プラットフォーム管理のドメインのポート構成のパネル 29
- 図 2-6 プラットフォーム管理のプラットフォームのデフォルトポートのパネル 31
- 図 2-7 プラットフォーム管理のセキュリティーキー生成パネル 34
- 図 2-8 「ジョブの管理」パネル 40
- 図 2-9 「新しいタスク」パネル 41
- 図 3-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームオブジェクトの詳細ウィンドウ 54
- 図 3-2 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウの「ノード」タブ 58
- 図 3-3 「複合」タブの Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム表示例 59

- 図 3-4      ドメイン X のテーブル    60
- 図 3-5      「ブラウザ」ウィンドウのドメインテーブル    70
- 図 3-6      キースイッチのパネル    72
- 図 3-7      「ログホストの設定」パネル    73
- 図 3-8      「FRU 情報」パネル    75
- 図 3-9      プラットフォームテーブル    76
- 図 3-10     「割り当て」パネル    95
- 図 3-11     「割り当て解除」パネル    95
- 図 3-12     「電源オフ」パネル    96
- 図 3-13     「ボードのテスト」パネル    97
- 図 3-14     「システムコントローラのネットワーク設定」パネル    98
- 図 3-15     「ログホストの設定」パネル    99
- 図 3-16     「FRU 情報」パネル    100
- 図 3-17     「アクセス制御リスト」パネル    101
- 図 3-18     プラットフォームの「詳細」ウィンドウ    103
- 図 3-19     「ハードウェア」タブと「ハードウェアの概要」テーブル    104
- 図 3-20     「表示」プルダウンメニュー    105
- 図 3-21     物理表示 (Sun Fire 6800 システムの背面図)    106
- 図 3-22     論理表示    107
- 図 3-23     「詳細」ウィンドウの論理表示内の「検索」ボタン    108
- 図 3-24     データ収集テーブル    115
- 図 4-1      ドメインの「詳細」ウィンドウ    119
- 図 4-2      構成リーダーと規則のアイコン    120
- 図 4-3      構成リーダーモジュール    121
- 図 4-4      Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの規則テーブル    122
- 図 4-5      「詳細」ウィンドウの「モジュール」タブ    123
- 図 4-6      ドメインの Paroli カードの物理表示 (背面)    143
- 図 5-1      DR の機能    147
- 図 5-2      「デタッチ」確認ボックス    163
- 図 5-3      「切断」パネル    165

図 5-4	「メモリーの構成解除」パネル	168
図 5-5	「ボードのテスト」パネル	171
図 5-6	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)	172
図 5-7	ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (正常終了の場合)	172





# 表目次

---

表 2-1	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用の Sun Management Center パッケージ	12
表 2-2	インストール前、インストール、セットアップ、アンインストール、アップグレード、インストール後の作業手順	16
表 2-3	ユーザーグループ	49
表 3-1	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の空きスロット	61
表 3-2	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の CPU ボード	62
表 3-3	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の 入出力ボード	63
表 3-4	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の不明なボード	64
表 3-5	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の CPU モジュール	65
表 3-6	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の DIMM (構成部品レベル)	66
表 3-7	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の E キャッシュ (構成部品レベル)	66
表 3-8	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の WCI (構成部品レベル)	67
表 3-9	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の WCI ポート (構成部品レベル)	68
表 3-10	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の ドメイン	68
表 3-11	ドメイン表示におけるテーブル操作メニューの項目	71
表 3-12	ドメインテーブルの操作	71
表 3-13	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム	77
表 3-14	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームのシャーシ	77
表 3-15	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームの空きスロット	79

表 3-16	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの CPU ボード	80
表 3-17	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの入出力ボード	81
表 3-18	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの L2 リピータ	82
表 3-19	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットのファントレール	83
表 3-20	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの電源装置	84
表 3-21	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの SC	85
表 3-22	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの不明なボード	86
表 3-23	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の CPU モジュール	87
表 3-24	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の DIMM	88
表 3-25	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の E キャッシュ	89
表 3-26	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の WCI	89
表 3-27	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の WCI ポート	90
表 3-28	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームのドメイン	91
表 3-29	プラットフォーム表示におけるテーブル操作メニューの項目	93
表 3-30	プラットフォームテーブルの操作メニューの項目	94
表 3-31	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のスロットの状態規則	109
表 3-32	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステム周波数クロック規則	109
表 3-33	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のドメインの状態規則	110
表 3-34	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のドメインのキースイッチ規則	110
表 3-35	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムコントローラのフェイルオーバー規則	110
表 3-36	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムコントローラの変化規則	111

表 3-37	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のログまたはトラップホストの変化規則	111
表 3-38	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムコントローラの応答なし規則	112
表 3-39	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理の CPU モジュールの状態規則	112
表 3-40	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理の SC のファームウェアのバージョン規則	112
表 3-41	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムボードのテスト状態規則	113
表 3-42	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のドメインまたはボードの電源状態規則	113
表 4-1	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインシステム	125
表 4-2	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのボード	126
表 4-3	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの CPU ユニット	127
表 4-4	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの DIMM	128
表 4-5	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの入出力コントローラ	128
表 4-6	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの Sun Fire Link ASIC (WCI)	129
表 4-7	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA	129
表 4-8	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの入出力デバイス	130
表 4-9	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのディスクデバイス	131
表 4-10	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのテープデバイス	131
表 4-11	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのネットワークデバイス	132
表 4-12	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのメモリーコントローラ	132
表 4-13	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーの CPU ユニット状態規則	133
表 4-14	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーのテープ状態規則	133
表 4-15	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーのシステムボード状態規則	134
表 4-16	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーの接続点状態規則	134
表 4-17	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの CPU エラーメッセージ規則	135
表 4-18	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの CPU エラーメッセージ規則	135
表 4-19	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの SCSI 警告メッセージ規則	136
表 4-20	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの UNIX 警告メッセージ規則	136
表 4-21	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Genunix 日付警告メッセージ規則	137

表 4-22	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Genunix クロック警告メッセージ規則	137
表 4-23	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのファンプレーン警告メッセージ規則	138
表 4-24	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの LUN 障害規則	138
表 4-25	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの PLOGI 障害規則	138
表 4-26	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの ECC 訂正規則	139
表 4-27	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Q ロジックエラー規則	139
表 4-28	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのカーネル訂正規則	140
表 4-29	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの SCSI 情報イベント規則	140
表 4-30	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの SCSI ディスクオンライン規則	140
表 4-31	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの温度状態規則	141
表 4-32	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの温度状態規則	141
表 5-1	CPU/ メモリーボードの接続点属性	148
表 5-2	PCI/cPCI/hPCI 入出力ボードの接続点属性	149
表 5-3	WPCI ボードの接続点属性	150
表 5-4	cPCI/hPCI の接続点属性	151
表 5-5	SCSI の接続点属性	152
表 5-6	空きスロットの接続点属性	153
表 5-7	Sun Fire 15K/12K の MaxCPU ボードの接続点属性	154
表 5-8	CPU コンポーネントの動的接続点属性	155
表 5-9	メモリーコンポーネントの動的接続点属性	156
表 5-10	入出力コンポーネントの動的接続点属性	157
表 5-11	SCSI コンポーネントの動的接続点属性	158
表 5-12	DR がサポートする cfgadm のオプション	159
表 A-1	ユーザーグループ	183

# はじめに

---

このマニュアルでは、Sun Fire™ 6800/4810/4800/3800 システムに Sun™ Management Center ソフトウェアをインストールしてセットアップする方法と、その使用方法について説明しています。

このマニュアルは、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視・管理するために、Sun Management Center ソフトウェアをインストールして使用する、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のシステム管理者向けです。

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム用の Sun Management Center 3.5 ソフトウェアおよびマニュアルには、フランス語、日本語、韓国語、簡体字中国語、繁体字中国語版があります。ただし、このマニュアルの画面例はすべて英語で表記されています。

---

**注** – ウィンドウに当該言語のすべてのテキストが表示されていない場合は、ウィンドウのサイズを変更してください。

---

---

## お読みになる前に

このマニュアルは、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』および『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の後にお読みください。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』では、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールおよび設定方法、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』では、Sun Management Center の使用方法をそれぞれ詳しく説明しています。

---

**注** – この製品の最新情報については、Sun Management Center の Web サイト (<http://www.sun.com/sunmanagementcenter>) をご覧ください。

---

---

# マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 における Sun Management Center ソフトウェアの概要を説明しています。

第 2 章では、グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) を使用して Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムで Sun Management Center ソフトウェアをインストール、設定、複数ホスト更新、起動、停止を行う方法を説明しています。『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』と併せてお読みください。また、この章では、SC のフェイルオーバーの有効化などのインストール前の作業についても説明しています。さらに、管理者およびオペレータグループへのユーザーの割り当てやドメインの設定などのインストール後の作業についても説明しています。

第 3 章では、プラットフォームエージェントを使用して Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームおよびドメインを管理、監視する方法を説明しています。また、プラットフォームエージェントが使用する各属性とアラーム規則についても簡単にまとめています。

第 4 章では、ドメインエージェントを使用して Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインを管理する方法を説明しています。また、ドメインエージェントが使用する各属性とアラーム規則についても簡単にまとめています。

第 5 章では、動的再構成 (DR) モジュールから DR コマンドとその他の管理コマンドを使用する方法を説明しています。DR モジュールは、`cfgadm` コマンドに依存しています。

付録 A では、コマンド行インターフェース (CLI) を使用して Sun Management Center ソフトウェアをインストール、設定、起動、停止する方法を説明しています。

用語集は、このマニュアルや Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム専用のモジュール用の Sun Management Center のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) で使用されている略語と頭文字語の定義集です。

総合索引を利用することによって、このマニュアルの説明箇所を簡単に見つけることができます。

今回のリリースに含まれているオープンソースソフトウェアのライセンス条件、帰属、および著作権情報については、以下のパスのファイルを参照してください。

```
/cdrom/sunmc_3_5_sparc/image/Webserver/Solaris_9/SUNWtcatr \
/install/copyright
```

Solaris 8 ソフトウェアを使用している場合は、このパスの `Solaris_9` の部分を `Solaris_8` に置き換えてください。

---

# UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX<sup>®</sup>の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

基本的なコマンドや手順についての説明は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun 周辺機器 使用の手引き』
- Solaris<sup>™</sup> オペレーティング環境についてのオンラインマニュアル
- 本システムに付属している他のソフトウェアマニュアル

---

## 書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% <b>su</b> Password:
<i>AaBbCc123</i> またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm <b>ファイル名</b> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% <b>grep</b> `^#define \ XV_VERSION_STRING`

---

---

# シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#

---

---

## 関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
ソフトウェアのインストール	Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド	817-3019
ソフトウェアの使用方法	Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド	817-3024
注意事項、制限事項、問題点	Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって	817-3049
動的再構成 (DR)、コマンド行インタフェース	Sun Fire 6800,4810,4800,3800 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	816-3596
プラットフォーム管理	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド (5.14.0)	817-0501
コマンドリファレンス	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラコマンドリファレンスマニュアル	817-0505
Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの変更点、制限事項、ソフトウェアの問題点	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムファームウェア 5.14.0 ご使用にあたって	817-1033
ハードウェアの保守	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムサービスマニュアル	817-2376

---



用途	タイトル	Part No.
Starfire サーバー	Sun Management Center 3.5 Starfire サーバーのための追補マニュアル	817-2715
Sun Fire 15K/12K システム	Sun Management Center 3.5 for Sun Fire 15K/12K システムのための追補マ ニュアル	817-2710
Sun Fire Link システムの 管理	Sun Fire Link ファブリック管理者マ ニュアル	817-0746
Sun Fire Link システムの 設置	Sun Fire Link ハードウェア設置マニ ュアル	817-0557

## Sun のオンラインマニュアル

サン各種システムマニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs>

Solaris およびその他のマニュアルは下記 URL より参照できます。

<http://docs.sun.com>

## コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

[docfeedback@sun.com](mailto:docfeedback@sun.com)

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-2725-10) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。



# 第1章

---

## はじめに

---

この章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムにおける Sun Management Center 3.5 ソフトウェアによるプラットフォームとドメインの管理について紹介します。

---

## Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム 用の補助ソフトウェア

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアは、ワークステーションまたはサーバーから Sun のシステムを監視することを可能にします。Sun Management Center 3.5 ソフトウェアを使用すると、ネットワークを介してさまざまな遠隔操作やアプリケーションの管理ができます。Sun Fire 6800/4810/4800/3800 補助ソフトウェアは、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムで主要 Sun Management Center 3.5 ソフトウェアを機能するようにします。

第5章で説明する動的再構成 (DR) 機能を使用するには、DR の操作を十分に理解しておく必要があります。このマニュアルでは、Sun Management Center を使用して DR の操作を行う方法を説明しています。Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムにおける動的再構成 (DR) の全体的な説明については、『Sun Fire 6800, 4810, 4800, 3800 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』を参照してください。

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムは、専用の Solaris™ オペレーティングシステムを実行するハードウェアドメインにそれぞれ分割されます。システムの能力およびそれを構成するハードウェアリソース数によって異なりますが、1つの Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムは、最大4つのドメインで構成できます(最小はドメイン1つ)。ドメインが使用されるため、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 補助ソフトウェアには、2つの動作モードがあります(図 1-1)。

- **ドメイン管理者**は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン上で動作する Sun Management Center、または Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラ上で動作する SNMP エージェントのプロキシ管理を行う Sun Management Center プラットフォームエージェントを使用してのみ Solaris オペレーティングシステムのドメイン表示にアクセスできます。
- **プラットフォーム管理者**は、Sun Management Center プラットフォームエージェントを使用し、システムコントローラ上のコンソールからプラットフォーム表示にアクセスできます。

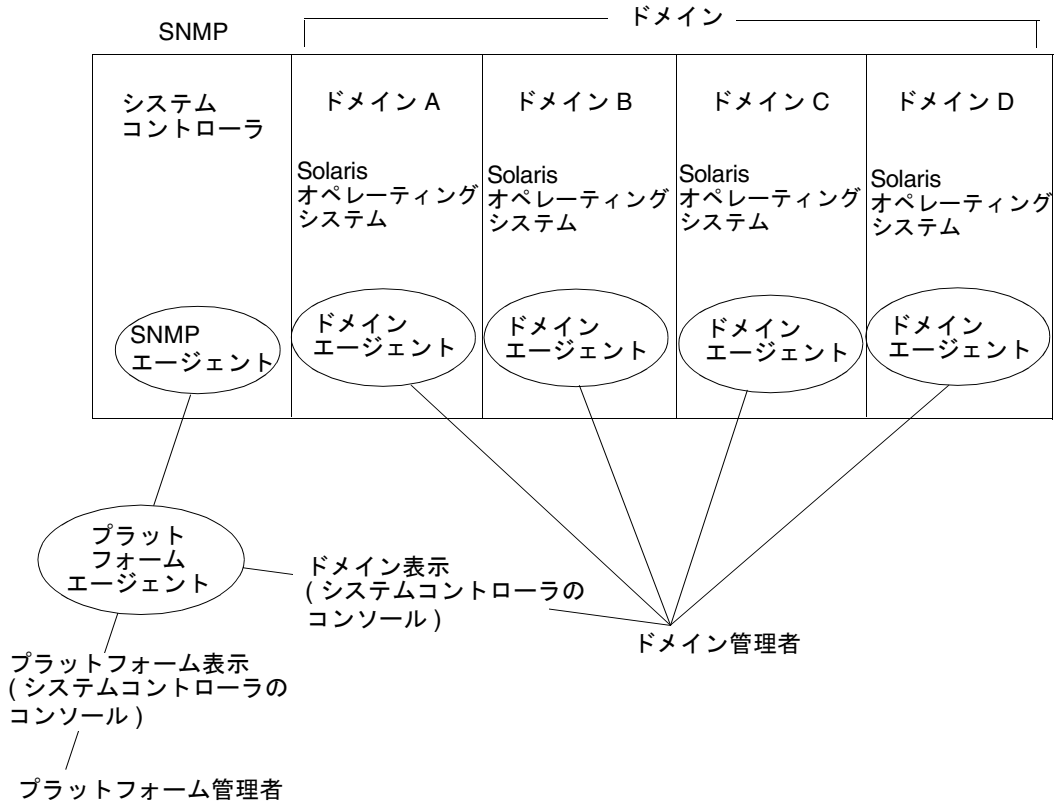


図 1-1 プラットフォームおよびドメイン管理者の表示アクセス

Sun Fire 補助ソフトウェアをホストマシン (ワークステーションまたはサーバー) にインストールすると、そのホストマシン上で Sun Management Center 3.5 ソフトウェアを実行することによって、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム内のシステムコントローラにアクセスできます。

補助ソフトウェアの初期設定では、システムコントローラにアクセスすることを可能にするプラットフォームエージェントが1つ作成されます。他の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム上のシステムコントローラにアクセスするには、システムコントローラごとにエージェントインタフェースをインストールします (図 1-2)。

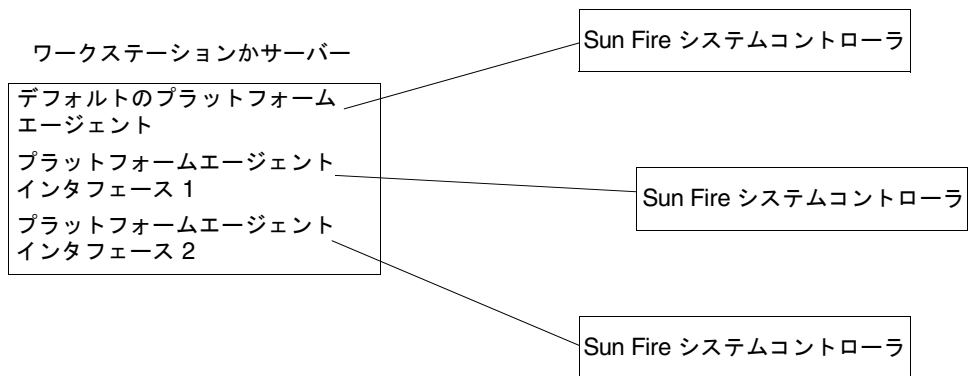


図 1-2 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラへのアクセスを可能にするプラットフォームエージェント

---

## このマニュアルで使用されている用語

---

注 - このマニュアルでは、管理ドメインとは Sun Management Center 管理ドメインを指します。サンの他の製品や文書で使用されている「ドメイン」と混同しないようにしてください。

---

**管理ドメイン** - 管理ドメインは、1つ以上のホストシステムで構成されます。

**動的再構成 (DR)** - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 の補助ソフトウェアは、動的再構成 (DR) の操作を容易にするグラフィカルユーザーインタフェースを提供します。動的再構成ソフトウェアは、Solaris オペレーティングシステムの一部です。動的再構成ソフトウェアにより、システムの稼動中でも、安全にシステムボードやコンパクト PCI I/O カードを取り外したり、取り付けることができます。さらに、システム稼動中に、システムボードやコンパクト PCI I/O カードを別のドメインへ移すこともできます。

**プラットフォーム** - 1つのシステム全体を表す用語です。このマニュアルで説明している Sun Fire 6800 システムも、1つのプラットフォームです。

ドメイン (またはハードウェアドメイン) - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム内のドメインは、パーティション内の論理的に独立した複数のセクションで構成されます。各ドメインは、専用のオペレーティングシステムをそれぞれ実行します。この種のドメインがシステムポートとその他の装置から構成されるのに対し、管理ドメインは、複数のドメインおよびプラットフォームで構成されます。このマニュアルでは、これらを区別するために、この種のドメインを「ハードウェアドメイン」と呼びます。

図 1-3 は管理ドメインの表示例です。管理ドメインが完全なシステムとハードウェアドメインで構成されていることに注意してください。

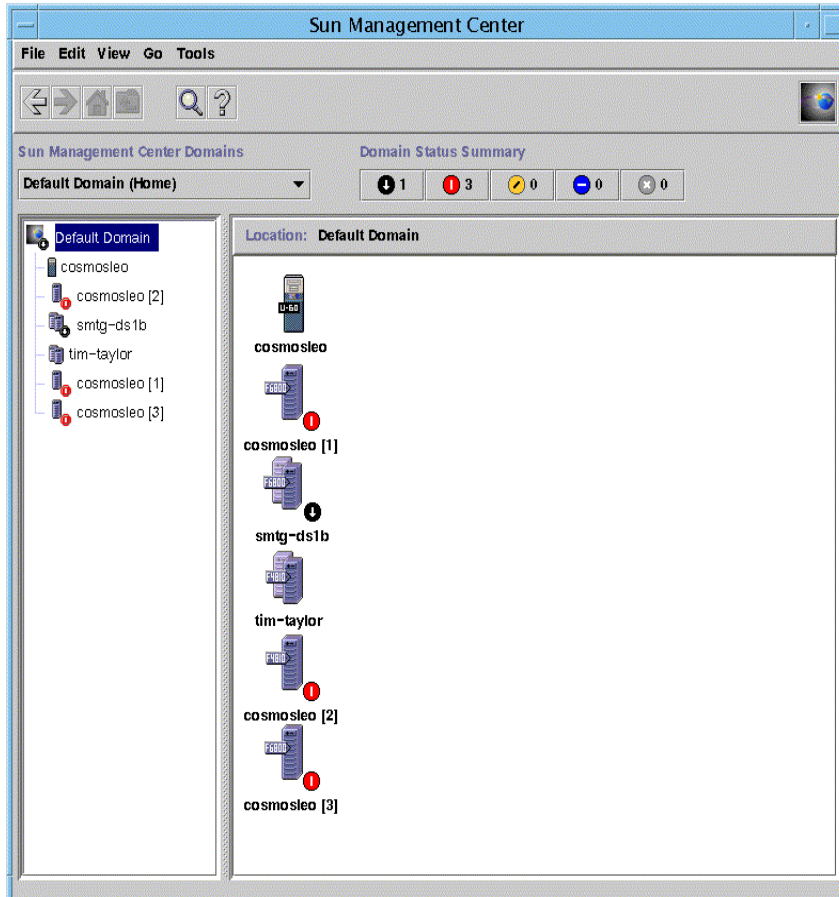


図 1-3 複数のホストで構成される管理ドメインが表示されているメインコンソールウィンドウ

これに対し、図 1-4 は、ホスト内のハードウェアドメインを表しています。

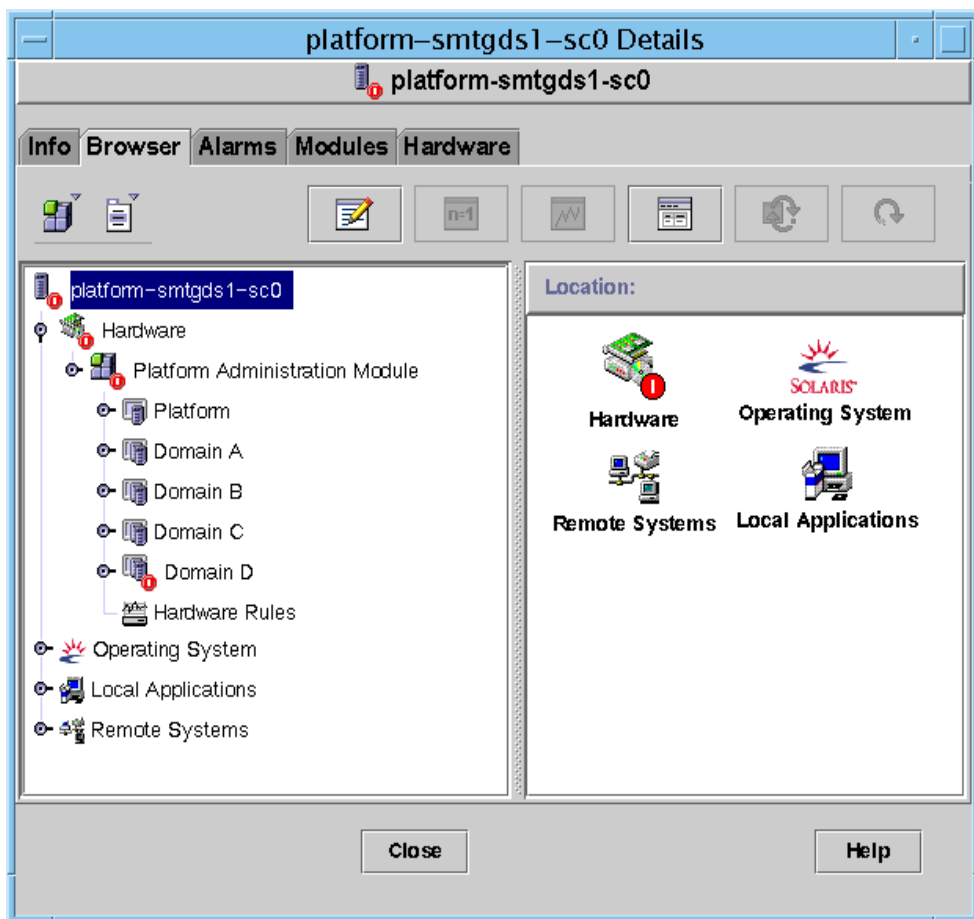


図 1-4 複数のハードウェアドメインからなる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームの詳細表示

図 1-5 は、Sun Fire 6800 システムを表す一般的なアイコンを示しています。その他の種類の Sun Fire システムを表すアイコンには、それぞれ対応するモデル番号が付いています。



プラットフォームのアイコン ハードウェアドメインのアイコン

図 1-5 一般的な Sun Fire 6800 のアイコン

---

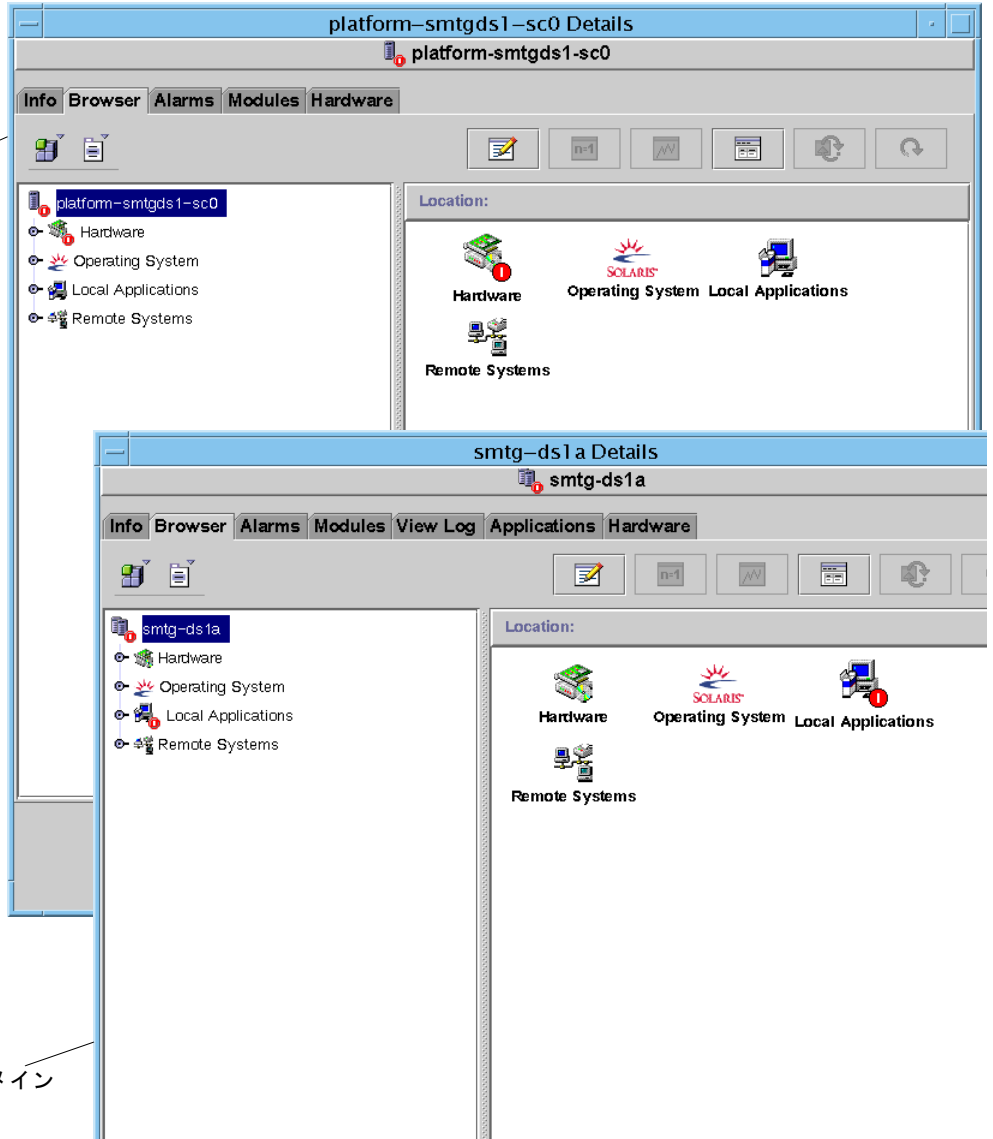
## プラットフォームとハードウェアドメインの区別

はじめに表示したとき、プラットフォームとハードウェアドメインの詳細ウィンドウは非常によく似ています。デフォルトでは、どちらのウィンドウも最初に開くタブは「ブラウザ」タブです。図 1-6 は、一般的なプラットフォームとハードウェアドメインの詳細ウィンドウを比較しています。

- **プラットフォーム**：プラットフォームの詳細ウィンドウであるかどうかは、プラットフォームのアイコン (図 1-6) と 5 つのタブ (情報、ブラウザ、アラーム、モジュール、ハードウェア) があることで見分けることができます。
- **ハードウェアドメイン**：ハードウェアドメインの詳細ウィンドウであるかどうかは、ハードウェアドメインのアイコン (図 1-6) と 7 つのタブがあることで見分けることができます。7 つのタブは、プラットフォーム用の上記の 5 つのタブと「ログ表示」タブ、「アプリケーション」タブです。



プラットフォーム  
詳細ウィンドウ



ハードウェアドメイン  
詳細ウィンドウ

図 1-6 プラットフォームの詳細ウィンドウ (上) とハードウェアドメインの詳細ウィンドウ (下)

---

## このマニュアルで使用している例について

このマニュアルで示す手順や操作の多くは、複数の方法で行うことができます。このマニュアルでは、最も簡単な方法や素早い方法を 1 つだけ紹介しています。

たとえば、メインコンソールウィンドウ (図 1-3) から Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの詳細表示を開く方法は 4 つあります。

- 階層表示 (ウィンドウ内の左側の表示) 内の「Sun Fire 6800/4810/4800/3800」アイコンをクリックして、最上部のバーの「ツール」メニューをクリックし、「詳細」を選択する
- トポロジ表示 (ウィンドウ内の右側の表示) で上記と同じ操作を行う
- 階層表示で「Sun Fire 6800/4810/4800/3800」アイコンをダブルクリックする
- トポロジ表示で「Sun Fire 6800/4810/4800/3800」アイコンをダブルクリックする

同様に、アイコンを開く (または閉じる) 方法も複数あります。図 1-7 で示すように、以下の方法でアイコンを開くことができます。

- 「すべて開く」ボタンをクリックする (ウィンドウによっては、このボタンがないこともあります)
- アイコンの横の開く記号をクリックする
- 階層またはトポロジ表示内のアイコンをダブルクリックする

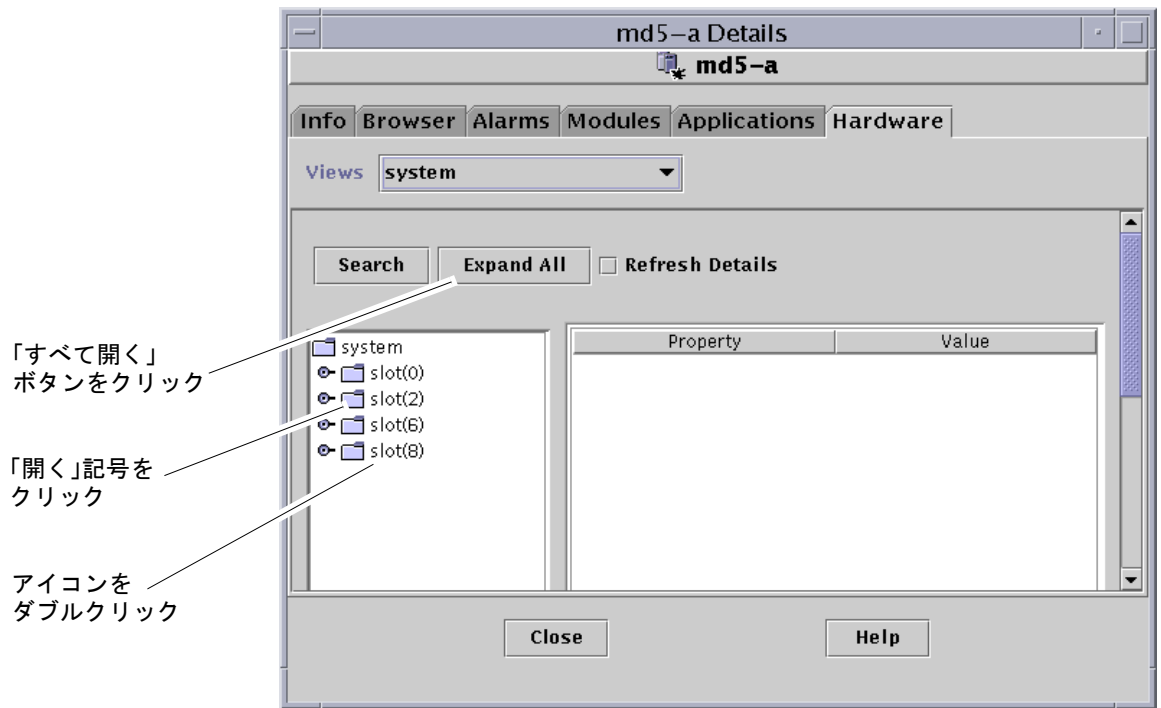


図 1-7 アイコンを開く (または閉じる) 方法



## 第2章

---

# インストールとセットアップ

---

この章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのインストール、セットアップ、アンインストール、起動、および停止の方法について説明します。主要 **Sun Management Center** ソフトウェアのインストール、セットアップ、アンインストール、起動、および停止については、『**Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド**』を参照してください。



---

**注意** – Sun Management Center 3.5 ソフトウェアに付属しているインストールスクリプトとセットアップスクリプトを使用してください。パッケージを手動で追加したり、構成ファイルを手動で変更したりしないでください。

---

Sun Management Center 3.5 のインストールスクリプト、セットアップスクリプト、GUI パネルによって表示されるメッセージの内容および順番が、この章で示す例と異なることがあります。この章で示す例は、実際に表示されるメッセージのおおよその内容と順番を示すためのものです。実際のインストールスクリプトとセットアップスクリプトは、インストールする追加コンポーネントやその他の選択オプションによって異なります。

CLI を使用して機能を実行するにあたっては、173 ページの「CLI による Sun Management Center ソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、起動、停止」を参照してください。

# Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム 専用のパッケージ

表 2-1 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム専用のパッケージとそのパッケージのインストール先ホスト、パッケージが属する基本階層をまとめています。

表 2-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用の Sun Management Center パッケージ

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWesadf	Sun Fire 15K および 6800/4810/4800/3800 システム上の動的再構成用の Sun Management Center エージェントサポート	Sun Fire 6800-3800 プラットフォームマシン	エージェント
SUNWescdf	Sun Fire 15K および 6800/4810/4800/3800 システム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	ネットワーク上の共通の場所にあるワークステーション	コンソール
SUNWessco	Sun Management Center の Sun Fire サポート - サーバーコンポーネント	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWessda	Sun Management Center - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインエージェント	Sun Fire 6800-3800 ドメイン	エージェント
SUNNessdf	Sun Fire 15K および 6800/4810/4800/3800 システム上の動的再構成用の Sun Management Center サーバーサポート	Sun Fire 6800-3800 プラットフォームマシン	エージェント
SUNWesspa	Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームエージェント	Sun Fire 6800-3800 プラットフォームマシン	エージェント
SUNWesspc	Sun Fire プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Fire 6800-3800 プラットフォームマシン	エージェント
SUNWessps	Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームサポート	Sun Fire 6800-3800 プラットフォームマシン	エージェント
SUNWesssd	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン用の Sun Management Center サーバー	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWessdc	Sun Management Center の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン管理	Sun Fire 6800-3800 ドメイン	エージェント
SUNWedacs	サーバーおよびエージェント用の Sun Management Center Sun Fire 6800-3800 ドメイン管理モジュールの設定	Sun Management Center サーバーマシンと Sun Fire 6800-3800 ドメイン	サーバー エージェント

表 2-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWesscp	Sun Management Center の Sun Fire サポート - プラットフォーム管理モジュール用のサーバーコンポーネント	Sun Management Center サーバー	サーバー
SUNWesccp	Sun Management Center の Sun Fire サポート - プラットフォーム管理モジュール用のコンソールコンポーネント	コンソール	コンソール
SUNWesccd	Sun Management Center の Sun Fire サポート - 動的再構成用のコンソールコンポーネント	コンソール	コンソール
SUNWcessc	簡体字中国語の Sun Management Center の Sun Fire サポート - サーバーコンポーネント	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWcesso	簡体字中国語の Sun Fire 6800-3800 ドメイン用の Sun Management Center サーバー	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWcssda	簡体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェント	Sun Fire 6800-3800 ドメイン	エージェント
SUNWcescd	簡体字中国語の Sun Fire 6800-3800 システム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとエージェント
SUNWcssd	簡体字中国語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center サーバーサポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWcessd	簡体字中国語の Sun Fire プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWcessp	簡体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWcsspa	簡体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームエージェント	Sun Fire 6800-3800 プラットフォーム	エージェント
SUNWfessc	フランス語の Sun Management Center の Sun Fire サポート - サーバーコンポーネント	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWfesso	フランス語の Sun Fire 6800-3800 ドメイン用の Sun Management Center サーバー	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWfssda	フランス語の Sun Management Center - Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェント	Sun Fire 6800-3800 ドメイン	エージェント
SUNWfescd	フランス語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWfssd	フランス語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center サーバーサポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー

表 2-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWfessd	フランス語の Sun Fire プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWfessp	フランス語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWfesspa	フランス語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームエージェント	Sun Fire 6800-3800 プラットフォーム	エージェント
SUNWhessc	繁体字中国語の Sun Management Center の Sun Fire サポート - サーバークンポーネント	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWhesso	繁体字中国語の Sun Fire 6800-3800 ドメイン用の Sun Management Center サーバー	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWhssda	繁体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェント	Sun Fire 6800-3800 ドメイン	エージェント
SUNWhesscd	繁体字中国語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWhssd	繁体字中国語用の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center サーバースポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWhessd	繁体字中国語の Sun Fire プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWhessp	繁体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWhesspa	繁体字中国語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームエージェント	Sun Fire 6800-3800 プラットフォーム	エージェント
SUNWjessc	日本語の Sun Management Center の Sun Fire サポート - サーバークンポーネント	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWjesso	日本語の Sun Fire 6800-3800 ドメイン用の Sun Management Center サーバー	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWjssda	日本語の Sun Management Center - Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェント	Sun Fire 6800-3800 ドメイン	エージェント
SUNWjesscd	日本語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWjssd	日本語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center サーバースポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー



表 2-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用の Sun Management Center パッケージ (続き)

パッケージ	説明	ホスト	階層
SUNWjessd	日本語の Sun Fire プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWjessp	日本語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWjsspa	日本語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームエージェント	Sun Fire 6800-3800 プラットフォーム	エージェント
SUNWkessc	韓国語の Sun Management Center の Sun Fire サポート - サーバークンポーネント	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWkesso	韓国語の Sun Fire 6800-3800 ドメイン用の Sun Management Center サーバー	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWkssda	韓国語の Sun Management Center - Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェント	Sun Fire 6800-3800 ドメイン	エージェント
SUNWkescd	韓国語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center コンソールサポート	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWkssd	韓国語の Sun Fire 15K-3800 システムプラットフォーム上の動的再構成用の Sun Management Center サーバースポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWkessd	韓国語の Sun Fire プラットフォーム管理用の Sun Management Center コンソール	Sun Management Center サーバーマシンとコンソールマシン	サーバーとコンソール
SUNWkessp	韓国語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームサポート	Sun Management Center サーバーマシン	サーバー
SUNWksspa	韓国語の Sun Management Center - Sun Fire プラットフォームエージェント	Sun Fire 6800-3800 プラットフォーム	エージェント

注 - これらのパッケージは pkgadd を使用してインストールしないでください。インストールスクリプトを使用してください。

# Sun Management Center の主な機能と対応する節

Sun Management Center 3.5 ソフトウェアでは、主にウィザードや CLI を使用して、さまざまな方法でインストール、セットアップ、アンインストール、更新を行うことができます。使用する機能によっては、いくつかの手順が必要なものもあります。表 2-2 は、さまざまな作業手順と、説明個所の参照先を示しています。

表 2-2 インストール前、インストール、セットアップ、アンインストール、アップグレード、インストール後の作業手順

行う作業	説明している場所
SC のフェイルオーバーの有効と論理 IP アドレスの検出	17 ページの「SC のフェイルオーバー機能の有効化」
システムコントローラ上の SNMP の設定	18 ページの「システムコントローラ上の SNMP の設定」
Sun Management Center 3.5 のインストールウィザードによるソフトウェアのインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照。
セットアップウィザードによる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのセットアップ	23 ページの「セットアップウィザードによる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのセットアップ」 37 ページの「ウィザードの高度なセットアップオプションの使用」
エージェント更新による複数ホストの更新	38 ページの「「エージェント更新」による複数ホストの更新」
プラットフォームエージェントの作成と設定	44 ページの「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームエージェントのインスタンスの作成と設定」
起動ウィザードによるソフトウェアの起動	47 ページの「起動ウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアの起動」
停止ウィザードによるソフトウェアの停止	48 ページの「停止ウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアの停止」
アンインストールウィザードによるソフトウェアのアンインストール	48 ページの「アンインストールウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアのアンインストール」
ユーザーの割り当て	48 ページの「グループへのユーザーの割り当て」
設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除	49 ページの「設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除」
ドメインの設定	51 ページの「ドメインの設定」
CLI による Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアのインストール	『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照。

表 2-2 インストール前、インストール、セットアップ、アンインストール、アップグレード、インストール後の作業手順 (続き)

行う作業	説明している場所
CLI による Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加パッケージのインストール	173 ページの「CLI を使用して補助ソフトウェアをインストールする」
CLI による Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加パッケージの設定	184 ページの「CLI によるソフトウェアの設定」
CLI による Sun Management Center ソフトウェアの 1 つ以上のモジュールまたはソフトウェア全体のアンインストール	186 ページの「CLI によるソフトウェアのアンインストール」
CLI による ソフトウェアの起動	190 ページの「Sun Management Center コンポーネントの起動」
CLI による ソフトウェアの停止	191 ページの「Sun Management Center コンポーネントの停止」

## SC のフェイルオーバー機能の有効化

SC のフェイルオーバー機能を使用する場合は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのインストールとセットアップの前に、以下のことを行う必要があります。

- SC のフェイルオーバー機能を有効にする
- 物理 IP アドレスで一方の SC だけを参照するのではなく、両方の SC を参照する論理 IP アドレスを作成する

**注** – 追加ソフトウェアのセットアップ中に SC の物理 IP アドレスを使用すると、追加ソフトウェアは、フェイルオーバーが発生したときに、そのときのメイン SC と通信できなくなります。メイン SC がどちらの SC であっても、追加ソフトウェアがメイン SC と通信できるようにするには、両方の SC を参照する論理 IP アドレスを作成する必要があります。

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアの設定では、作成した論理 IP アドレスを使用する必要があります。

## ▼ SC のフェイルオーバー機能を有効にして論理 IP アドレスを作成する

1. 両方の SC と同じサブネットアドレスから始まる未使用の IP アドレスを選択します。

たとえば、一方の SC の物理 IP アドレスが 129.146.235.14 で、もう一方の SC の物理 IP アドレスが 129.146.235.41 の場合、論理 IP アドレスは 129.146.235.xxx になります。xxx は、そのサブネット内の未使用 IP アドレスです。手順 2 の例では、論理 IP アドレスとして 129.146.235.251 が使用されています。

2. SC から以下のコマンドを使用して、SC 用の論理 IP アドレスを設定します。

```
schostrname:SC> setupplatform -p sc
```

以下のメッセージが表示されます。

```
SC
--
SC POST diag Level [off]:
Enable SC Failover? [no]:
Logical Hostname or IP Address []:
```

3. yes と入力して、SC のフェイルオーバーを有効にします。
4. 手順 1 で選択した論理 IP アドレスを入力します (この例では 129.146.235.251)。
5. この論理 IP アドレスを使用して、es-setup または es-guisetup の実行中にプラットフォームエージェントを設定します。

---

## システムコントローラ上の SNMP の設定

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのインストールと、セットアップの前に、プラットフォームおよびドメイン上で SNMP を設定する必要があります。この節では、これらの手順を説明します。この 2 つの手順は両方とも必要です。

- プラットフォーム上の SNMP の設定
- ドメイン上の SNMP の設定

## ▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する

注 – 複数のプラットフォーム管理エージェントが、同じ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラを管理するような設定はしないでください。システムの動作が遅くなったり、場合によってはハングアップしたりします。

1. コード例 2-1 で示すように、スーパーユーザーで `telnet(1)` コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします。

コード例 2-1 `telnet` でシステムコントローラにアクセスして、プラットフォームのシェルに入る

```
# telnet schostname
System Controller schostname:SC>

Type 0 for Platform Shell

Type 1 for domain A
Type 2 for domain B
Type 3 for domain C
Type 4 for domain D

Input: 0
schostname:SC>
```

この場合、`schostname` は、システムコントローラのホスト名です。

2. コード例 2-1 に示すように、システムコントローラのメインメニューで、0 (または P か p) を入力して、プラットフォームのシェルに入ります。  
プラットフォームのシェルプロンプトの `schostname :SC` が表示されます。
3. コード例 2-2 に示すように、`setupplatform -p snmp` と入力して、質問に答えていきます。

コード例 2-2 プラットフォーム上の SNMP エージェントの設定

```
schostname:SC> setupplatform -p snmp
SNMP
----
Platform Description [description]: 説明を入力
Platform Contact [contactname]: 連絡先名を入力
Platform Location [location]: プラットフォームの場所を入力
Enable SNMP Agent? [no]: yes を入力
```

コード例 2-2      プラットフォーム上の SNMP エージェントの設定 (続き)

```
Trap Hosts [hostname]: monitoring_machine
Public Community String [string]: 文字列 1 を入力
Private Community String [string]: 文字列 2 を入力
```



**注意** – Trap Host には、プラットフォーム管理モジュールを実行し、そこから Sun Fire 6800/4810/4800/3800 を監視するマシンのホスト名を必ず入力してください。たとえば *monitoring\_machine* が CompA という名前で、他にマシンがある中で *tiger-sc0* というメイン SC を監視すると仮定します。このためには、コード例 2-2 に示すように、*tiger-sc0* で *setupplatform* コマンドを実行し、トラップホストとして **CompA** を入力します。

**注** – プラットフォーム管理モジュールがドメインの状態の変化を監視できるようにするには、20 ページの「ドメイン上の SNMP を設定する」の手順 4 でプラットフォームとドメイン両方のトラップホストを指定する必要があります。

4. CTRL キーを押しながら ] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
5. q を入力して、telnet を終了します。

## ▼ ドメイン上の SNMP を設定する

1. コード例 2-3 で示すように、スーパーユーザーで telnet コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします。

コード例 2-3      telnet でシステムコントローラにアクセスして、ドメインのシェルに入る

```
# telnet schostname
System Controller schostname:SC>

Type 0 for Platform Shell

Type 1 for domain A
Type 2 for domain B
Type 3 for domain C
Type 4 for domain D

Input: 1
schostname:A>
```

この場合、*schostname* は、システムコントローラのホスト名です。コード例 2-3 では、ドメイン A の例を示しています。

2. ドメインに入ります。コード例 2-3 で示すように、1、2、3、4 (または a、b、c、d、A、B、C、D) のいずれかを入力して、適切なドメインのシェルに入ります。  
ドメインのシェルプロンプトの *schostname* :X が表示されます。X は、選択したドメインを表します。
3. ドメインがアクティブで、ドメインのキースイッチが on、diag、secure (Solaris オペレーティングシステムを実行しているか、OpenBoot PROM モードであるか、あるいは POST を実行しているか) の場合は、次の操作を行います。
  - a. CTRL キーを押しながら ] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
  - b. telnet> プロンプトで、send break と入力します。  
コード例 2-3 は、ドメイン A との接続例を示しています。
4. コード例 2-4 に示すように、`setupdomain -p snmp` と入力して、質問に答えていきます。

コード例 2-4          ドメイン上の SNMP エージェントの設定

```
schostname:A> setupdomain -p snmp
SNMP
----
Domain Description [description]: 説明を入力
Domain Contact [contactname]: 連絡先名を入力
Trap Hosts [hostname]: サーバー名を入力
Public Community String [string1]: 文字列 1 を入力
Private Community String [string2]: 文字列 2 を入力
```

Trap Hosts には、プラットフォームの管理元となる Sun Management Center サーバーのホスト名を入力します。

---

**注** – プラットフォーム管理モジュールがドメインの状態の変化を監視できるようにするには、19 ページの「プラットフォーム上の SNMP を設定する」の手順 3 のプラットフォームのトラップホストとドメインのトラップホストの両方をここで指定する必要があります。

---

Public Community String と Private Community String には、ドメインおよびプラットフォームごとに異なる文字列を入力します。

5. `disconnect` と入力して、ドメインのシェルとの接続を終了します。
6. 追加するドメインがある場合は、そのドメインごとに手順 2 ~ 手順 5 を繰り返します。

7. CTRL キーを押しながら ] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
8. q と入力して、telnet を終了します。

---

## インストールウィザードによる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのインストール

この節では、インストールウィザードを使用した、Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアと Sun Fire 6800/4810/4800/3800 追加ソフトウェアのインストールの概要を説明します。ソフトウェア全体のインストール方法の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」を参照してください。

- コンソール、サーバー、エージェント、およびヘルプ階層は、別々にインストールすることも、組み合わせてインストールすることもできます。
- Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントは、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアが動作している任意のマシンにインストールできます。
- Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェントは、Sun Fire 6800-3800 ドメインにのみインストールできます。

## Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールの概要

1. 『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」で説明しているように、スーパーユーザーで es-guiinst スクリプトを実行します。
2. 主要ソフトウェアをインストールすると、インストール対象を選択できる追加製品の一覧からなる「アドオン製品の選択」画面が表示されます。Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムに適用する追加製品を選択して、「次へ」をクリックします。
3. すべてのソフトウェアをインストールすると、Sun Management Center のセットアップウィザードが自動的に起動します。



---

# セットアップウィザードによる Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用追加ソフトウェアのセットアップ

この節では、Sun Management Center のセットアップウィザードを使用して Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムでプラットフォームエージェントやドメインエージェントをセットアップする方法を説明します。ソフトウェア全体の設定作業の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 6 章「Sun Management Center 3.5 のインストールと設定」を参照してください。

---

注 – パネルの下部にある「戻る」ボタンが有効な場合 (ボタンがグレー表示されていない場合)、ボタンをクリックして直前の操作に戻ることができます。「戻る」ボタンがグレー表示されている場合、ボタンは無効で、直前の操作に戻ることができません。

---

---

注 – Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアのセットアップ中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

---

## ▼ セットアップウィザードを使用してプラットフォームエージェントをセットアップする

Sun Fire 6800-3800 プラットフォームのセットアップは、プラットフォームエージェントをインストールしたマシン上で行います。

1. プラットフォームエージェントがインストールされているマシン上で `es-guisetup` と入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center の主要ソフトウェアのセットアップが完了すると、ウィザードによって次のメッセージが表示されます。

Select Add-on Products

The following add-on products are newly installed on this system and will be set up.

- Sun Fire Platform Administration

2. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかの操作をします。

- サーバーマシンでプラットフォームエージェントを設定しない場合は、手順 4 に進みます。
- サーバーマシンでプラットフォームエージェントを設定する場合は、「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

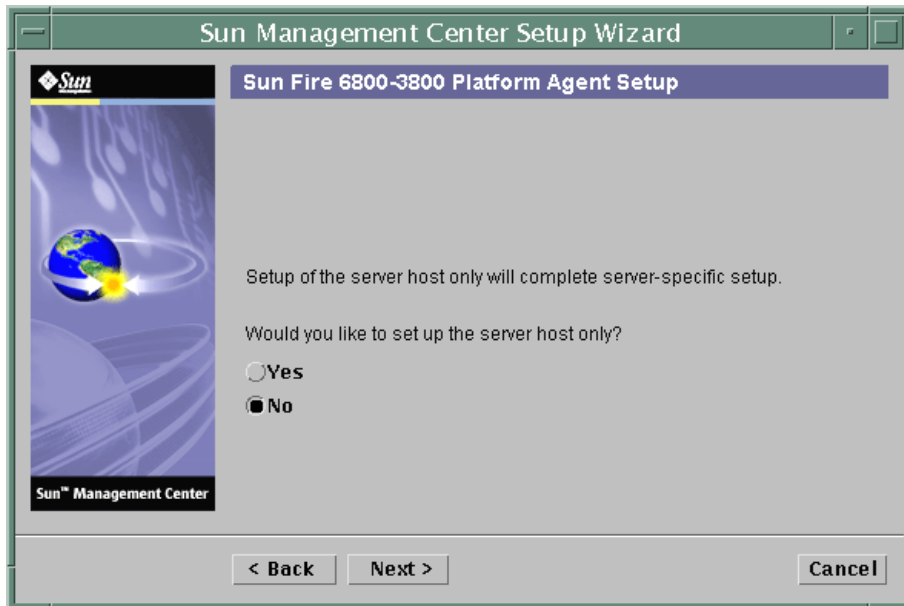


図 2-1 サーバーストだけの問い合わせのパネル

3. 以下のいずれかの操作をします。

- すべてのホストでセットアップする場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックして、手順 4 に進みます。
- サーバーホストだけでセットアップする場合は、「はい」ラジオボタンをクリックします。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。手順 20 に進みます。

```
Setting up server host...

Status:
Setting up server host...
...
Setup of server host complete.
```

4. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
To set up the Sun Fire 6800-3800 platform administration module,
you need to provide SC IP address, community strings, port numbers
for domain agent etc.

Would you like to set up the Sun Fire 6800-3800 platform
administration module?
O Yes
O No
```

5. 以下のいずれかの操作をします。

- プラットフォーム管理モジュールを設定しない場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックして、手順 23 に進みます。
- プラットフォーム管理モジュールを設定する場合は、「はい」ラジオボタンをクリックします。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。



図 2-2 プラットフォーム管理のプラットフォーム構成のパネル

---

注 – プロンプトごとに 1 つずつ値を入力する必要があります。

---

- i. システムコントローラのホスト名または IP アドレスを入力します  
(例 : 10.8.28.209)。



---

**注意** – SC のフェイルオーバー機能を使用する場合は、このフィールドの論理 IP アドレスを入力する必要があります。論理 IP アドレスは、両方の SC が使用できます。物理 IP アドレスは、1 つの SC だけが使用できます。このフィールドに論理 IP アドレスを入力しないで SC のフェイルオーバーが発生すると、sc から応答がないことを示す赤いアラームが生成されます。SC のフェイルオーバーを有効にして論理 IP アドレスを設定する方法については、18 ページの「SC のフェイルオーバー機能を有効にして論理 IP アドレスを作成する」を参照してください。

---

- ii. プラットフォームの読み取りコミュニティ文字列を入力します  
(例 : P-public)。
- iii. プラットフォームの書き込みコミュニティ文字列を入力します  
(例 : P-private)。

6. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

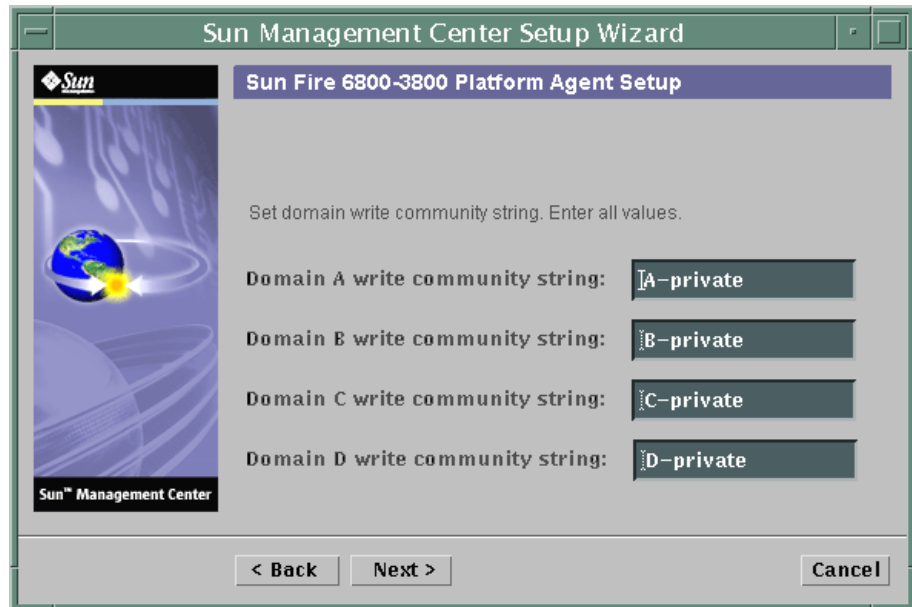


図 2-3 プラットフォーム管理のドメインのコミュニティ構成のパネル

---

注 – ドメインごとに 1 つずつ値を入力する必要があります。

---

- a. ドメイン A の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : A-private)。
  - b. ドメイン B の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : B-private)。
  - c. ドメイン C の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : C-private)。
  - d. ドメイン D の書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : D-private)。
7. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

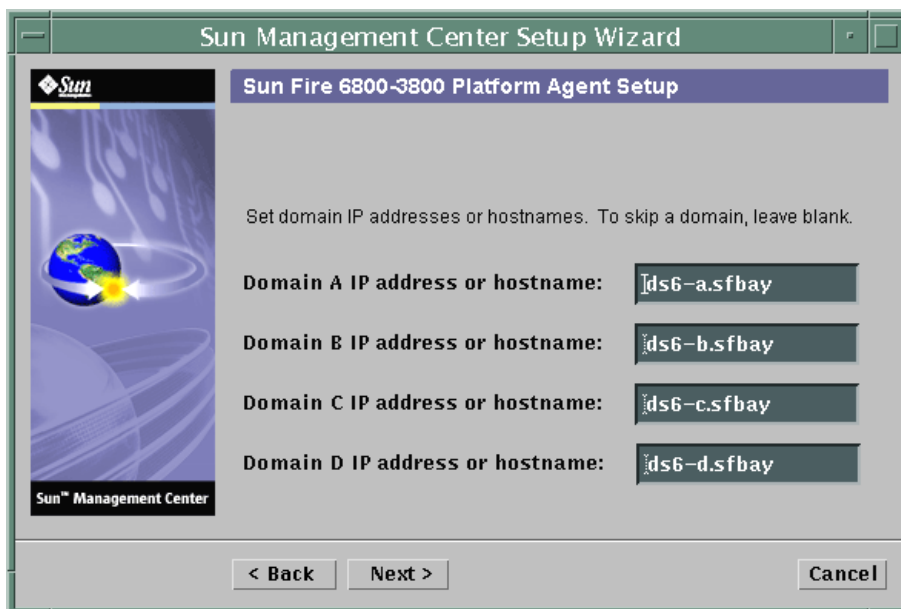


図 2-4 プラットフォーム管理のドメインの IP 構成のパネル

- a. ドメイン A の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。
  - b. ドメイン B の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。
  - c. ドメイン C の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。
  - d. ドメイン D の IP アドレスかホスト名を入力するか、空白のままにします。
8. 「次へ」をクリックして、次に進みます。
- 「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

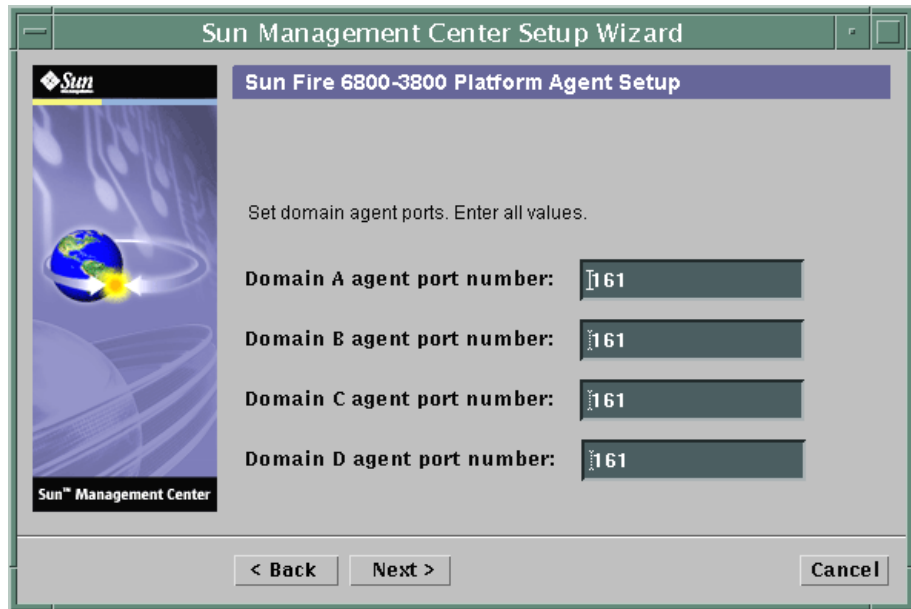


図 2-5 プラットフォーム管理のドメインのポート構成のパネル

---

注 – ドメインごとに 1 つずつ値を入力する必要があります。

---

- a. ドメイン A の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。
- b. ドメイン B の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。
- c. ドメイン C の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。
- d. ドメイン D の Sun Management Center エージェントのポート番号を入力します。

9. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files with platform and domain information.  
  
Status:  
  
Updating configuration files...  
Update of configuration files complete.
```

10. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Setting up server host and chassis model information.  
  
Status:  
  
Setting up server host...  
....  
Setup of server host complete.  
Getting chassis model from system controller...  
Retrieval of chassis model from system controller complete.
```

- シャーシモデルの取得時にエラーがなかった場合は、手順 11 に進みます。
- システムコントローラからのシャーシモデルの取得時にエラーがあった場合は、エラーメッセージが表示されます。

```
Error getting chassis model from system controller.
```

i. 「了解」をクリックします。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Either could not find the chassis model from the SC or the SC  
returned an unknown chassis model. These are the supported model  
types: 3800, 4800, 4810, and 6800. The chassis model needs to be  
one of these models.
```

```
Chassis model:
```



- ii. シャーシモデルとして、3800、4800、4810、6800 のうちの適切なモデルを入力します。

11. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Checking configuration files...

Status:

Set the platform server: <hostname> or <IPaddress>
platform.snmpPort: 166
Default platform agent port: 166
Checking of configuration files complete.
```

12. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかの状態になります。

- デフォルトのポート番号を以前に設定した場合、デフォルトポートのパネルは表示されません。手順 14 に進みます。
- デフォルトのポート番号が設定されていない場合は、「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

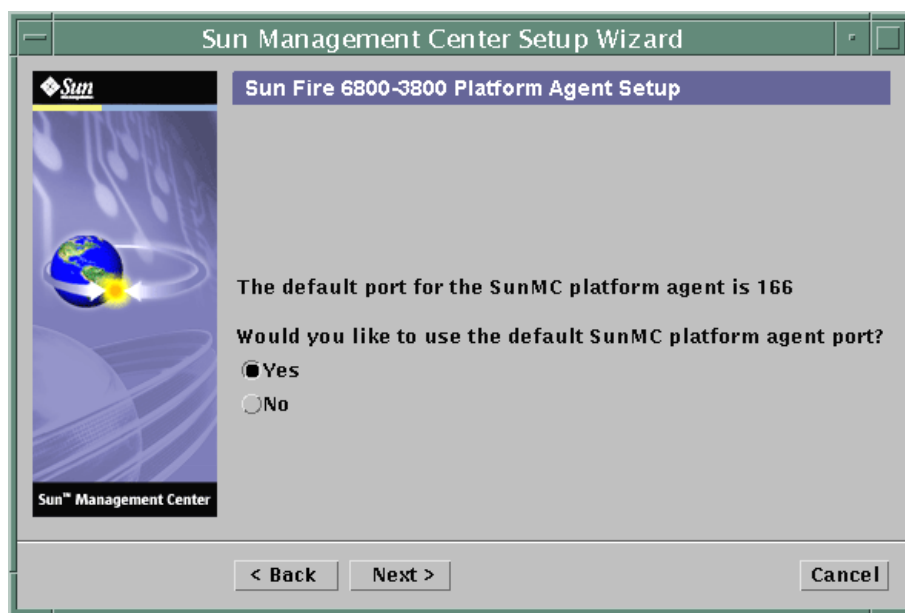


図 2-6 プラットフォーム管理のプラットフォームのデフォルトポートのパネル

13. 以下のいずれかの操作をします。

- デフォルトの Sun Management Center プラットフォームエージェントポートを使用する場合は、「はい」ラジオボタンをクリックします。
- デフォルトの Sun Management Center プラットフォームエージェントポートを使用しない場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックします。

14. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Set the platform agent port.  
  
Platform agent port number: 166
```

以下のいずれかの状態になります。

- 「はい」をクリックしてデフォルトのポートを使用した場合は、プラットフォームのエージェントポート番号にデフォルトのエージェントポート番号が表示されます。
- 「いいえ」をクリックしてデフォルトのポートを使用しなかった場合は、自分で入力できるよう、プラットフォームのエージェントポート番号の部分が空白になります。
  - 使用するエージェントポート番号を入力します。

15. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかの状態になります。

- 警告メッセージが返されなかった場合は、手順 22 に進みます。
- デフォルトのポートが使用されている場合は、「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次の警告メッセージが表示されます。

```
Warning, platform agent port 166 is currently in use. Pick a  
different port, or ensure that this port is available when you next  
start Sun Management Center.  
Would you still like to use this port?  
Yes No
```

16. 以下のいずれかの操作をします。

- デフォルトのポートを使用しない場合は、「いいえ」をクリックして手順 14 に進みます。
- デフォルトのポートをそのまま使用する場合は、「はい」をクリックします。

17. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかの状態になります。

- ポートの衝突がなかった場合は、「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Confirmation of the platform agent port.
```

```
Platform agent port: 166
```

- ポートの衝突があった場合は、「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Confirmation of the platform agent port.
```

```
Platform agent port: 166
```

```
Remember to resolve the port conflict prior to starting Sun  
Management Center.
```

18. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

以下のいずれかの状態になります。

- プラットフォームのエージェントポート番号を変更しなかった場合、セキュリティーキーに関するメッセージは表示されません。手順 22 に進んでください。
- プラットフォームのエージェントポート番号を変更した場合は、「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。



図 2-7 プラットフォーム管理のセキュリティーキー生成パネル

19. 以下のいずれかの操作をします。

- セキュリティーキーをすぐに再生成する場合は、「はい」ラジオボタンをクリックして手順 22 に進みます。
- セキュリティーキーをすぐに再生成しない場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックします。

図 2-7 に示すような「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルが表示されます。

20. 以下のいずれかの操作をします。

- セキュリティーキーをすぐに再生成する場合は、「はい」ラジオボタンをクリックして、手順 21 に進みます。
- セキュリティーキーをすぐに再生成しない場合は、「いいえ」ラジオボタンをクリックして、手順 22 に進みます。

21. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
This part of setup generates security keys used for communications
between processes. A seed must be provided to initialize the keys.
Make sure you use the same seed for all the machines you install.
You may like to keep record of this seed for future use.

Seed:

Seed: (Re-enter seed to confirm.)
```

---

注 – シードのパスワードは必ず安全な場所に保管してください。Sun Management Center のインストール内容に変更を加えた場合に必要になります。

---

- a. 初めてインストールした場合は、一意のシードのパスワードを入力します。初めてのインストールでない場合は、以前のバージョンの Sun Management Center で使用したのと同じシードを入力します。
- b. 確認のためにシードを再度入力します。

22. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files with module and discover table
information...

Status:

Added module....
Added module....
Updated Discovery Table....
Update of configuration files complete.
```

23. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire 6800-3800 Platform Admin setup is complete.
```

24. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 プラットフォームエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
The following products have been set up:
```

- Sun Fire Platform Administration

```
Click Next to invoke the Start Wizard now to the various Sun Management Center components.
```

## ▼ セットアップウィザードを使用してドメインエージェントをセットアップする

Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェントのセットアップは、ドメインエージェントをインストールしたマシン上で行います。

1. ドメインエージェントがインストールされているマシン上で `es-guisetup` と入力して、Sun Management Center のセットアップウィザードを起動します。

Sun Management Center の主要ソフトウェアのセットアップが完了すると、ウィザードによって次のメッセージが表示されます。

```
Click Next to set up the following products:  
Sun Fire Domain Administration
```

2. 「次へ」をクリックして、ドメインエージェントの設定を開始します。

「Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Updating configuration files...
```

```
Status:
```

```
Updating configuration files...
```

```
Update of configuration files complete.
```

3. 「次へ」をクリックして、次に進みます。

「Sun Fire 6800-3800 ドメインエージェントの設定」パネルに次のメッセージが表示されます。

```
Sun Fire 6800-3800 Domain Agent setup is complete.
```

---

## ウィザードの高度なセットアップオプションの使用

Sun Management Center がインストールされると、Sun Management Center のセットアップウィザードによって、高度なオプションが設定できるようになります。

---

**注** – 現時点では、「セットアップ構成の削除」を使用せず、「すべてを再構成」を使用してください。

---

- **すべてを再構成** - すべてのセットアップ情報を削除して、ただちにセットアップウィザードを実行します。
- **アドオンの構成** - 追加製品のセットアップだけを行います。
- **Sun Management Center データベースの再作成 (サーバーのみ)** - データベースを再作成します。すべてのデータのクリアか、データ保存および再作成したデータベース内での使用のいずれかを選択できます。
- **セットアップ構成の削除** - インストールした **Sun Management Center** をインストール後の設定前の状態に戻します。すべてのセットアップ情報およびデータベース情報が削除されます。セットアップウィザードを再実行する前に他の作業を行いたい場合に選択します。

これらのオプションの使用の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。

---

# 「エージェント更新」による複数ホストの更新

この節では、エージェント更新を使用して一度に複数のホストを更新する方法を説明します。このエージェント更新プロセスは、Sun Management Center サーバーマシンで実行する必要があります。また、更新対象のすべてのホスト上で Sun Management Center 3.5 エージェントを動作させておく必要があります。

## エージェント更新プロセスを起動する前に

エージェント更新を使用して Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを完全にインストールして設定するには、Sun Management Center サーバーマシンでエージェント更新プロセスを実行する前に、更新対象のホスト上のモジュール用のエージェント更新用構成ファイルを作成しておく必要があります。

---

注 – Sun Management Center 3.5 主要ソフトウェアの設定中に `setup-responses-file` を使用して、現在のマシンの設定の複製を他のマシン上に作成する場合は、必ず「セットアップ応答データの保存」をクリックします。これで、自分の行ったすべての応答が、`/var/opt/SUNWsymon/install/setup-responses-file` に保存されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「Solaris プラットフォーム上のベース製品とアドオンの設定」を参照してください。

---

## ▼ 更新対象のホスト上でエージェント更新用構成ファイルを作成する

1. 更新対象のホストに Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールがインストールされていることを確認します。
2. `es-setup` スクリプトまたは `es-guisetup` スクリプトを使用して、更新対象のホスト上で Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールがセットアップされていることを確認します。

この確認作業を行うと、最初に提供されたホスト別の情報を利用した、エージェント更新による以降のプラットフォーム管理のセットアップ処理が自動的に機能します。



## エージェント更新プロセスの使用

エージェント更新では、目的のマシンに配布する追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成し、「ジョブの管理」タスクリストに新しいジョブを追加します。

## エージェント更新でサポートされる構成

エージェント更新を使用して、以下の構成を更新できます。

- 39 ページの「Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する」
- 43 ページの「追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する」

### ▼ Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアが存在する構成の更新にのみ使用できます。

1. `es-gui-imagetool` または `es-imagetool` (基本 Sun Management Center スクリプト) を使用して、目的のエージェントマシンに配布する、適切な Sun Fire 6800-3800 追加コンポーネントからなるイメージファイルを作成します。

GUI または CLI 形式のイメージツールの使用方法の詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 8 章「Sun Management Center のインストール後の作業」を参照してください。

2. Sun Management Center メインコンソールウィンドウの「ツール」メニューから「ジョブの管理...」オプションを選択します。

「ジョブの管理」パネル(図 2-8)が表示されます。このパネルからイメージファイルを配布できます。

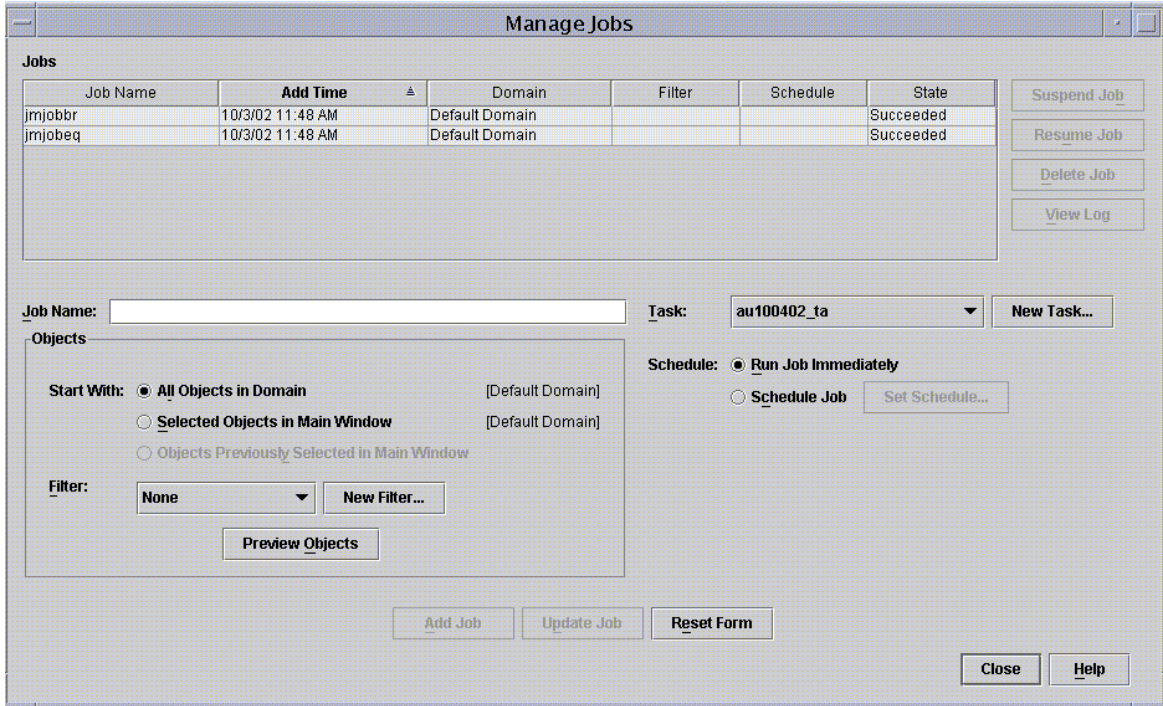


図 2-8 「ジョブの管理」パネル

3. 「ジョブの管理」パネルで「新しいタスク...」ボタンを選択します。

「新しいタスク」パネル(図 2-9)が表示されます。このパネルで、配布するエージェント更新イメージファイルを指定できます。

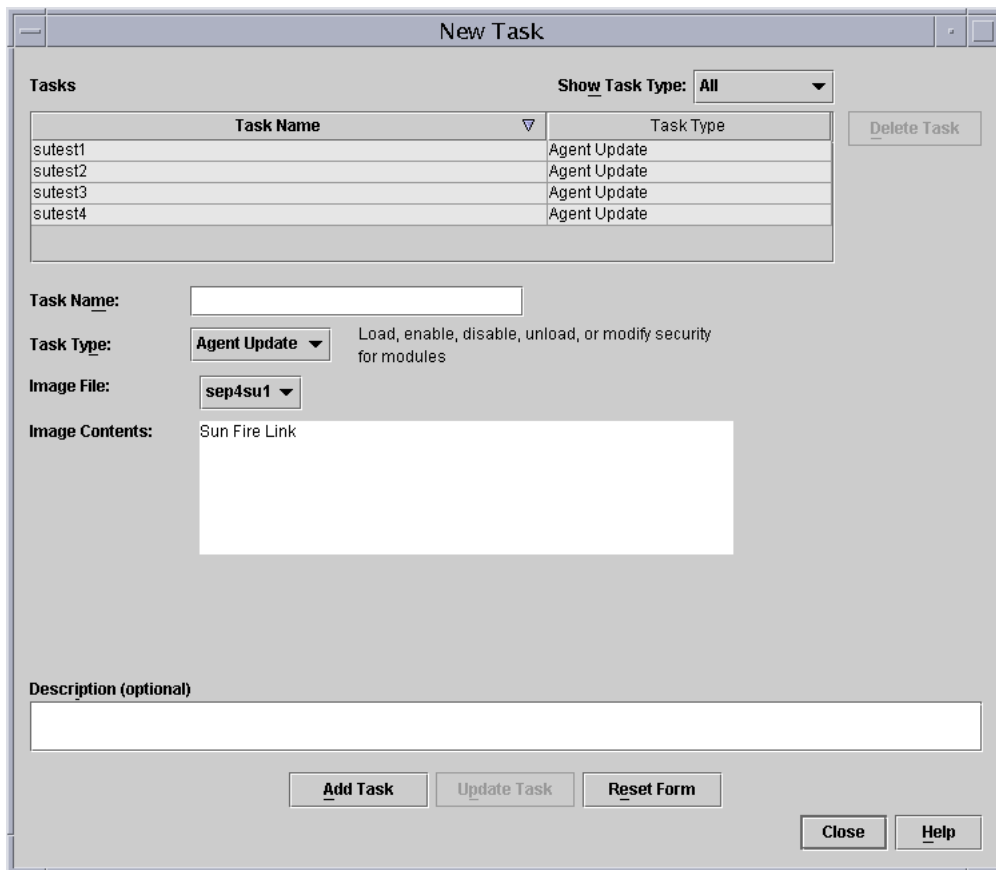


図 2-9 「新しいタスク」パネル

4. 「新しいタスク」パネル (図 2-9) で、以下のことを行います。
  - a. 「タスクタイプ」で「エージェント更新」を選択します。
  - b. 手順 1 で作成したイメージファイルを選択します。
  - c. タスク名を入力します。
  - d. 「タスクの追加」ボタンをクリックします。
  - e. 「閉じる」ボタンをクリックします。
5. 「ジョブの管理」パネル (図 2-8) で、以下のことを行います。
  - a. ジョブ名を入力します。
  - b. 手順 4 で作成したタスクを選択します。

c. 以下のいずれかを行って、タスクの実行予定を作成します。

- タスクをただちに実行する場合は、「すぐに実行」ラジオボタンをクリックします。
- タスクの実行予定を作成する場合は、「ジョブスケジュール」ラジオボタンをクリックして、実行時期を設定します。

---

**注** – イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択する前に、すべてのエージェントマシンを含むグループオブジェクトを作成できます。これにより、1 つずつエージェントマシンを選択する必要はなくなります。オブジェクトグループの作成についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の第 3 章「オブジェクトの作成」を参照してください。

---

d. 以下のいずれかを行って、イメージファイルの配布先のオブジェクト (エージェントマシン) を選択します。

- 「ドメイン内のすべてのオブジェクト」ボタンをクリックして、オブジェクトをさらに選別するためのフィルタを指定します。
- 「メインウィンドウ内の選択オブジェクト」ボタンをクリックして、オブジェクトを 1 つずつ選択します。

e. 選択したオブジェクト (エージェントマシン) を確認し、選択内容に誤りがあれば、やり直します。

f. 「ジョブの管理」ボタンをクリックします。

ジョブが開始され、選択されたオブジェクト (エージェントマシン) にイメージファイルが配布されます。ジョブの実行中は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストに、ジョブが実行中であることが表示されます。ジョブのステータスとして、ジョブの実行中と完了が示されます。

---

**注** – 複数ホストの更新中に、あるホストで問題が発生すると、他の大部分のホストが正常に更新されたとしても、ステータスとして「Failed (失敗)」が返されます。その場合は、「ジョブの管理」パネルの「ジョブ」リストの右側の「ログ表示」をクリックして、成功した更新と失敗した更新の一覧を参照してください。エージェント更新が成功した場合、Sun Management Center エージェントは自動的に再起動します。Sun Management Center コンソールの目的のホストごとのホストの詳細ウィンドウを開き、適切なモジュールが存在し、動作しているかを確認できます。

---

## ▼ 追加ソフトウェアが存在しない、または Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成を更新する

この手順は、以下のいずれかの構成の場合に行います。

- 追加ソフトウェアが存在しない構成から Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアへの更新
  - Sun Management Center 3.0 Platform Update 4 追加ソフトウェアが存在する構成から Sun Management Center 3.5 追加ソフトウェアへの更新
1. Sun Management Center サーバマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。
  2. イメージツールのいずれかを使用してエージェント更新イメージを作成します。
    - `es-gui-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「GUI イメージツールを使用する」の手順に従います。
    - `es-imagetool` を使用してエージェント更新イメージを作成するには、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の「コマンド行イメージツールを使用する」の手順に従います。
  3. 各更新対象マシンのルートディレクトリに  
`/opt/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` ファイルをダウンロードします。  
  
`/opt` 以外のディレクトリに Sun Management Center をインストールしている場合は、`/installldir/SUNWsymon/base/bin/agent-update.bin` をダウンロードします。`installldir` はユーザー指定のインストールディレクトリです。
  4. 更新対象のマシン上でスーパーユーザーとしてログインします。
  5. ダウンロードした `agent-update.bin` が存在するディレクトリに移動します。
  6. `./agent-update.bin -s server -r http-port -p image-name` と入力します。
    - `server` は手順 1 でログインしたサーバーです。
    - `http-port` は Sun Management Center Web サーバーポートです。
    - `image-name` は手順 2 で作成したエージェント専用イメージの名前です。
  7. セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティー文字列を指定します。  
エージェント更新プロセスは、セキュリティーシードおよび SNMPv1 コミュニティー文字列を入力するよう求めます。
    - セキュリティーシードは、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定したのと同じシードである必要があります。

- SNMPv1 コミュニティー文字列は、Sun Management Center サーバーおよびエージェントの設定で指定した文字列と同じである必要があります。

上記以外の情報を入力する必要はありません。更新プロセスがマシンに更新イメージを適用します。

更新プロセスが完了したら、サーバーホスト上のログファイル `/var/opt/SUNWsymon/log/agent-update.log` を表示して、更新状態を確認します。

---

注 – プラットフォームエージェントを設定するには、`./es-setup -F` を再実行する必要があります。

---

## Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームエージェントのインスタンスの作成と設定

デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1 つの Sun Fire 6800/4810/4800/380 システムを監視できます。複数の Sun Fire 6800/4810/4800/380 システムを監視するには、プラットフォームエージェントのインスタンスをそれぞれ 1 つずつ追加作成する必要があります。

### ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する

1. `su` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。

3. `es-platform` スクリプトを実行します。

```
# ./es-platform -a instanceName
```

`instanceName` は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

このスクリプトにより、新しいプラットフォームのポート番号とセキュリティーシードの入力を求められます。**Sun Management Center** の設定でデフォルト以外のシードを使用した場合は、このエージェントに対して、そのシードを指定してください。

4. このインスタンスを設定するには、46 ページの「新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する」の手順 3 に進みます。

## ▼ 複数のプラットフォームエージェントのインスタンスを作成する

1. `su` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。

3. `es-platform` スクリプトを実行します。

```
# ./es-platform -a instanceName
```

`instanceName` は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

新しいプラットフォームエージェントのポート番号の入力が求められます。

- a. これまでに使用されていない新しいポート番号を入力します。

---

**注** – このインスタンスを設定するときや、Sun Management Center コンソールでこのプラットフォームインスタンスオブジェクトを作成するときは、必ずこのポート番号を使用してください。

---

セキュリティーシードの入力が求められます。

- b. Sun Management Center の設定でデフォルト以外のシードを使用した場合は、このエージェントに対して、そのシードを指定してください。
4. Sun Management Center エージェントプロセスを停止します。

```
# ./es-stop -A
```

5. このインスタンスを設定するには、46 ページの「新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する」の手順 3 に進みます。

## ▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

---

**注** – 手順 3 を行う前に、必ず Sun Management Center エージェント階層を停止しておいてください。エージェント階層を停止するには、コマンド `/opt/SUNWsymon/sbin/es-stop -a` を実行します。

---

3. 以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh -I instanceName
```

*instanceName* は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

`es-setup.sh` スクリプトから以下の情報の入力が必要になります。

- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が求められます。



- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号  
上記の設定で提供した情報を変更するには、このスクリプトを再実行します。
- 4. プラットフォームインスタンスを起動するには、47 ページの「プラットフォームインスタンスを起動する」に進みます。

## ▼ プラットフォームインスタンスを起動する

プラットフォームインスタンスを設定すると、そのインスタンスを起動できます。

- プラットフォームインスタンスを起動するには、以下を入力します。

```
# ./es-start -y instanceName
```

## ▼ プラットフォームインスタンスを停止する

- プラットフォームインスタンスを停止する必要がある場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -y instanceName
```

設定の取り消し方法およびプラットフォームエージェントの削除方法については、49 ページの「設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除」を参照してください。

---

# 起動ウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアの起動

es-guistart スクリプトの起動ウィザードを使用して、Sun Management Center ソフトウェアを起動できます。オプションや使用方法についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 7 章「Sun Management Center の起動と停止」を参照してください。

---

## 停止ウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアの停止

es-guistop スクリプトの停止ウィザードを使用して、Sun Management Center ソフトウェアを停止できます。オプションや使用方法についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 7 章「Sun Management Center 起動と停止」を参照してください。

---

## アンインストールウィザードによる Sun Management Center ソフトウェアのアンインストール

es-guiuninst スクリプトのアンインストールウィザードを使用して、Sun Management Center ソフトウェアをアンインストールできます。オプションや使用方法についての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』の第 5 章「Sun Management Center の旧バージョンのアンインストール」を参照してください。

---

## グループへのユーザーの割り当て

この節では、管理者やオペレータグループにユーザーを割り当てることによって、担当する操作を行うために必要なアクセス権をユーザーに付与する方法を説明します。

### ▼ 管理者およびオペレータグループにユーザーを割り当てる

ユーザー名が esusers ファイルに登録されていない場合、そのユーザーは Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムにログオンし、ドメイン管理エージェントに対して読み取り専用でアクセスできます。プラットフォームエージェントの下でプラットフォームまたはドメイン情報の読み取りと書き込みを行うには、サーバー上の group にもユーザー名が登録されている必要があります。

この設定手順では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 サーバマシン上に最大 10 個のグループを作成できます。それらのグループは次のとおりです。

表 2-3 ユーザーグループ

グループ名	ユーザーカテゴリ	アクセスのタイプ
spltadm	管理者	プラットフォーム
sdaadm	管理者	ドメイン A
sdbaadm	管理者	ドメイン B
sdcadm	管理者	ドメイン C
sddadm	管理者	ドメイン D
spltop	オペレータ	プラットフォーム
sdaop	オペレータ	ドメイン A
sdbop	オペレータ	ドメイン B
sdcop	オペレータ	ドメイン C
sddop	オペレータ	ドメイン D

1. `su` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `/etc/group` ファイル内の適切なグループに各ユーザーを追加します。
  - a. Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームの管理者がプラットフォームエージェントのプラットフォーム表示を使用してプラットフォームを管理できるようにするには、その管理者を `spltadm` に追加します。
  - b. Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの管理者は、適切なドメイン管理者グループに追加します。

たとえば、`sdaadm` にドメイン管理者を追加すると、プラットフォームを使用してドメインを管理できるようになります。
3. `/var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers` ファイルに各ユーザーを追加します。

## 設定の取り消しとプラットフォームエージェントの削除

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視する必要がなくなった場合は、対応するプラットフォームエージェントまたはインスタンスの設定を取り消し、削除することで、システムリソースを節約できます。

## ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のデフォルトのプラットフォーム管理モジュールの設定を取り消す

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。  
たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。
3. 以下のように入力して、デフォルトのプラットフォームエージェントの設定を取り消します。

```
# ./es-setup.sh -u
```

## ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理インスタンスの設定を取り消す

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。  
たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin ディレクトリに移動します。
3. 以下のように入力して、特定のプラットフォームエージェントのインスタンス設定を取り消します。

```
# ./es-setup.sh -u -I instanceName
```

---

注 – 設定を取り消すと、対応する Sun Management Center エージェントが停止します。

---

4. エージェントを再起動します。

## ▼ プラットフォームエージェントを削除する

1. `su` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `/sbin` ディレクトリに移動します。`/sbin` は、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。  
たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/sbin` ディレクトリに移動します。
3. 以下のように入力して、プラットフォームエージェントのインスタンスを削除します。

```
# ./es-platform -d instanceName
```

---

## ドメインの設定

ここでは、2 種類のドメインについて説明します。

- Sun Management Center 管理ドメイン - 1 つ以上のホストシステムの集まり。たとえば、管理ドメインは、施設内にあるすべてのサーバーとワークステーションで構成できます。
- ハードウェアドメイン - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム内のコンポーネントの一部。たとえば、複数の CPU ボードと複数の入出力ボードからなるプラットフォームは、複数のドメインに分割できます。このとき、各ドメインは、1 つ以上の CPU ボードと 1 つ以上のネットワーク接続で構成されます。ハードウェアドメインは、専用の Solaris オペレーティングシステムをそれぞれ実行します。

## ▼ ハードウェアドメインを作成する

出荷時には、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムは、ハードウェアドメインが 1 つ (ドメイン A) の構成になっています。システム管理者は、追加のハードウェアドメインを作成できます。Sun Fire 6800 システムでは、最大 4 つのハードウェアドメインを構成できます。Sun Fire 4810/4800/3800 システムは最大 2 つのハードウェアドメインを構成できます。

- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム上に追加のハードウェアドメインを作成する方法については、『Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムプラットフォーム管理ガイド』を参照してください。

## ▼ 管理ドメインを作成する

- 管理ドメインを作成してメンバーを登録する方法については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

## 第3章

---

# プラットフォームエージェントによるプラットフォームおよびドメインの管理

---

この章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 サーバーのプラットフォーム管理手順と機能を説明します。

この章で取り上げるトピックは次のとおりです。

- 53 ページの「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュール」
- 60 ページの「プラットフォーム管理モジュールのドメインテーブルへのアクセス」
- 70 ページの「ドメインテーブルの操作」
- 76 ページの「プラットフォーム管理モジュールのプラットフォームテーブルへのアクセス」
- 92 ページの「プラットフォームテーブルの操作」
- 102 ページの「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの物理表示と論理表示」
- 108 ページの「プラットフォーム管理のハードウェア規則」
- 114 ページの「データ収集テーブル」

---

## Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュール

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合は、プラットフォーム管理には、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを利用します。このモジュールは、オブジェクト詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブ内の「ハードウェア」カテゴリに読み込まれます。

これらに対応する表示のデータは、適切なアクセス権を持つユーザーだけが見ることができます。たとえば、プラットフォームとドメイン A へのアクセス権をもつユーザーは、プラットフォームとドメイン A のデータを表示することはできますが、ドメイン B、C、D のデータを表示することはできません。図 3-1 は、プラットフォーム管理者が見ることができるテーブルと、ドメイン管理者が見ることができるテーブルを示しています。

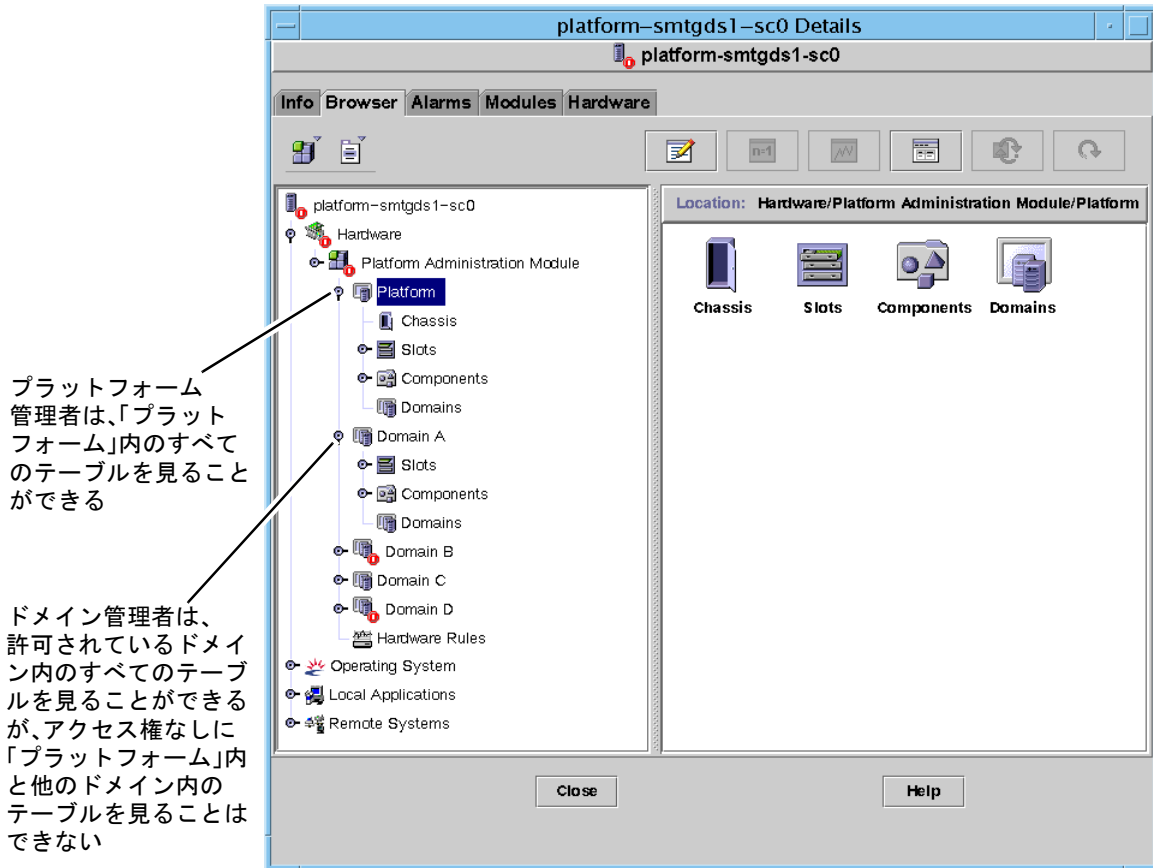


図 3-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームオブジェクトの詳細ウィンドウ

注 - この後の例の図では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 オブジェクトが 1 つだけ示されています。実際には、その他の種類のオブジェクトが存在することがあります。



## ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のドメインオブジェクトだけを作成する

1. メインコンソールウィンドウから、「編集」>「オブジェクトの作成」>「ノード」>「Sun Management Center エージェント - ホスト」を選択します。  
「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「ノード」タブと「Sun Management Center エージェント - ホスト」が最初に表示されています (図 3-2)。
2. 以下の操作をします。
  - a. オブジェクトのラベル名を入力します。
  - b. 必要に応じてオブジェクトの説明を入力します。
  - c. ドメインエージェントが動作しているホスト名 (ここでは Sun Fire 6800/4810/4800/3800 マシン) を入力します。
  - d. ベースエージェントポート番号 (デフォルトは 161) を入力します。
3. 最後に、次のいずれかの操作をします。
  - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
  - ウィンドウを閉じないで変更を適用する場合は、「適用」をクリックします。
  - このパネルのヘルプページをヘルプブラウザに表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。
  - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

---

注 - 「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Sun Management Center ソフトウェア内のオブジェクトの作成に関するヘルプページが表示されます。

---

## ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のプラットフォームオブジェクトだけを作成する

1. メインコンソールウィンドウから、「編集」>「オブジェクトの作成」>「ノード」>「Sun Management Center エージェント - プラットフォーム」を選択します。  
「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます。デフォルトでは、「ノード」タブと「Sun Management Center エージェント - ホスト」が最初に表示されます (図 3-2)。

- オブジェクト名を「Sun Management Center エージェント - プラットフォーム」に変更します。

2. 以下の操作をします。

- a. オブジェクトのラベル名を入力します。
- b. 必要に応じてオブジェクトの説明を入力します。
- c. プラットフォームエージェントが動作しているホスト名を入力します (任意のマシンを指定可能)。
- d. ポート番号として 166 と入力します。

3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- ウィンドウを閉じないで変更を適用する場合は、「適用」をクリックします。
- このパネルのヘルプページをヘルプブラウザに表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

---

注 - 「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Sun Management Center ソフトウェア内のオブジェクトの作成に関するヘルプページが表示されます。

---

## ▼ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 の複合オブジェクトを作成する

通常、複合オブジェクトは、ドメインエージェント 1 つとプラットフォームエージェント 1 つで構成されます。ここでは、このような複合オブジェクトを作成する方法を説明します。

システムコントローラ以外のドメインでプラットフォームエージェントが動作している場合、Sun Management Center 3.5 ソフトウェアで複合オブジェクトを作成することはできません。これは、SC ファームウェアが Sun Management Center のためのドメイン名の検出をサポートしていないためです。また、SC が複数の IP/ドメインインタフェースで構成可能であり、SC ファームウェアには Sun Management Center が監視しているドメインを知る手段がないためです。



---

**注意** – プラットフォームエージェントとドメインエージェントが別のドメインで動作している場合は、ドメインエージェントが動作していても、複合オブジェクトはドメインエージェントなしで作成されます。「編集」>「オブジェクトの作成」>「ノード」>「エージェント - ホスト」を選択して、ドメインエージェントオブジェクトを別途作成できます。

---

1. メインコンソールウィンドウのメニューバーから、「編集」>「オブジェクトの作成」>「複合」>「Sun Fire *nnnn*」を選択します。*nnnn* は Sun Fire 6800/4810/4800/3800 マシンの番号です。

「複合」タブを表示した状態で「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウが表示されます (図 3-3 を参照)。

2. 以下の操作をします。
  - a. 複合オブジェクトのラベル名を入力します。
  - b. 必要に応じて複合オブジェクトの説明を入力します。
  - c. プラットフォームエージェントが動作しているホスト名を入力します (任意のマシンを指定可能)。
  - d. ベースエージェントポート番号 (デフォルトは 166) を入力します。
3. 最後に、次のいずれかの操作をします。
  - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
  - ウィンドウを閉じないで変更を適用する場合は、「適用」をクリックします。
  - このパネルのヘルプページをヘルプブラウザに表示する場合は、「ヘルプ」をクリックします。
  - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

---

**注** – 「ヘルプ」ボタンをクリックすると、Sun Management Center ソフトウェア内のオブジェクトの作成に関するヘルプページが表示されます。

---

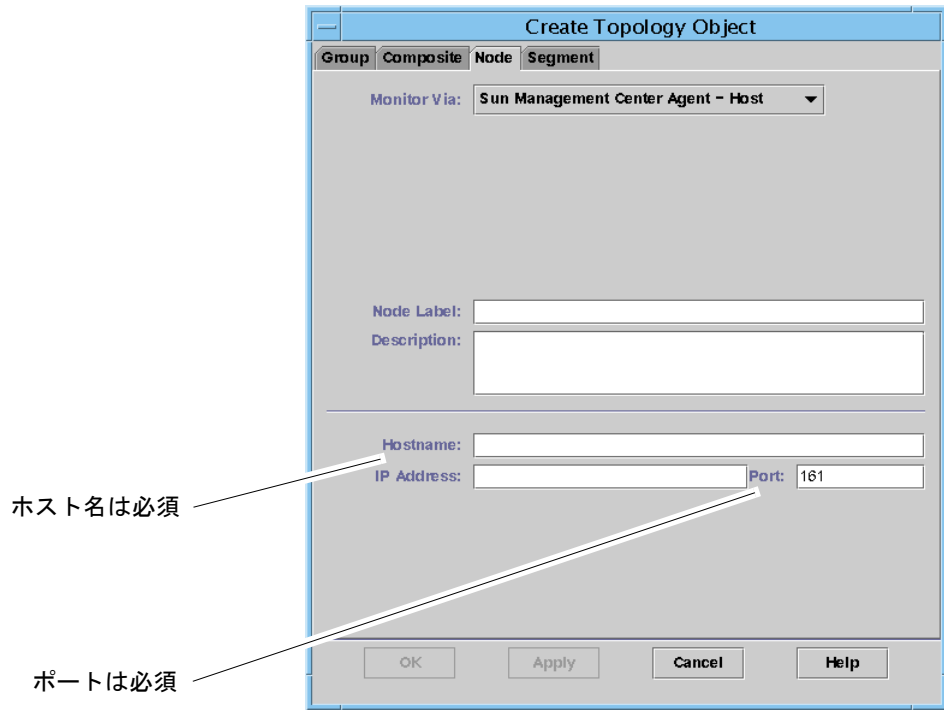


図 3-2 「トポロジオブジェクトの作成」ウィンドウの「ノード」タブ

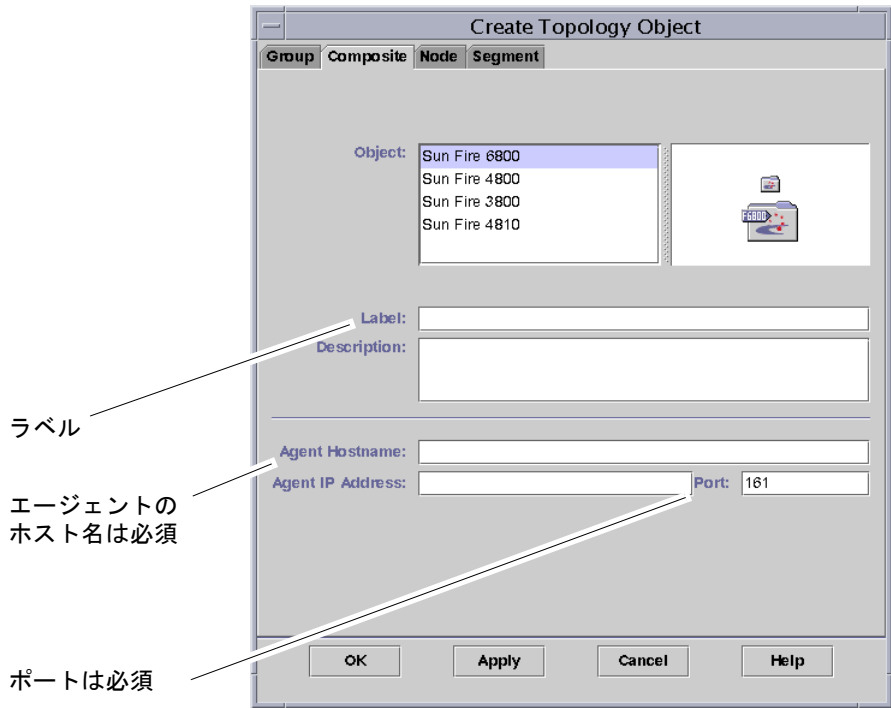


図 3-3 「複合」タブの Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム表示例

## プラットフォーム管理モジュールのドメインテーブルへのアクセス

ドメイン管理者は、対応するドメインノードのすべてのテーブルを表示できます。たとえば、ドメイン A のドメイン管理者は、ドメイン A 内のすべてのテーブルを表示できます (図 3-4)。この節では、ドメインのテーブルとその属性をまとめています。

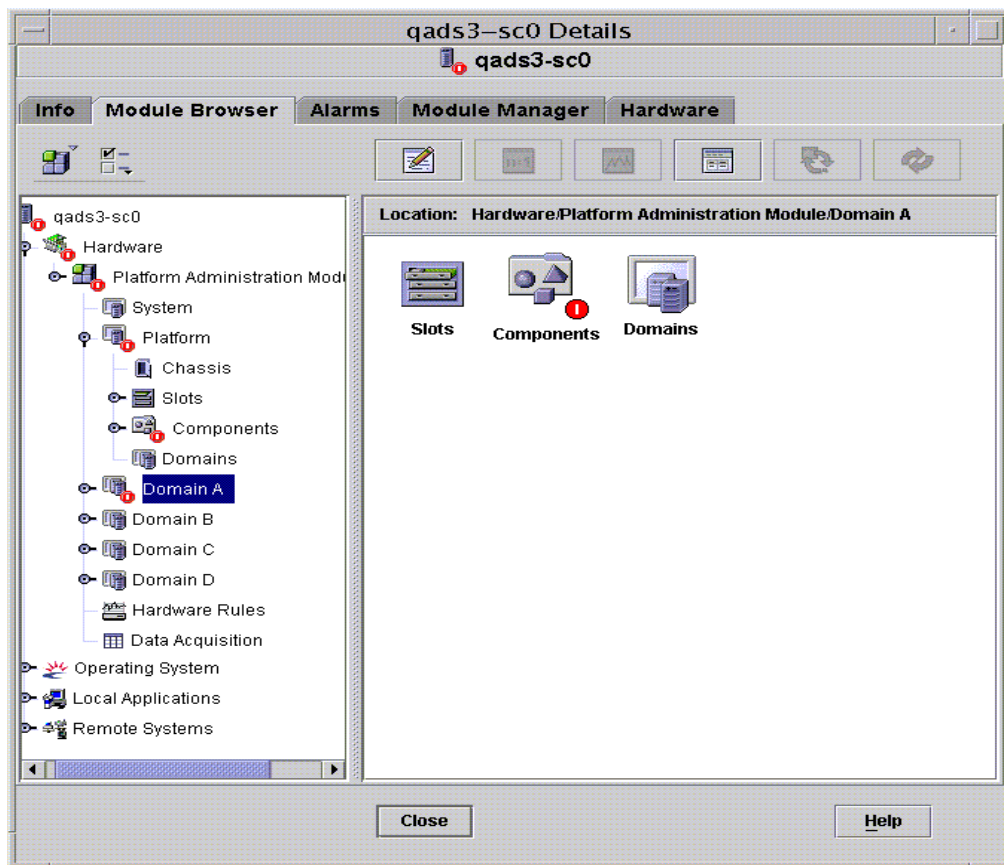


図 3-4 ドメイン X のテーブル

## ドメイン X のスロットテーブル

この節では、ドメインのスロットテーブルをまとめています。テーブルの X はドメイン名の英字 1 字 (A ~ D) です。

- 空きスロット
- CPU ボード
- 入出力ボード
- 不明なボード

## ドメイン X の空きスロット

表 3-1 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの空きスロットの属性を簡単にまとめています。

表 3-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の空きスロット

属性	規則 (ある場合)	説明
スロット名		SBx などの形式で空きスロットの名前を示す。x はスロット番号
スロットの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
スロットのボード種別		ボード種別として Empty を示す
スロットの状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
スロットのテスト状態	rspa1010	スロットのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、Under Test、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
スロットのドメイン		DomainA などの、スロットが割り当てられているドメインを示す。割り当てられていない場合は Isolated
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す

## ドメイン X の CPU ボード

表 3-2 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの CPU ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-2 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の CPU ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ボード名		SBx などの形式で CPU ボード名を示す。x は CPU ボードが装着されているスロット番号
CPU ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
CPU ボード種別		ボード種別として CPU を示す
CPU ボードのスロット状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
CPU ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
CPU ボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown のどれかを示す
CPU ボードの FRU インデックス		CPU ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
CPU ボードの総 CPU		このボード上の総 CPU 数 (たとえば 4) を示す
CPU ボードの総 DRAM メモリー (MB)		このボード上の DRAM (dynamic random access memory) の合計容量 (メガバイト単位。たとえば 4096) を示す
CPU ボードの総 E キャッシュメモリー (MB)		このボード上の外部キャッシュ (E キャッシュ) の合計容量 (メガバイト単位。たとえば 32) を示す
CPU ボードの総 WCI		この CPU ボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す
CPU ボードの温度		4 0:32:90:normal 0:33:9... などの形式で CPU ボードの温度と範囲を示す
COD ボード?		CPU ボードが COD ボードでもあるかどうかを示す (CodBoard または NonCodBoard)



## ドメイン X の 入出力ボード

表 3-3 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの入出力ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-3 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の 入出力ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
入出力ボード名		/Nn/IBx の形式でボード識別子を示す。n はノード番号、x は 入出力ボードが存在するスロット番号
入出力ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
入出力ボード種別		ボード種別として IO を示す
入出力ボードのスロット状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
入出力ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
入出力ボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す
入出力ボードの FRU インデックス		入出力ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
入出力ボード種別		PCI または CPCI などのボードのサブタイプを示す
入出力ボードの総 WCI		この 入出力ボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す
入出力ボードの総 ParoliCpciDca		この 入出力ボード上の並列光リンク (Paroli) カード、コンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部品 (DCA) の合計数を示す
入出力ボードの温度		2 0:46:90:normal 0:35... などの形式で入出力ボードの温度と範囲を示す

## ドメイン X の不明なボード

表 3-4 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの不明なボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-4 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の不明なボード

属性	規則 (ある場合)	説明
不明なボード名		SBx や IBx などの形式で不明なボード名を示す。x はボードが存在するスロット番号
不明なボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
不明なボード種別		ボード種別として Unknown を示す
不明なボードのスロット状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
不明なボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
不明なボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す

## ドメイン X の構成部品 (コンポーネント) テーブル

この節では、ドメインの構成部品テーブルをまとめています。テーブルの X はドメイン名の英字 1 字 (A ~ D) です。

- CPU モジュール
- DIMM
- E キャッシュ
- WCI
- WCI ポート

## ドメイン X の CPU モジュール

表 3-5 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの CPU モジュールの属性を簡単にまとめています。

表 3-5 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の CPU モジュール

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU モジュールの ボードインデックス		CPU モジュールのボードインデックスを示す
CPU モジュールのイ ンデックス		CPU モジュールのインデックスを示す
CPU モジュールの説 明		UltraSPARC-III などの CPU モジュールの説明を示 す
CPU モジュールの温 度		1 0:62:93:normal などの形式で CPU モジュールの 温度と範囲を示す
CPU モジュールの状 態	rspa1008	CPU モジュールの状態として Online または Idle を 示す。CPU が COD によって使用不可にされている場 合は CodDisabled
CPU モジュールのモ デル		sparcv9 の CPU モジュールのモデルを示す
CPU モジュールの速 度 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位で CPU モジュールの速度を示 す
CPU モジュールの I キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの命令キャッシュ (I キャッシュ) のサ イズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの D キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールのデータキャッシュ (D キャッシュ) の サイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの E キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの外部キャッシュ (E キャッシュ) のサ イズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの Wキャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの書き込みキャッシュ (W キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの最 終変更		最終変更日時を示す
CPU モジュールのエ ラー		CPU モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示 す

## ドメイン X の DIMM モジュール

表 3-6 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの DIMM (dual inline memory module) の属性を簡単にまとめています。

表 3-6 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の DIMM (構成部品レベル)

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM の CPU ボードインデックス		DIMM の CPU ボードインデックスを示す
DIMM の CPU モジュールインデックス		DIMM の CPU モジュールインデックスを示す
DIMM インデックス		DIMM のインデックスを示す
DIMM の FRU インデックス		DIMM の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

## ドメイン X の E キャッシュ

表 3-7 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの外部キャッシュ (E キャッシュ) の属性を簡単にまとめています。

表 3-7 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の E キャッシュ (構成部品レベル)

属性	規則 (ある場合)	説明
E キャッシュの CPU ボードインデックス		E キャッシュの CPU ボードインデックスを示す
E キャッシュの CPU モジュールインデックス		E キャッシュの CPU モジュールインデックスを示す
E キャッシュのインデックス		E キャッシュのインデックスを示す
E キャッシュの FRU インデックス		E キャッシュの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

## ドメイン X の WCI

表 3-8 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの Sun Fire Link インタフェース (WCI) モジュールの属性を簡単にまとめています。

表 3-8 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の WCI  
(構成部品レベル)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI モジュールの ボードインデックス		WCI モジュールのボードインデックスを示す
WCI モジュールのイ ンデックス		WCI モジュールのインデックスを示す
WCI モジュールの説 明		WCI モジュールの説明を示す
WCI モジュールの状 態	rspa1008	WCI モジュールの状態として Online または Idle を 示す
WCI モジュールの モード		WCI モジュールのモードとして SSM、RSM、Unknown を示す
WCI モジュールの温 度		WCI モジュールの温度と範囲を示す
WCI モジュールの総 DIMM		WCI モジュール上の DIMM の合計サイズを示す
WCI モジュールの総 MEM		WCI モジュール上の合計メモリーサイズを示す
WCI モジュールの総 ParoliDCA		このモジュール上の並列光リンク (Paroli) カード、コ ンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部 品 (DCA) の合計数を示す
WCI モジュールの総 ポート		WCI モジュールの合計ポート数を示す
WCI モジュールの最 終変更		最終変更日時を示す
WCI モジュールのエ ラー		WCI モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示 す

## ドメイン X の WCI ポート

表 3-9 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの Sun Fire Link インタフェース (WCI) ポートの属性を簡単にまとめています。

表 3-9 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の WCI ポート (構成部品レベル)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ポートのボードインデックス		WCI ポートのボードインデックスを示す
WCI ポートのモジュールインデックス		WCI ポートのモジュールインデックスを示す
WCI ポートのインデックス		WCI ポートのインデックスを示す
WCI ポートの FRU インデックス		WCI ポートの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
WCI ポートの状態		WCI ポートの状態として Unknown、Installed、Connected、Unconfigured、Error のどれかを示す
WCI ポートの ParoliDCA		この WCI ポートを使用する並列光リンク (Paroli) カードとドーターカード部品の個数 (1 または 2) を示す
WCI ポートの遠隔位置		WCI ポートの遠隔位置を示す

## ドメイン

表 3-10 は、ドメインの属性を簡単にまとめています。テーブルの X は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのドメイン名の英字 1 字 (A ~ D) です。

表 3-10 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の ドメイン

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン		ドメイン A ~ D のドメインを示す
ドメインの説明		ドメインの説明を示す
ドメインのログホスト	rspa1006	ドメインのログホスト名を示す

表 3-10 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメイン X の ドメイン (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメインのトラップ ホスト	rspa1006	ドメインの SNMP トラップホストの名前または IP アドレスを示す。形式は「ホスト[:ポート]」
ドメインの ACL の 説明		SB0 SB1 SB3 SB5 IB6 I... の形式で、ドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されているスロット情報を示す
ドメインの状態	rspa1002	ドメインの状態として RunningSolaris、PoweredOff、Standby、Running POST、Active、Active - OpenBoot PROM、Active - Booting、Active - Halted、Active - Reset、Active - Panicking、Active - Debugger、Not Responding、Paused due to an error などを示す
ドメインのノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す
ドメインの SSM モード		ドメインのスケラブル共有メモリー (SSM) モードとして Master、Slave、Local、Unknown のどれかを示す
ドメインの SSM マ スター		スケラブル共有メモリー (SSM) のマスターノードのホスト名を示す
ドメインの SSM ス レーブノード		スレーブのスケラブル共有メモリー (SSM) があるホストまたはノードのホスト名を示す
ドメインのキース イッチ	rspa1003	ドメインの仮想キースイッチ位置として Unknown (デフォルト)、Off、Standby、On、Diagnostic、Secure、OffToStandby、OffToOn、OffToDiag、OffToSecure、StandbyToOff、ActiveToOff、ActiveToStandby、RebootToOn、RebootToDiag、RebootToSecure、standbyToOn、standbyToDiag、standbyToSecure、onToOff、onToStandby、onToDiag、onToSecure、diagToOff、diagToStandby、diagToOn、diagToSecure、secureToOff、secureToStandby、secureToOn、secureToDiag、offToOff、standbyToStandby、onToOn、diagToDiag、secureToSecure のどれかを示す
ドメインの連絡先		このドメインの担当者名を示す
ACL 未登録スロット		SB2 SB4 などの形式で、ドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されていないスロットを示す

## ドメインテーブルの操作

データテーブル内のエントリを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます (図 3-5)。このメニューに表示される操作一覧の内容は、選択された行内の列値とエントリのタイプによって異なります。

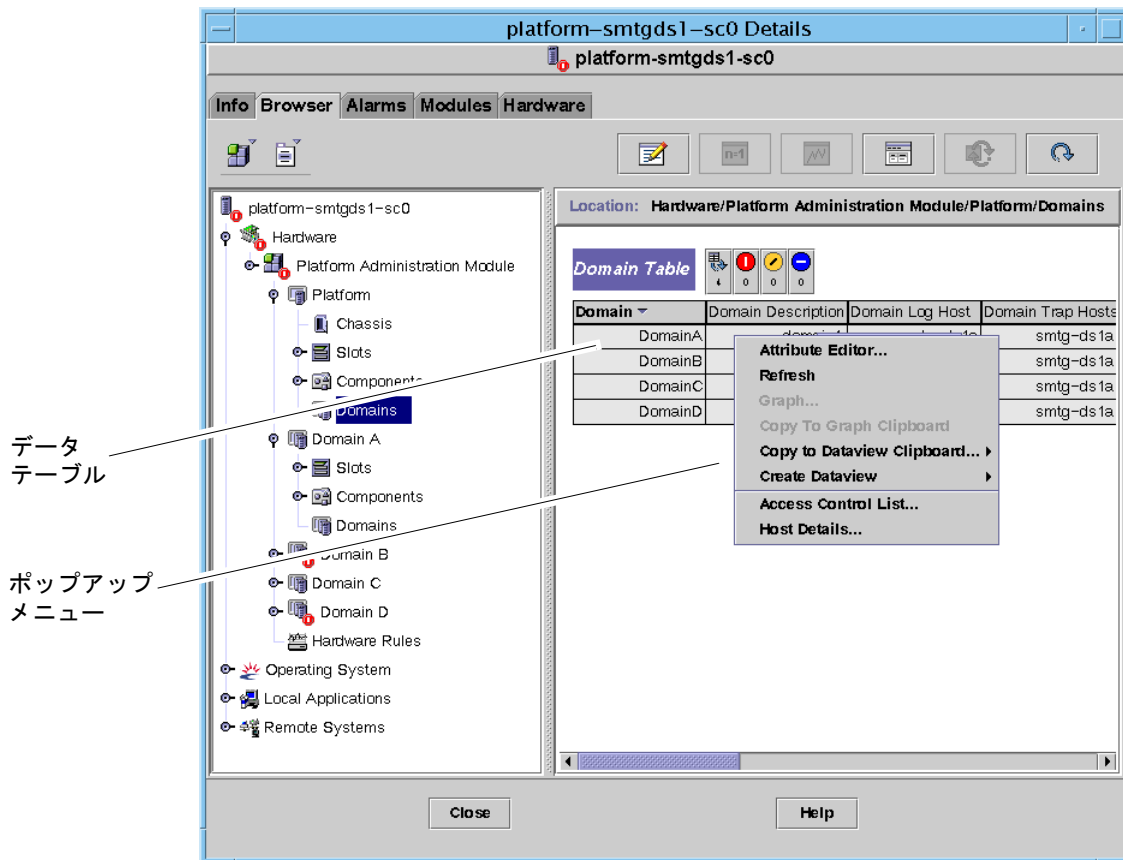


図 3-5 「ブラウザ」ウィンドウのドメインテーブル



表 3-11 は、ポップアップメニューに表示される項目の種類と、それらの項目で行うことができる操作の一覧です。

表 3-11 ドメイン表示におけるテーブル操作メニューの項目

テーブル	操作
FRU インデックスエントリを持つスロットおよび構成部品テーブル	FRU 情報の表示
ドメイン	キースイッチ、ログホストの設定、ホスト詳細の表示と管理

表 3-12 は、行うことができる主な操作とその機能をまとめています。

表 3-12 ドメインテーブルの操作

操作	機能
キースイッチ...	ドメインの仮想キースイッチ位置を変更できます。図 3-6 は、「キースイッチ...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
ログホストの設定...	ドメインの SNMP トラップと Syslog ホストを設定できます。図 3-7 は、「ログホストの設定...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
FRU 情報	選択した構成部品の FRU 情報を表示できます。図 3-8 は、表示されるパネルを示しています。
テーブルのソート	条件を変更してドメインテーブルをソートできます。ドメインテーブルの列の見出しをクリックすると、その見出しを基準にテーブルがソートされます。たとえば、「状態」列をクリックすると、「状態」を基準にテーブルがソートされます。ソートの順序（昇順と降順）は、同じ列見出しを再度クリックして、交互に切り替えることができます。現在ソートされている列見出しは太字で表示され、現在のソート順は下向きまたは上向き矢印で示されます。デフォルトでは、ドメインテーブルはドメイン ID を基準に昇順にソートされます。
ホスト詳細	対応するドメインのホスト詳細ウィンドウを表示します。

以下では、これらの操作を実際に行う方法を説明します。

## ▼ ドメインのキースイッチ設定を変更する

「キースイッチ」メニュー項目は、すべてのドメイン（ドメイン A、B、C、D）に用意されています。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「キースイッチ...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「ドメイン X」>「ドメイン」>データテーブルのメニュー>「キースイッチ...」です。

「キースイッチ」パネル (図 3-6) が表示されます。このパネルには、仮想キースイッチの現在の設定位置が示されます。

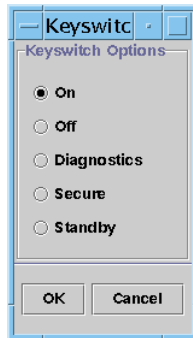


図 3-6 キースイッチのパネル

システムコントローラがネットワークに接続されている場合は、キースイッチ位置を、5 つあるモードのうちの 1 つに変更できます。システムコントローラがネットワークに接続されていない場合、このオプションは選択できません。

5 つのモードは次のとおりです。

#### ■ オン

ドメインの電源がすでに入っている状態で「オン」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

#### ■ オフ

ドメインが Solaris オペレーティングシステムを実行している状態で「オフ」ボタンをクリックした場合は、確認パネルが表示されます。このモードを選択すると、選択されているドメイン内のすべてのボードの状態がオフになり、低電力モードになって、シャーシからのボードの取り外しが可能な状態になります。

#### ■ 診断

ドメインの電源がすでに入っている状態で「診断」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

#### ■ 保護

ドメインの電源がすでに入っている状態で「保護」ボタンをクリックした場合は、仮想キースイッチの位置が変更されるだけです。

### ■ スタンバイ

ドメインが Solaris オペレーティングシステムを実行している状態で「スタンバイ」をクリックした場合は、確認パネルが表示されます。このモードを選択すると、選択されているドメイン内のすべてのボードの状態がスタンバイになりますが、低電力モードにはなりません。

### 3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ ドメインのログホストを設定する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ログホストの設定...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは次のとおりです。

- 「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「ドメイン X」>「ドメイン」>データテーブルのメニュー>「ログホストの設定...」を選択します。
- 「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「プラットフォーム」>「シャーシ」>データテーブルのメニュー>「ログホストの設定...」を選択します。

「ログホストの設定」パネル (図 3-7) が表示されます。

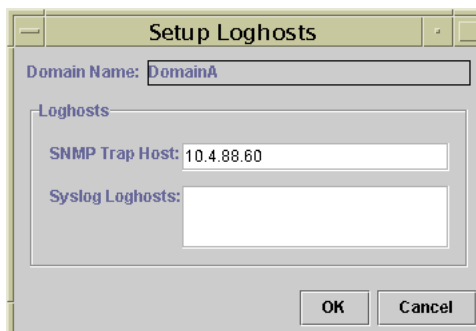


図 3-7 「ログホストの設定」パネル

3. このパネルでは、SNMP トラップホストと syslog ログホストの値を変更できます。1 行に 1 つの IP アドレスまたはノード名を入力することにより、複数のログホストを指定できます。

#### 4. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ FRU 情報を表示する

「FRU 情報」パネルには、特定の構成部品の FRU 情報が表示されます。

このパネル内の情報は変更できません。このパネルは読み取り専用です。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「FRU 情報...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「プラットフォーム」(または「ドメイン X」)>「スロット」(または「コンポーネント」)>カテゴリ **データテーブルのメニュー**>「FRU 情報...」です。

「FRU 情報」パネルが表示されます (図 3-8)。

3. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

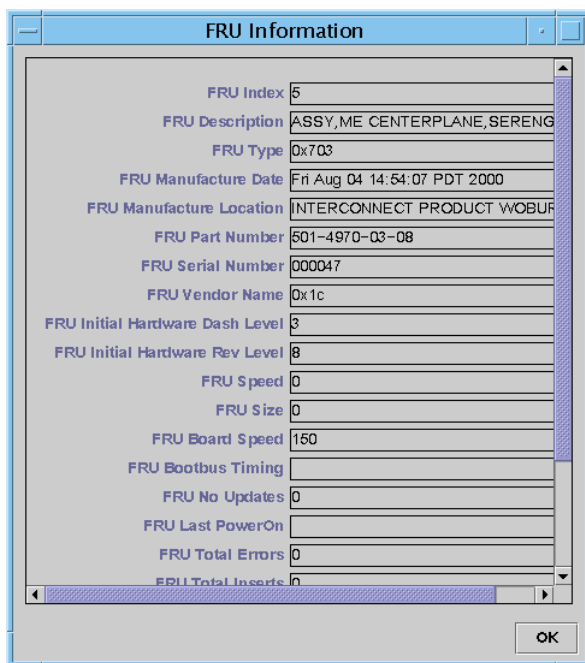


図 3-8 「FRU 情報」 パネル

## ▼ ホストの詳細を表示する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ホスト詳細...」を選択します。

階層表示内のこのコマンドへのパスは、「ハードウェア」>「プラットフォーム管理モジュール」>「プラットフォーム」(または「ドメイン X」)>「ドメイン」>データテーブルのメニュー>「ホスト詳細...」です。

対応するハードウェアドメインのホスト詳細ウィンドウが表示されます。

3. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

# プラットフォーム管理モジュールのプラットフォームテーブルへのアクセス

プラットフォーム管理者は、「プラットフォーム管理モジュール」内のすべてのテーブルを表示できます (図 3-9)。この節では、それらのテーブルとその属性をまとめています。

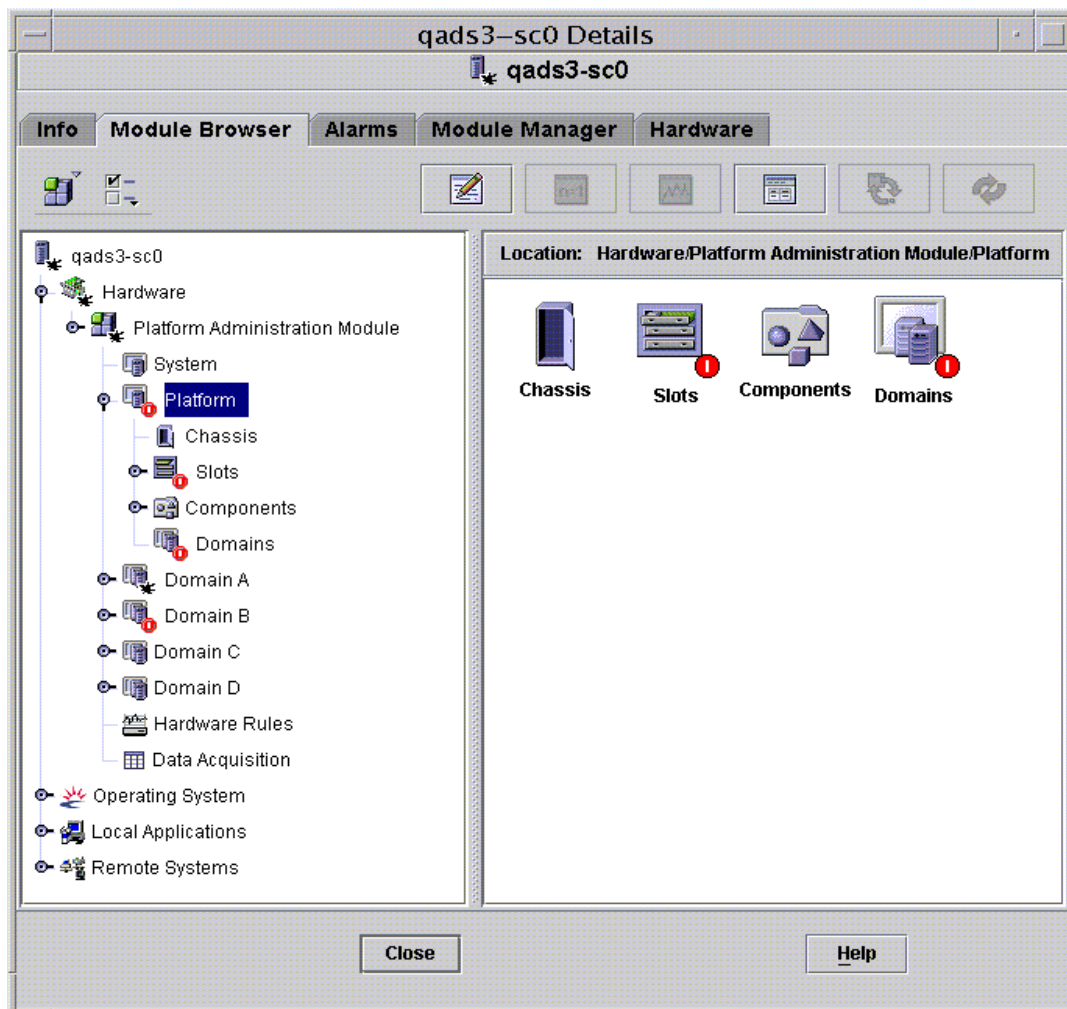


図 3-9 プラットフォームテーブル

# プラットフォームシステム

表 3-13 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの属性を簡単にまとめています。

表 3-13 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム

属性	規則 (ある場合)	説明
プラットフォーム		Sun-Fire-6800 などのプラットフォームの説明を示す

# プラットフォームのシャーシ

表 3-14 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのシャーシの属性を簡単にまとめています。

表 3-14 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームのシャーシ

属性	規則 (ある場合)	説明
シャーシの説明		シャーシの説明を示す
シャーシの FRU インデックス		シャーシの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
シャーシの SC 名		シャーシ上の SC ホスト名を示す
シャーシの位置		シャーシの位置を示す
シャーシの連絡先		このシャーシの担当者名を示す
シャーシのログホスト	rspa1006	シャーシの SNMP ログホストの名前または IP アドレスを示す
シャーシのトラップホスト	rspa1006	シャーシの SNMP トラップホストの名前または IP アドレスを示す。形式は「ホスト[:ポート]」
シャーシのスロット		シャーシの合計スロット数を示す
シャーシの CPU スロット		CPU ボードに使用されているシャーシのスロット数を示す
シャーシの I/O スロット		入出力ボードに使用されているシャーシのスロット数を示す
シャーシの稼働時間		シャーシが稼働している経過時間を示す

表 3-14 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームのシャーシ (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
シャーシのモデル		Sun Fire 6800 などのシャーシのモデルを示す
シャーシのドメイン		このシャーシのドメイン数を示す (たとえば 4)
シャーシのパーティションモード		シャーシのパーティションモードとして SinglePartition または DualPartition を示す
シャーシのドメイン A の Ethernet アドレス		ドメイン A の Ethernet アドレスを示す
シャーシのドメイン B の Ethernet アドレス		ドメイン B の Ethernet アドレスを示す
シャーシのドメイン C の Ethernet アドレス		ドメイン C の Ethernet アドレスを示す
シャーシのドメイン D の Ethernet アドレス		ドメイン D の Ethernet アドレスを示す
シャーシのマスター SC の Ethernet アドレス		メイン SC の Ethernet アドレスを示す
シャーシのスレーブ SC の Ethernet アドレス		予備 SC の Ethernet アドレスを示す
シャーシのシステムシリアル番号		シャーシのシリアル番号を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す
マシン		シャーシのマシン名を示す
プラットフォーム		Sun-Fire-6800 などのプラットフォーム名を示す

## プラットフォームのロットテーブル

この節では、プラットフォームのロットテーブルをまとめています。

- 空きスロット
- CPU ボード
- 入出力ボード
- L2 リピータ



- ファントレー
- 電源装置
- SC
- 不明なボード

## プラットフォームの空きスロット

表 3-15 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの空きスロットの属性を簡単にまとめています。

表 3-15 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームの空きスロット

属性	規則 (ある場合)	説明
スロット名		SB2、SB4 などの空きスロット名を示す
スロットの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
スロットのボード種別		ボード種別として Empty を示す
スロットの状態		スロットの状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
スロットのテスト状態	rspa1010	スロットのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
スロットのドメイン		DomainA などの、スロットが割り当てられているドメインを示す。割り当てられていない場合は Isolated
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す

## プラットフォームの CPU ボード

表 3-16 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの CPU ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-16 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの CPU ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ボード名		SBx の形式で CPU ボード名を示す。x は CPU ボードが装着されているスロット番号
CPU ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
CPU ボード種別		ボード種別として CPU を示す
CPU ボードのスロット状態		ボードのスロット状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
CPU ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
CPU ボードのドメイン		DomainA、DomainkB などの、ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す
CPU ボードの FRU インデックス		CPU ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
CPU ボードの総 CPU		この CPU ボード上の総 CPU 数 (たとえば 4) を示す
CPU ボードの総 DRAM メモリー (MB)		この CPU ボード上の DRAM (dynamic random access memory) の合計容量 (メガバイト単位。たとえば 4096) を示す
CPU ボードの総 E キャッシュメモリー (MB)		この CPU ボード上の外部キャッシュ (E キャッシュ) メモリーの合計容量 (メガバイト単位。たとえば 32) を示す
CPU ボードの総 WCI		この CPU ボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す

表 3-16 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの CPU ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU ボードの温度		4 0:36:90:normal 0:37:9... などの形式で CPU ボードの温度と範囲を示す
COD ボード?		CPU ボードが COD ボードでもあるかどうかを示す (CodBoard または NonCodBoard)
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの入出力ボード

表 3-17 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの入出力ボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-17 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの入出力ボード

属性	規則 (ある場合)	説明
入出力ボード名		IOx の形式で入出力ボード名を示す。x は入出力ボードが装着されているスロット番号
入出力ボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
入出力ボード種別		ボード種別として IO を示す
入出力ボードのスロット状態		ボードのスロット状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
入出力ボードのテスト状態	rspa1010	ボードのテスト状態として Passed、NotTested、Unknown、UnderTest、Start Test、Degraded、Failed、Unusable のどれかを示す
入出力ボードのドメイン		DomainA、DomainkB などの、ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す
入出力ボードの FRU インデックス		入出力ボードの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
入出力ボード種別		ボードの種別として PCI、CPCI、WPCI のどれかを示す

表 3-17 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの入出力ボード (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
入出力ボードの総 WCI		このボード上の総 Sun Fire Link インタフェース (WCI) 数を示す
入出力ボードの総 ParoliCpciDca		このボード上の並列光リンク (Paroli) カード、コンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部品 (DCA) の合計数を示す
入出力ボードの温度		2 0:30:90:normal 0:32... などの形式で入出力ボードの温度と範囲を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの L2 リピータ

表 3-18 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの L2 リピータの属性を簡単にまとめています。

表 3-18 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの L2 リピータ

属性	規則 (ある場合)	説明
L2 リピータ名		RP0x の形式で L2 リピータ名を示す。x は リピータが装着されているスロット番号
L2 リピータの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
L2 リピータのボード種別		ボード種別として L2 を示す
L2 リピータのスロット状態		-- を示す。これは、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
L2 リピータのテスト状態		リピータのテスト状態として Passed または NotTested を示す
L2 リピータのドメイン		DomainA、Isolatedなどの、リピータが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す
L2 リピータの FRU インデックス		L2 リピータの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

表 3-18 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの L2 リピータ (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
L2 リピータのドメイン		A、B などの、リピータを使用可能なドメインを示す
L2 リピータの温度		4 0:28:90:normal 0:30:90... などの形式で L2 リピータの温度と範囲を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームのファントレー

表 3-19 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのファントレーの属性を簡単にまとめています。

表 3-19 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットのファントレー

属性	規則 (ある場合)	説明
ファン名		FTx の形式のファントレー名を示す。x はファントレーが装着されているスロット番号 (0 ~ 3)
ファンの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
ファンのボード種別		ボード種別として Fan を示す
ファンのスロット状態		-- を示す。これは、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
ファンのテスト状態		ファンのテスト状態として Passed または NotTested を示す
ファンのドメイン		Isolated、DomainA などの、リピータが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す
ファンの FRU インデックス		ファントレーの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
ファンの速度		ファンの速度として Off、Low、High のどれかを示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの電源装置

表 3-20 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの電源装置の属性を簡単にまとめています。

表 3-20 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの電源装置

属性	規則 (ある場合)	説明
電源装置名		PS $x$ の形式で電源装置名を示す。 $x$ は リピータが装着されているスロット番号
電源装置の状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn のどちらかを示す
電源装置のボード種別		ボード種別として PowerSupply を示す
電源装置のスロット状態		-- を示す。これは、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
電源装置のテスト状態		電源装置のテスト状態として Passed または NotTested を示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す
電源装置の FRU インデックス		電源装置の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
電源装置の読み取り値		56.59 5.84 33.48 などの電源装置の読み取り値を示す
電源装置の使用率		20、17、16、37、42 などの電源装置の使用率を示す
電源装置の L/H 入力		電源装置の入力として High または Low を示す
電源装置の一次温度		1 -1:23:78:normal  などの形式で電源装置の一次温度と範囲を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームのシステムコントローラ (SC)

表 3-21 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの SC の属性を簡単にまとめています。

表 3-21 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの SC

属性	規則 (ある場合)	説明
SC 名		SC 名として SSC0 または SSC1 を示す
SC の電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
SC のボード種別		ボード種別として SC を示す
SC のスロット状態		Main または Spare (システムコントローラが冗長構成の場合) を示す。それ以外の場合は -- で、これはボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
SC のテスト状態	rspa1010	SC のテスト状態として Passed、Failed、OK、Under Test、NotTested、Degraded、Unknown のどれかを示す
SC のドメイン		Isolated などの、SC が割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す
SC のマスター / スレーブ	rspa1004	SC がメイン SC (Master) または予備 SC (Slave) のどちらであるかを示す
SC の FRU インデックス		SC の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
SC のバージョン	rspa1009	5.14.0 などのファームウェアのバージョンを示す。5.12.5 より前の場合はアラームが生成される
SC の時間帯		標準の短縮名で SC の時間帯を示す。たとえば太平洋標準時の場合は PST
SC の日付		SC の現在の日時を示す
SC のネットワーク構成		ネットワーク構成として Fixed、Unknown などを示す
SC のホスト名		SC のホスト名を示す
SC の IP アドレス	rspa1005	SC の IP アドレスを示す
SC のネットマスク		SC のネットマスクを示す
SC のデフォルトルーター		SC のデフォルトルーターのアドレスを示す

表 3-21 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの SC (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
SC の DNS ドメイン		SC のドメイン名を示す
SC の DNS リゾルバ		SC のリゾルバのアドレスを示す
SC の接続数		SC の接続数を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの不明なボード

表 3-22 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの不明なボードの属性を簡単にまとめています。

表 3-22 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームスロットの不明なボード

属性	規則 (ある場合)	説明
不明なボード名		SBx または IBx などの形式で不明なボード名を示す。x はボードが存在するスロット番号
不明なボードの電源状態	rspa1011	電源の状態として PoweredOff または PoweredOn を示す
不明なボード種別		ボード種別として Unknown を示す
不明なボードのスロット状態		ボードのスロット状態として Active、Assigned、Available、-- のどれかを示す。最後は、ボードの状態がこのスロットに適用できないことを意味する
不明なボードのテスト状態	rspa1010	SC のテスト状態として Passed、Failed、OK、Under Test、NotTested、Degraded、Unknown のどれかを示す
不明なボードのドメイン		ボードが割り当てられているドメインを示す
スロットの状態	rspa1000	スロットの状態として OK、Failed、OverTemp、UnderTemp、Unknown を示す

## プラットフォームの構成部品テーブル

この節では、プラットフォームの構成部品のテーブルをまとめています。

### ■ CPU モジュール



- DIMM
- E キャッシュ
- WCI
- WCI ポート

## プラットフォームの CPU モジュール

表 3-23 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの CPU モジュールの属性を簡単にまとめています。

表 3-23 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の CPU モジュール

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU モジュールの ボードインデックス		CPU モジュールのボードインデックスを示す
CPU モジュールのイ ンデックス		CPU モジュールのインデックスを示す
CPU モジュールの説 明		UltraSPARC-III+ などの CPU モジュールの説明を示す
CPU モジュールの温 度		1 0:62:93:normal などの形式で CPU モジュールの温度と範囲を示す
CPU モジュールの状 態	rspa1008	CPU モジュールの状態として Online または Idle を示す。CPU が COD によって使用不可にされている場合は CodDisabled
CPU モジュールのモ デル		sparcv9 の CPU モジュールのモデルを示す
CPU モジュールの速 度 (MHz)		メガヘルツ (MHz) 単位で CPU モジュールの速度を示す
CPU モジュールの I キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの命令キャッシュ (I キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの D キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールのデータキャッシュ (D キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの E キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの外部キャッシュ (E キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
CPU モジュールの W キャッシュサイズ (KB)		CPU モジュールの書き込みキャッシュ (W キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す

表 3-23 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の CPU モジュール (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
CPU モジュールの最終変更		最終変更日時を示す
CPU モジュールのエラー		CPU モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの DIMM

表 3-24 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの場合のドメインの DIMM (dual inline memory module) の属性を簡単にまとめています。

表 3-24 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の DIMM

属性	規則 (ある場合)	説明
DIMM の CPU ボードインデックス		DIMM の CPU ボードインデックスを示す
DIMM の CPU モジュールインデックス		DIMM の CPU モジュールインデックスを示す
DIMM インデックス		DIMM のインデックスを示す
DIMM の FRU インデックス		DIMM の現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの E キャッシュ

表 3-25 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの外部キャッシュ (E キャッシュ) の属性を簡単にまとめています。

表 3-25 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム構成部品の E キャッシュ

属性	規則 (ある場合)	説明
E キャッシュの CPU ボードインデックス		E キャッシュの CPU ボードインデックスを示す
E キャッシュの CPU モジュールインデッ クス		E キャッシュの CPU モジュールインデックスを示す
E キャッシュのイン デックス		E キャッシュのインデックスを示す
E キャッシュの FRU インデックス		E キャッシュの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの WCI

表 3-26 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Sun Fire Link インタフェース (WCI) の属性を簡単にまとめています。

表 3-26 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム  
構成部品の WCI

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI モジュールの ボードインデックス		WCI モジュールのボードインデックスを示す
WCI モジュールのイン デックス		WCI モジュールのインデックスを示す
WCI モジュールの説 明		WCI モジュールの説明を示す
WCI モジュールの状 態	rspa1008	WCI モジュールの状態として Online または Idle を示す
WCI モジュールの モード		WCI モジュールのモードとして SSM、RSM、Unknown を示す

表 3-26 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム  
構成部品の WCI (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI モジュールの温度		WCI モジュールの温度と範囲を示す
WCI モジュールの総 DIMM		WCI モジュール上の DIMM の合計サイズを示す
WCI モジュールの総メモリー		WCI モジュール上の合計メモリーサイズを示す
WCI モジュールの総 ParoliDCA		この WCI モジュール上の並列光リンク (Paroli) カード、コンパクト PCI (cPCI) カード、およびドーターカード部品 (DCA) の合計数を示す
WCI モジュールの総ポート		WCI モジュールの合計ポート数を示す
WCI モジュールの最終変更		最終変更日時を示す
WCI モジュールのエラー		WCI モジュールの誤り訂正コード (ECC) エラー数を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームの WCI ポート

表 3-27 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Sun Fire Link インタフェース (WCI) ポートの属性を簡単にまとめています。

表 3-27 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム  
構成部品の WCI ポート

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ポートのボードインデックス		WCI ポートのボードインデックスを示す
WCI ポートのモジュールインデックス		WCI ポートのモジュールインデックスを示す
WCI ポートのインデックス		WCI ポートのインデックスを示す
WCI ポートの FRU インデックス		WCI ポートの現場交換可能ユニット (FRU) インデックスを示す

表 3-27 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム  
構成部品の WCI ポート (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
WCI ポートの状態		WCI ポートの状態として Unknown、Installed、Connected、Unconfigured、Error のどれかを示す
WCI ポートの ParoliDCA		この WCI ポートを使用する並列光リンク (Paroli) カードとドーターカード部品の個数 (1 または 2) を示す
WCI ポートの遠隔位置		WCI ポートの遠隔位置を示す
ノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

## プラットフォームのドメイン

表 3-14 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのプラットフォームドメインの属性を簡単にまとめています。

表 3-28 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームのドメイン

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメイン		このシステムのドメインとして Domain A ~ D を示す
ドメインの説明		ドメインの説明を示す
ドメインのログホスト	rspa1006	ドメインのログホスト名を示す
ドメインのトラップホスト	rspa1006	ドメインの SNMP トラップホストの名前または IP アドレスを示す。形式は「ホスト[:ポート]」
ドメインの ACL の説明		SB0 SB1 SB3 SB5 IB6 I... の形式で、ドメインのアクセス制御リスト (ACL) に登録されているスロット情報を示す
ドメインの状態	rspa1002	ドメインの状態として RunningSolaris、PoweredOff、Standby、Running POST、Active、Active - OpenBoot PROM、Active - Booting、Active - Halted、Active - Reset、Active - Panicking、Active - Debugger、Not Responding、Paused due to an error などを示す
ドメインのノード名		Solaris オペレーティングシステムノードの名前を示す

表 3-28 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームのドメイン (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
ドメインの SSM モード		ドメインのスケラブル共有メモリー (SSM) モードとして Master、Slave、Local、Unknown のどれかを示す
ドメインの SSM マ スター		スケラブル共有メモリー (SSM) のマスターノードの ホスト名を示す
ドメインの SSM ス レーブノード		スレーブのスケラブル共有メモリー (SSM) があるホ ストまたはノードのホスト名を示す
ドメインのキース イッチ	rspa1003	ドメインの仮想キースイッチ位置として Unknown、 Off、Standby、On、Diagnostic、Secure、 OffToStandby、OffToOn、OffToDiag、 OffToSecure、StandbyToOff、ActiveToOff、 ActiveToStandby、RebootToOn、 RebootToDiag、RebootToSecure、 standbyToOn、standbyToDiag、 standbyToSecure、onToOff、onToStandby、 onToDiag、onToSecure、diagToOff、 diagToStandby、diagToOn、diagToSecure、 secureToOff、secureToStandby、secureToOn、 secureToDiag、offToOff、standbyToStandby、 onToOn、diagToDiag、secureToSecure のどれか を示す
ドメインの連絡先		このドメインの担当者名を示す
ACL 未登録スロット		SB2 SB4 などの形式で、ドメインのアクセス制御リス ト (ACL) に登録されていないスロットを示す

## プラットフォームテーブルの操作

データテーブル内のエントリを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。このメニューに表示される操作一覧の内容は、選択された行内の列値とエントリのタイプによって異なります。

表 3-29 は、メニューに表示されるエン트리および行うことができる操作をまとめています。

表 3-29 プラットフォーム表示におけるテーブル操作メニューの項目

テーブル	操作
シャーシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ログホストの設定</li> <li>• FRU 情報</li> </ul>
「スロット」>「空きスロット」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• なし (ボードが使用不可能な場合)</li> <li>• 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)</li> </ul>
「スロット」>「CPU ボード」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テスト</li> <li>• FRU 情報</li> <li>• 電源の投入 / 切断</li> <li>• 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)</li> </ul>
「スロット」>「入出力ボード」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• FRU 情報</li> <li>• 電源の投入 / 切断</li> <li>• 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)</li> </ul>
「スロット」>「L2 リピータ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• FRU 情報</li> </ul>
「スロット」>「ファントレー」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源の投入 / 切断</li> <li>• FRU 情報</li> </ul>
「スロット」>「電源装置」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源の投入 / 切断</li> <li>• FRU 情報</li> </ul>
「スロット」>「SC」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SC のネットワーク設定</li> <li>• FRU 情報</li> </ul>
「スロット」>「不明なボード」	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 電源の投入 / 切断</li> <li>• 割り当てまたは割り当て解除 (ボードが使用可能な場合)</li> </ul>
ドメイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ACL</li> <li>• ホスト詳細</li> </ul>
「コンポーネント」>「すべてのテーブル」	なし

表 3-30 は、行うことができるすべての操作とその機能をまとめています。

表 3-30 プラットフォームテーブルの操作メニューの項目

操作	機能
割り当て.../ 割り当て解除	ボードを割り当てたり、割り当て解除したりできます。図 3-10 は、「割り当て...」メニュー項目を選択したときに表示されるパネルを示しています。図 3-11 は、「割り当て解除...」メニュー項目を選択したときに表示されるパネルを示しています。「割り当て...」または「割り当て解除」のどちらのメニュー項目が表示されるかは、ボードの状態によって異なります。ボードがすでに割り当て状態の場合、「割り当て...」は表示されません。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
電源オン / 電源オフ	ボードの電源を投入したり、切断したりできます。図 3-12 は、操作の確認を求めるときに表示されるパネルです。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
テスト...	ボードをテストできます。図 3-13 は、操作の確認を求めるときに表示されるパネルです。ボードがアクティブな状態の場合、このオプションは表示されません。
ホスト詳細	対応するドメインのホスト詳細ウィンドウを表示します。
システムコントローラの設定...	SC の設定情報を表示、変更できます。図 3-14 は、「システムコントローラの設定...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
ログホストの設定...	シャーシのログホストとトラップホストを設定できます。図 3-15 は、「ログホストの設定...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
FRU 情報...	選択したコンポーネントの FRU 情報を表示できます。図 3-16 は、「FRU 情報...」を選択したときに表示されるパネルを示しています。
アクセス制御リスト...	アクセス制御リスト (ACL) を操作できます。図 3-17 は、表示されるパネルを示しています。
テーブルのソート	テーブルの行をソートできます。この操作はテーブルの列だけに影響します。スロットテーブルの列の見出しを選択すると、その列の昇順に行がソートされます。たとえば、「電源」列を選択すると、電源がオフのボードから順にテーブルがソートされます。ソートの順序 (昇順と降順) は、同じ列見出しを再度クリックすることで、交互に切り替えることができます。現在のソート対象列の見出しは太字で表示されます。現在のソート順は下向きまたは上向き矢印で示されます。デフォルトでは、スロットテーブルはスロット番号を基準に昇順にソートされます。

エラーが発生した場合は、オブジェクト詳細の「ブラウザ」ウィンドウの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ 使用可能なボードを割り当てる

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「割り当て」を選択します。



---

注 – ボードは1つのドメインにのみ割り当てることができます。

---

「割り当て」パネル (図 3-10) が表示されます。

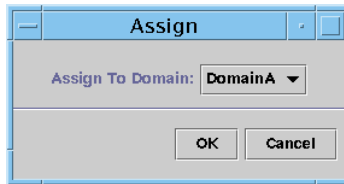


図 3-10 「割り当て」パネル

3. 「割り当て先のドメイン」ボタンを右クリックして、すべてのドメインのプルダウンリストを表示します。
4. ドメインリストからドメインを選択し、「了解」ボタンをクリックして、選択したドメインにボードを割り当てます。
5. 最後に、次のいずれかの操作をします。
  - 選択したボードをドメインに割り当ててウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
  - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「割り当て」パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ ボードを割り当て解除する

1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「割り当て解除」を選択します。

「割り当て解除」パネル (図 3-11) が表示されます。

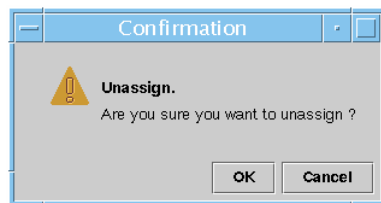


図 3-11 「割り当て解除」パネル

### 3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- 選択したボードをドメインから割り当て解除してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「割り当て解除」パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ ボードの電源をオンまたはオフにする

### 1. データテーブル内のボードエントリを右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

ボードの電源の状態は「電源オン」または「電源オフ」で、交互に切り替えることができます。

### 2. 「電源オフ」(または「電源オン」) を選択します。

適切なパネルが表示されます。図 3-12 は「電源オフ」パネルです。

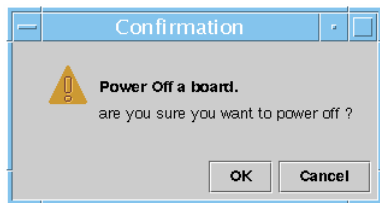


図 3-12 「電源オフ」パネル

### 3. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- 選択したボードの電源をオンまたはオフにしてウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、「電源オフ (または電源オン)」パネルの状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ ボードをテストする

### 1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。

### 2. 「テスト」を選択します。

「テスト」パネルが表示されます。図 3-13 は、テスト時間に関するメッセージを含む、選択されたボードの「ボードのテスト」パネルを示しています。

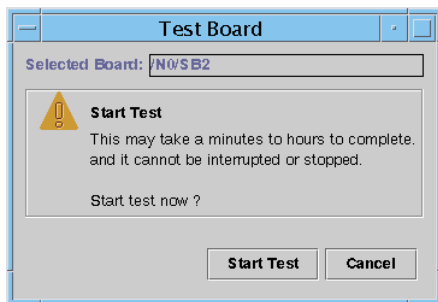


図 3-13 「ボードのテスト」パネル

---

注 – このパネルは、割り当てられてはいるが切断されているボード、または使用可能なボードに対してのみ表示されます。

---

3. テストを開始するには、「開始」ボタンをクリックします。「取り消し」ボタンをクリックされた場合は、何の処理も行わずにパネルが閉じます。

パネルの最下部の状態メッセージフィールドに、テストの状態が表示されます。テストには、長い時間がかかることがあります。テスト中、パネルにはビジーカーソルが表示されます。

エラーが発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ システムコントローラを設定する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「システムコントローラの設定」を選択します。

「システムコントローラのネットワーク設定」パネル (図 3-14) が表示されます。

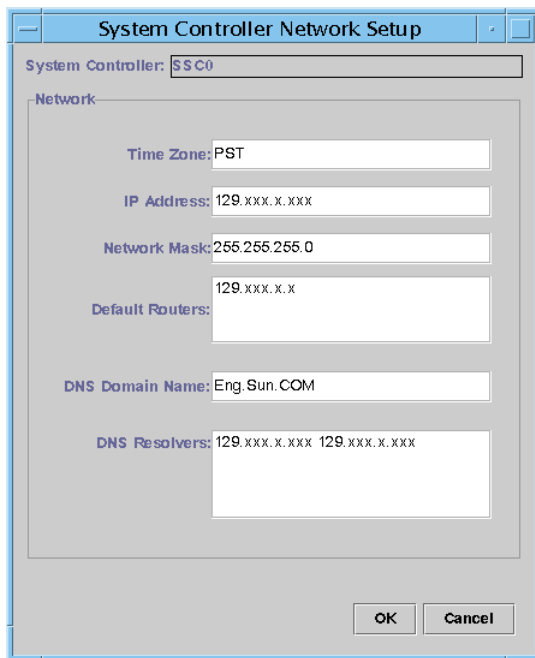


図 3-14 「システムコントローラのネットワーク設定」パネル

3. 必要に応じて個々のフィールドを編集します。

---

注 – 加えられた変更に対する妥当性の検査は行われません。

---

4. 次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

情報の読み出し中にエラーが検出された場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

5. IP アドレスを変更した場合は、次の操作を行います。

a. システムコントローラを再起動します。

システムコントローラを再起動しないかぎり、IP アドレスの変更は有効になりません。

- b. エージェントマシン上で Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールの設定手順を再実行します。

23 ページの「セットアップウィザードを使用してプラットフォームエージェントをセットアップする」を参照してください。

## ▼ ログホストを設定する

「ログホストの設定」パネルを使用して、システムの SNMP トラップと syslog ホストを設定できます。

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「ログホストの設定」を選択します。

「ログホストの設定」パネル (図 3-15) が表示されます。

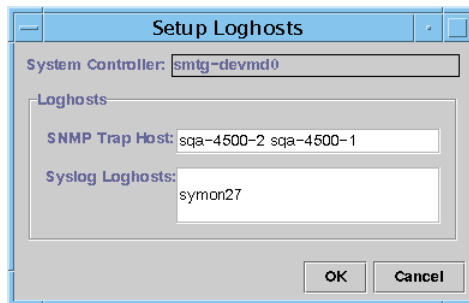


図 3-15 「ログホストの設定」パネル

3. 「システムコントローラ」ボタンを右クリックして、システムコントローラの一覧を表示します。
4. システムコントローラを選択します。  
選択されたシステムコントローラの SNMP トラップホストと syslog ホストの情報が表示されます。
5. ここで、syslog ログホストを追加したり変更したりできます。  
1 行に 1 つ入力することにより、複数の syslog ホストを指定できます。
6. 最後に、次のいずれかの操作をします。
  - これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
  - これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

この操作で問題が検出された場合は、パネルの最下部の状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

## ▼ FRU 情報を表示する

「FRU 情報」パネルには、特定の構成部品の FRU 情報が表示されます。このパネルは読み取り専用で、内容を変更することはできません。

1. 「FRU 情報...」を選択します。

「FRU 情報」パネル (図 3-16) が表示されます。

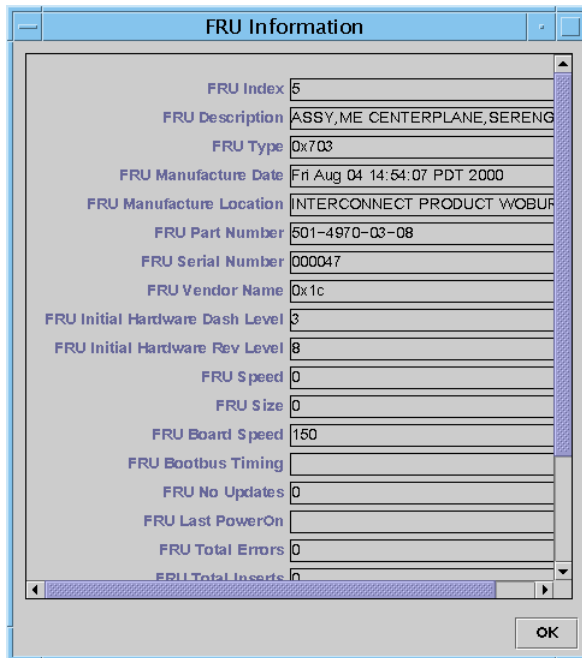


図 3-16 「FRU 情報」パネル

2. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

## ▼ ホストの詳細を表示する

1. データテーブル内を右クリックして、ポップアップメニューを表示します。
2. 「Host 詳細」を選択します。  
対応するハードウェアドメインの Host 詳細ウィンドウが表示されます。
3. ウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。

## ▼ ドメインのアクセス制御リストを編集する

1. 「アクセス制御リスト...」を選択します。

「アクセス制御リスト」パネル (図 3-17) が表示されます。

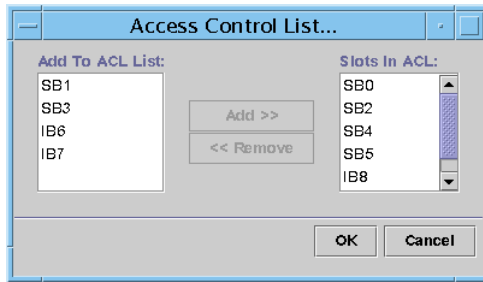


図 3-17 「アクセス制御リスト」パネル

「追加先の ACL リスト」区画は、選択されているドメインの ACL に登録されていないスロットの一覧です。「ACL 内のスロット」区画には、選択されているドメインの ACL に登録されているスロットの一覧が表示されます。

2. 「追加先の ACL リスト」区画からエントリを選択して (複数選択可)、「追加 >>」ボタンをクリックします。

「ACL 内のスロット」リストに、選択したボードが追加されます。

3. 「ACL 内のスロット」区画からエントリを選択して (複数選択可)、「<< 削除」ボタンをクリックします。

「ACL 内のスロット」リストから、選択したボードが削除されます。

4. 最後に、次のいずれかの操作をします。

- これまでの設定を適用してウィンドウを閉じる場合は、「了解」をクリックします。
- これまでの設定を適用しない場合は、「取り消し」をクリックします。

処理で問題が発生した場合は、状態メッセージフィールドにエラーメッセージが表示されます。

---

# Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム の物理表示と論理表示

物理表示と論理表示には、プラットフォーム管理者とドメイン管理者のどちらもアクセスできます。物理表示と論理表示の属性と値は、構成リーダーによって生成されます。提供される属性と値のテーブルの表示については、124 ページの「ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス」を参照してください。プラットフォーム管理のアラーム規則については、108 ページの「プラットフォーム管理のハードウェア規則」を参照してください。

物理表示と論理表示についての一般的な情報は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

## ▼ 物理および論理表示する

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのアイコンをダブルクリックします。  
「詳細」ウィンドウが表示されます (図 3-18)。



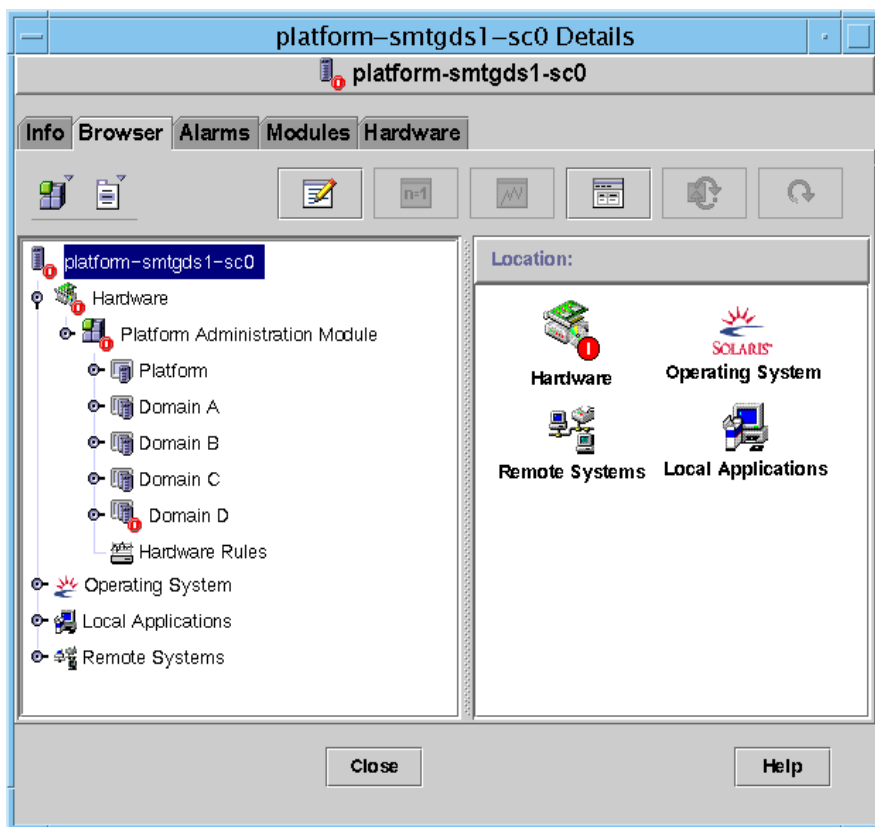


図 3-18 プラットフォームの「詳細」ウィンドウ

2. 「詳細」ウィンドウから「ハードウェア」タブを選択します。  
「ハードウェアの概要」テーブルが表示されます (図 3-19)。

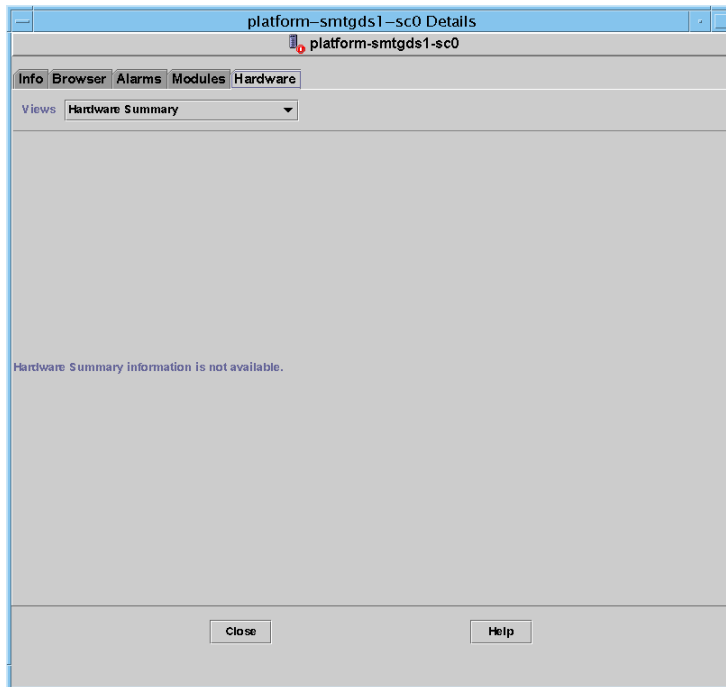


図 3-19 「ハードウェア」タブと「ハードウェアの概要」テーブル

3. 「表示」プルダウンメニュー (図 3-20) の「物理表示」か「論理表示」にある「システム」を選択します。

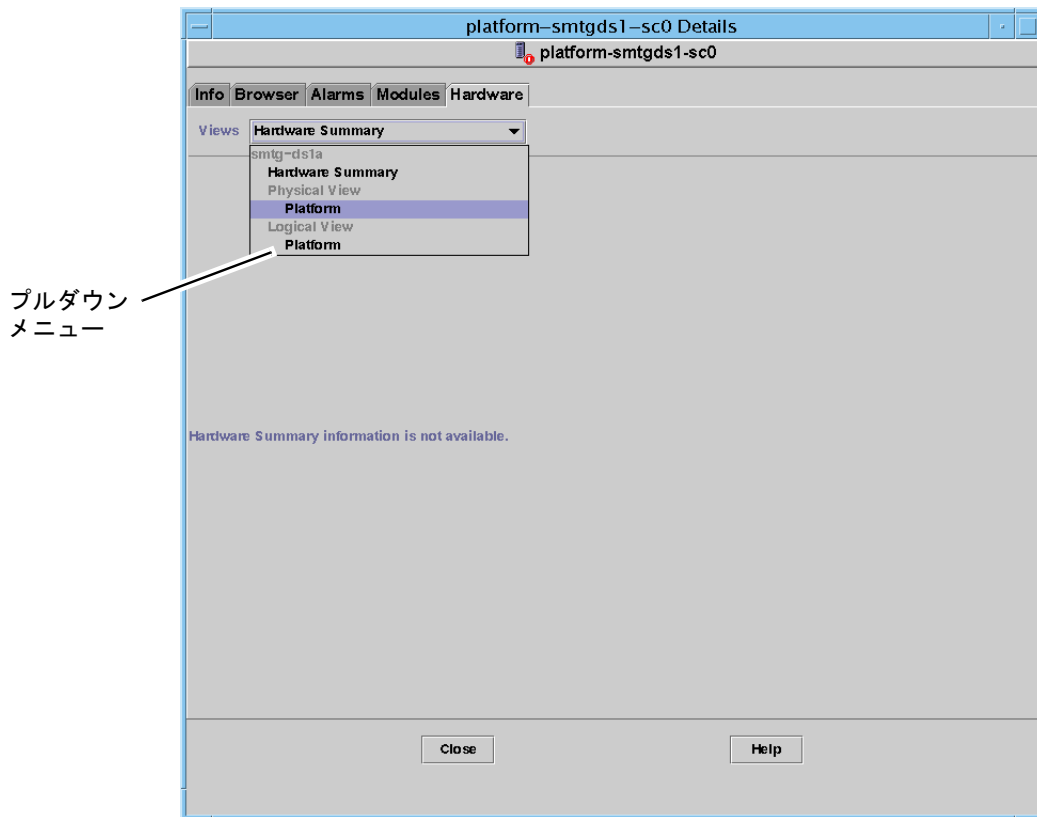


図 3-20 「表示」プルダウンメニュー

選択された形式でシステムが表示されます。

- 「物理表示」(図 3-21) を選択した場合は、システムの画像上でカーソルをゆっくりと動かしてみてください。現場交換可能ユニット (FRU) のところにカーソルが置かれ、その FRU が強調表示されます。数秒の間カーソルを停止したままにしておくと、「属性」ウィンドウに対応する属性と値が表示されます。

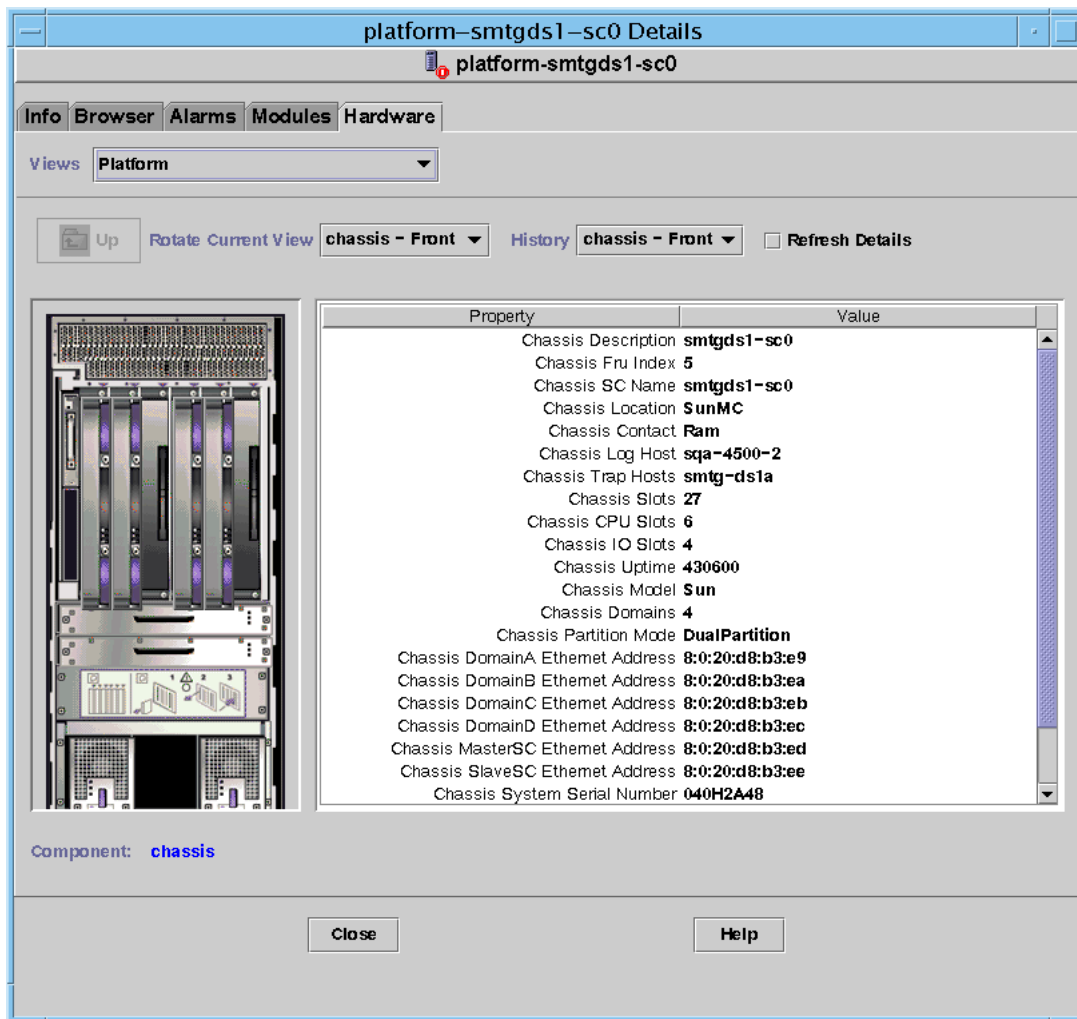


図 3-21 物理表示 (Sun Fire 6800 システムの背面図)

- 「論理表示」(図 3-22) を選択した場合は、アイコンをクリックすると、「属性」ウィンドウにその属性が表示されます。アイコンによっては、ダブルクリックすることで、さまざまなコンポーネントを表示できます。また、「すべて開く」をクリックすると、システム内のすべてのコンポーネントが表示されます。「属性」ウィンドウにはさまざまな属性とその値が表示されます。

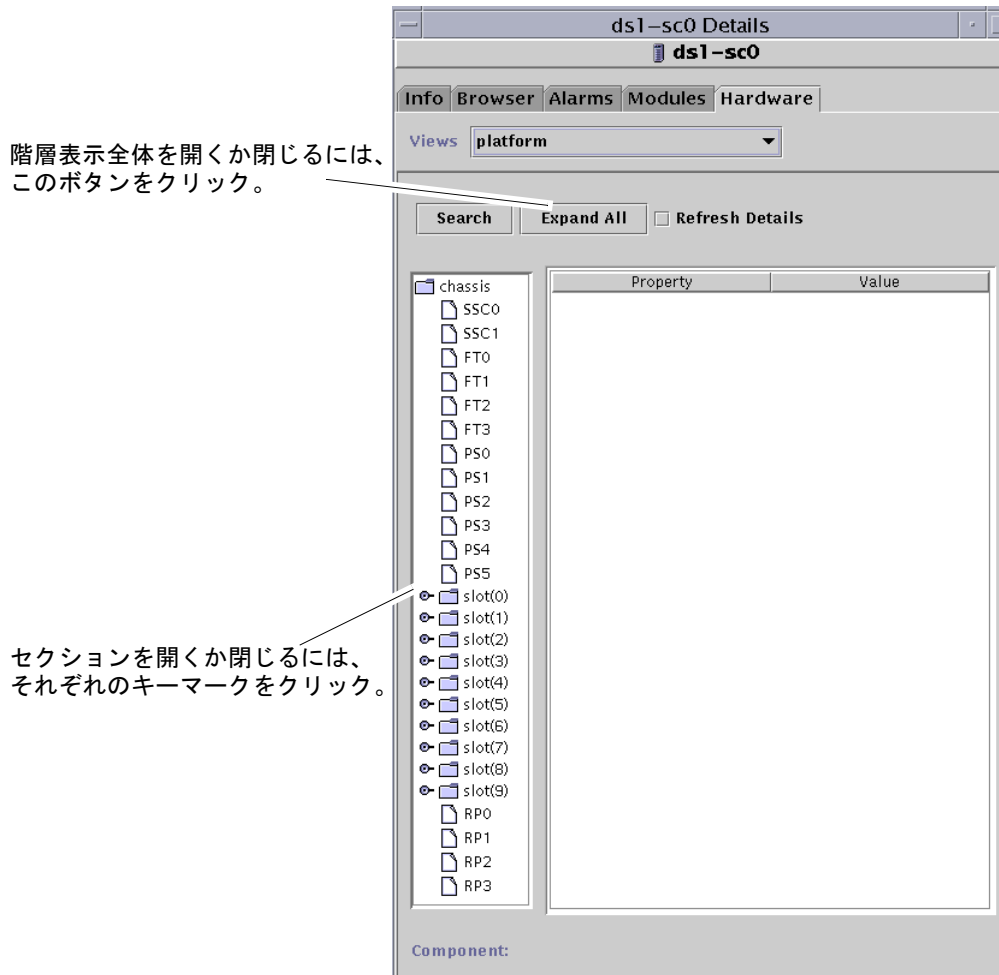


図 3-22 論理表示

論理表示には、表示の通常のボタンの他に、「検索」、「すべて開く」、「詳細を再表示」の3つのボタンがあります。

- 「検索」ボタンをクリックすると、ポップアップ式の「検索」ウィンドウが開きます(図 3-23)。「検索」ウィンドウでは、コンポーネント名またはパスを入力し、「検索」ボタンをクリックして、その用語に一致する項目を検出します。検索機能は必要に応じて論理表示の階層を開き、検出した用語を強調表示します。さらに一致する用語を検出するには、「次」ボタンをクリックします。「検索」ウィンドウを閉じるには、「取り消し」ボタンをクリックします。

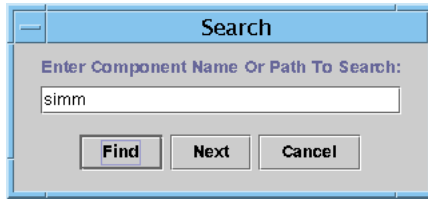


図 3-23 「詳細」ウィンドウの論理表示内の「検索」ボタン

---

**参考** – 検索機能は、英大文字と小文字を区別します。システムから構成部品を見つけられなかった場合は、「詳細」ウィンドウの最下部に「ノードが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。

また、このメッセージは、検索機能が論理表示の最後に達したときにも表示されず。

---

---

**参考** – 「ブラウザ」タブでは、類似するすべてのコンポーネントのデータを比較できます。「ハードウェア」タブの物理表示と論理表示では、システム内の個々のコンポーネントのデータを見ることができます。たとえば、「ブラウザ」タブで DIMM テーブルのアイコンをダブルクリックすると、システム内のすべての DIMM の属性一覧からなるテーブルが表示されます。dimm(0) の属性を見るには、論理表示の「検索」ボタンを使用します。

---

- 「すべて開く」ボタンは、論理表示に表示されているすべてのアイコンを開いて、システム内のすべてのコンポーネントとサブアセンブリなどを見えるようにします。このボタンをクリックすると、ボタン名が「デフォルトに戻す」に切り替わり、この状態でクリックすると、アイコンの階層を閉じることができます。
- 「詳細を再表示」ボタンは、表示ウィンドウの右側にある属性 / 値テーブルを更新します。

---

## プラットフォーム管理のハードウェア規則

この節では、プラットフォーム管理モジュールのアラーム規則について説明します。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

## スロットの状態規則 (rspa1000)

スロットの状態規則は、ボードのスロット状態が OK、Unknown、null 以外の場合にアラームを生成します。現場交換可能 (FRU) 情報にアクセスできる場合、アラームメッセージにはその FRU 情報が含まれます。

表 3-31 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のスロットの状態規則

スロットの状態	アラームレベル	意味
OverTemp (異常高温)	情報	温度が上限より高い
UnderTemp (異常低温)	情報	温度が下限より低い
Failed (不良)	重大 / エラー	ボード不良

対策：

ハードウェアの交換が必要かどうかを調べてください。

## システム周波数クロック規則 (rspa1001)

システム周波数クロック規則は、クロックが予備のシステムコントローラにフェイルオーバーした場合にアラームを生成します。

表 3-32 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステム周波数クロック規則

アラームレベル	意味
情報	システム周波数クロックが予備のシステムコントローラにフェイルオーバーした

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。元のクロック状態を調べてください。

## ドメインの状態規則 (rspa1002)

ドメインの状態規則は、ドメインの状態が Active 、 RunningSolaris 以外の場合に重大アラームを生成します。

表 3-33 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のドメインの状態規則

アラームレベル	意味
重大 / エラー	ドメインが重大な状態

対策：

ドメインが電源投入時セルフテスト (POST) を実行して起動すると、アラームが生成されます。アラームが長時間消えない場合、ドメインはハングアップしている可能性があります。ドメインの状態と起動スライスを調べてください。

## ドメインのキースイッチ規則 (rspa1003)

ドメインのキースイッチ規則は、ドメインのキースイッチの状態が変化した場合に情報アラームを生成します。

表 3-34 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のドメインのキースイッチ規則

アラームレベル	意味
情報	ドメインのキースイッチの状態が変わった

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## システムコントローラのフェイルオーバー規則 (rspa1004)

システムコントローラのフェイルオーバー規則は、SC がメイン SC から予備の SC にフェイルオーバーした場合に情報アラームを生成します。

表 3-35 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムコントローラのフェイルオーバー規則

アラームレベル	意味
情報	システムコントローラがメイン SC から予備の SC にフェイルオーバーした



対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## システムコントローラの変化規則 (rspa1005)

システムコントローラの変化規則は、SC で何らかの変化があった場合に情報アラームを生成します。

表 3-36 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムコントローラの変化規則

値	アラームレベル	意味
1	情報	システムコントローラが起動した
2	情報	システムコントローラの IP アドレスが変化した

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## ログまたはトラップホストの変化規則 (rspa1006)

ログまたはトラップホスト変化規則は、プラットフォーム、ドメインのログ、またはトラップホストに変化があった場合に情報アラームを生成します。

表 3-37 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のログまたはトラップホストの変化規則

アラームレベル	意味
情報	ドメインのログホスト (domainloghost)、トラップホスト (domaintraphost)、プラットフォームのログホスト (chassisloghost)、またはトラップホスト (chassistraphost) に変化があった

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## システムコントローラの応答なし規則 (rspa1007)

システムコントローラの応答なし規則は、SC から応答がないか、メイン SC の SNMP エージェントから応答がない場合に重大アラームを生成します。

表 3-38 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムコントローラの応答なし規則

値	アラームレベル	意味
0	重大	システムコントローラから応答がない
1	重大	メイン SC の SNMP エージェントから応答がない

対策：

サンに連絡してください。

## CPU モジュールの状態規則 (rspa1008)

CPU モジュールの状態規則は、任意の CPU モジュールが Idle または Online 以外の状態の場合に重大アラームを生成します。

表 3-39 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理の CPU モジュールの状態規則

アラームレベル	意味
重大	CPU モジュールが重大な状態

対策：

サンに連絡してください。

## システムコントローラのファームウェアのバージョン規則

システムコントローラのファームウェア (SCApp) のバージョン規則は、SC のファームウェアバージョンが 5.12.5 より古い場合に重大アラームを生成します。

表 3-40 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理の SC のファームウェアのバージョン規則

アラームレベル	意味
重大	SCApp ファームウェアのバージョンが 5.12.5 より古い

対策：

システムコントローラのファームウェア (SCApp) を更新してください。

## システムボードのテスト状態規則 (rspa1010)

システムボードのテスト状態規則は、テスト状態が Unknown、NoTested、または Passed 以外の場合にアラームを生成します (表 3-41)。

表 3-41 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のシステムボードのテスト状態規則

テストの状態	アラームレベル	意味
UnderTest	情報	POST によるボードのテスト中
StartTest	情報	POST がボードのテストを開始しようとしている
Degraded	警告	ボードが機能縮小モードで動作している
Failed	重大	ボードが POST テストで不合格になった
Unusable	重大	このシステムではボードは使用できない
--	重大	テストの状態が不定

対策：

- ボードのテスト状態が UnderTest または StartTest の場合、このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。
- ボードのテスト状態が Degraded の場合は、機能縮小の根本的な原因が何か調べてください。たとえば、COD ライセンスが不十分である可能性もあります。
- ボードのテスト状態が Failed または Unusable の場合は、ボードを交換する必要があります。

## ドメインまたはボードの電源状態規則 (rspa1011)

ドメインまたはボードの電源状態規則は、任意の構成部品の電源が切断 (PoweredOff) された場合に情報アラームを生成します。

表 3-42 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理のドメインまたはボードの電源状態規則

アラームレベル	意味
情報	構成部品の電源が切断されている

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

---

## データ収集テーブル

データ収集テーブルでは、現在のデータの各プロパティを再表示させることができます。SC データベースの各データについて、以下の 15 のプロパティを 1 つの表として示します。

- シャーシ
- スロット
- CPU ボード
- 入出力ボード
- アドレスリピータボード
- CPU モジュール
- DIMM
- E キャッシュ
- WCI
- WCI ポート
- ドメイン
- ファン
- 電源装置
- システムコントローラ
- FRU

プロパティの上で右クリックし、再表示をクリックすると、そのプロパティの値は現在の値に更新されます。テーブルに表示されている各プロパティの値は、テーブル上の時刻表示時点のものです。最後に SC データベースからの値の収集に成功したときの現地時刻が表示されています (図 3-24)。これによって、表示されているデータが現時点のものであるかどうかを確認できます。

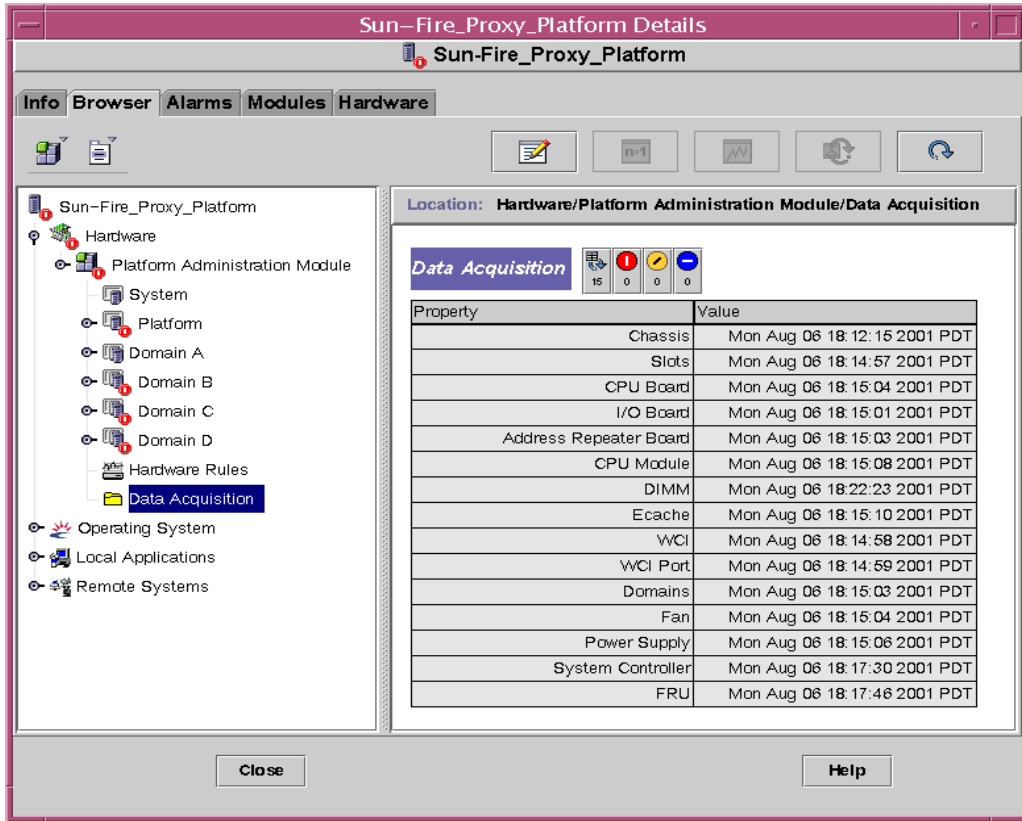


図 3-24 データ収集テーブル

以下のセキュリティーアクセスグループのメンバーは、データ収集テーブルの内容を参照できます。

- spltop
- spltop
- spltop
- spltop
- spltop
- spltop
- spltop
- spltop
- spltop
- spltop
- spltop

ユーザーグループの定義については、表 2-3 を参照してください。



## 第4章

---

# ドメインエージェントによるドメインの管理

---

この章では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム用のドメインエージェントを使用した、Sun Management Center 3.5 ドメインの管理について説明します。

この章では、次のトピックを取り上げています。

- 117 ページの「管理ドメインの設定」
- 117 ページの「エージェントの起動と停止」
- 118 ページの「ノードの作成」
- 118 ページの「構成リーダーモジュール」
- 124 ページの「ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス」
- 133 ページの「ドメインの構成リーダーの規則」
- 134 ページの「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの規則」
- 142 ページの「ドメインの物理表示と論理表示」

---

## 管理ドメインの設定

ここでは、一般的な手順を示します。具体的な手順については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

---

## エージェントの起動と停止

『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

---

# ノードの作成

ここでは、一般的な手順を示します。具体的な手順については、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

---

## 構成リーダーモジュール

構成リーダーモジュールの 1 つである Sun Fire (3600-6800) 構成リーダーは、インストール中に自動的に読み込まれます。この構成リーダーモジュールを使用して、ホストの物理表示や論理表示を行うことができます。

また、構成リーダーモジュールはハードウェアを監視し、問題が発生すると警告を發します。たとえば、構成リーダーモジュールは DIMM モジュールのエラーの有無を調べます。

「構成リーダー」アイコンは、「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」アイコン内にあります (図 4-3)。

### ▼ 構成リーダーモジュールを使用する

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのアイコンをダブルクリックします。

「詳細」ウィンドウが表示されます (図 4-1)。



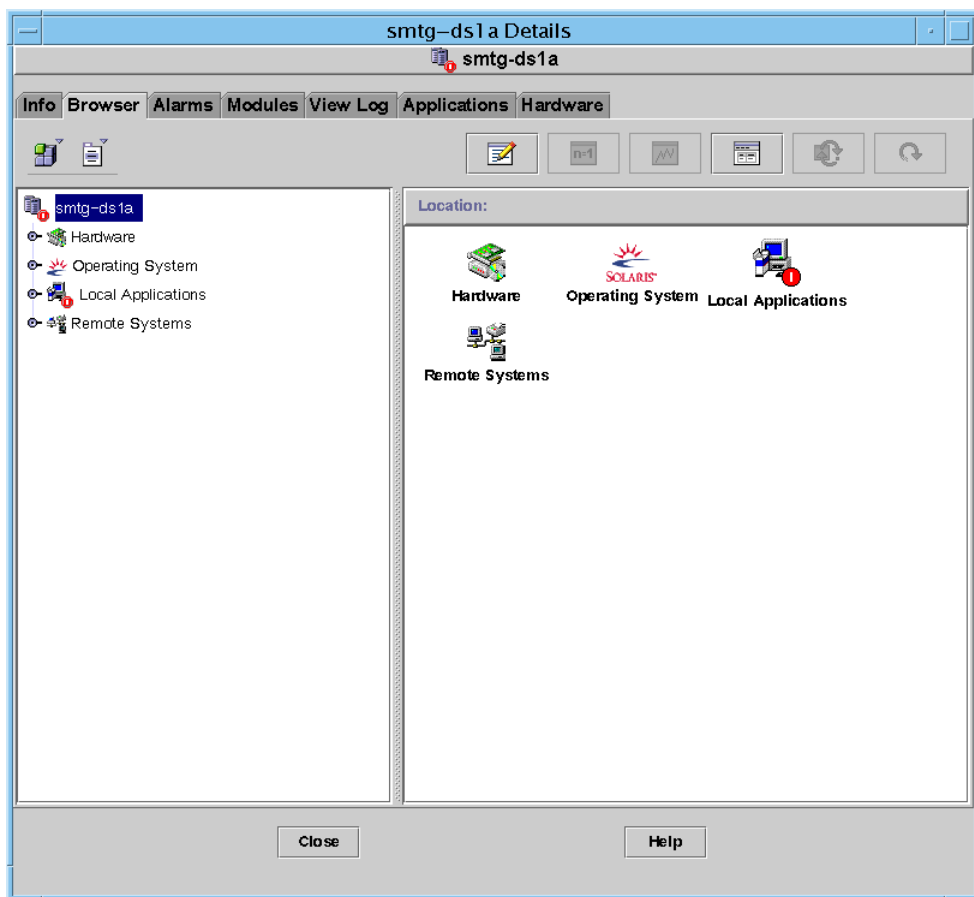


図 4-1 ドメインの「詳細」ウィンドウ

2. 「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」アイコンをダブルクリックします。  
「Sun Fire (3800-6800) 構成リーダー」アイコンと「Sun Fire (3800-6800) 規則」アイコンが表示されます (図 4-2)。

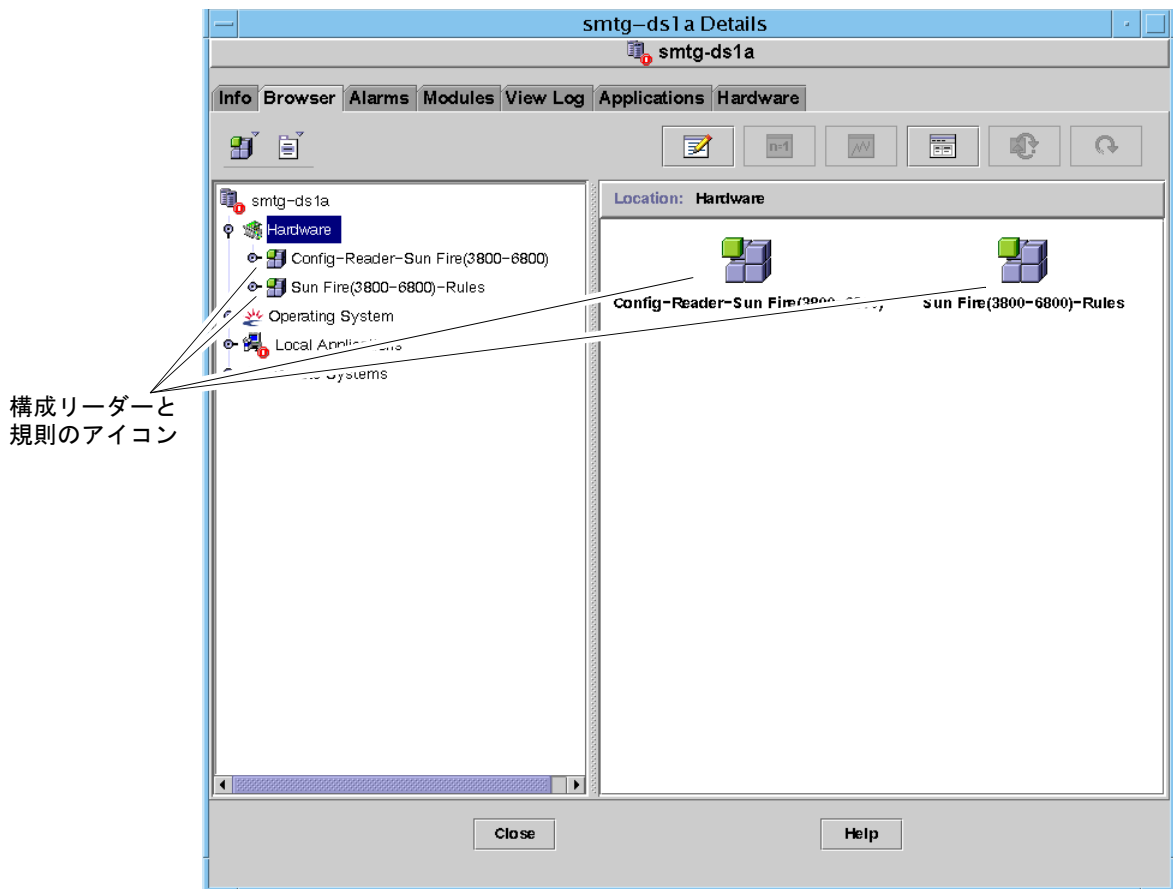


図 4-2 構成リーダーと規則のアイコン

3. これで、次のいずれかの操作を行うことができます。

- 「Sun Fire (3800-6800) 構成リーダー」アイコンをダブルクリックして、システム内のすべてのデバイスを表示し、デバイスのアイコンをダブルクリックして、その属性と値を表示できます (図 4-3)。
- 「Sun Fire (3800-6800) 規則」アイコンをダブルクリックして、規則のアイコンを表示し、規則のアイコンをダブルクリックしてその属性と値を表示できます (図 4-4)。

提供される属性と値の表示については、124 ページの「ドメインの構成リーダーモジュールのテーブルへのアクセス」を参照してください。構成リーダーのアラームが発生する障害については、134 ページの「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの規則」を参照してください。

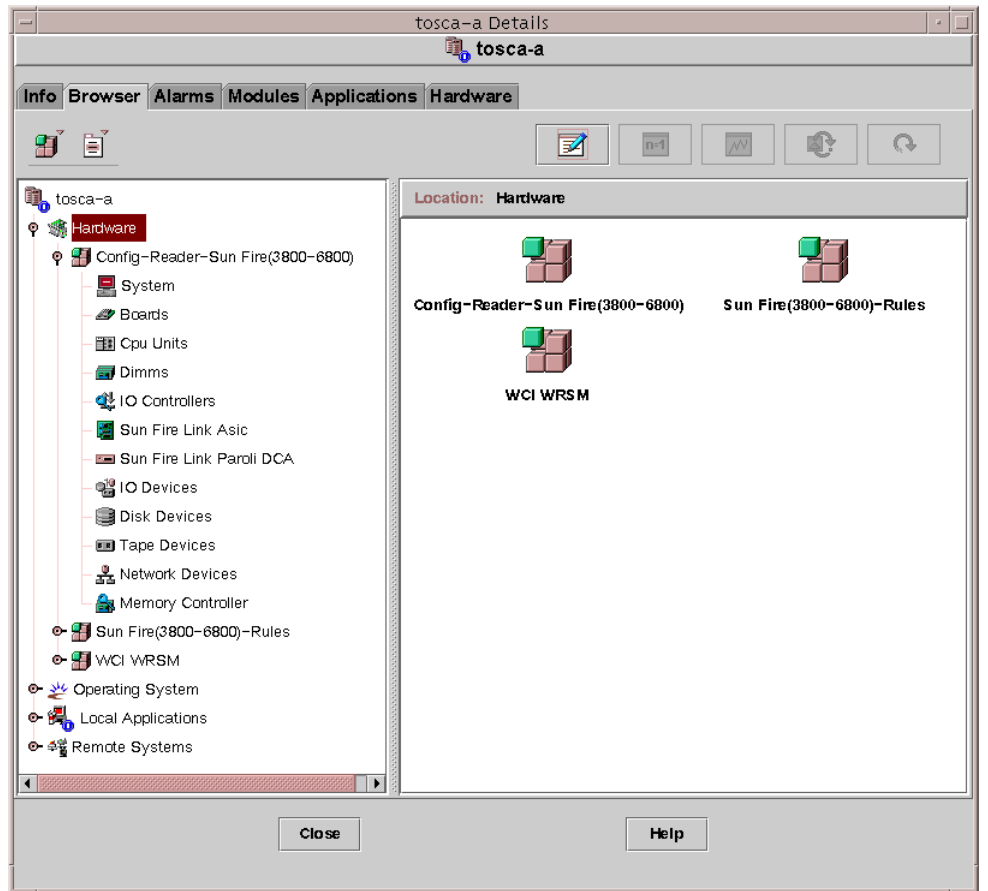


図 4-3 構成リーダーモジュール

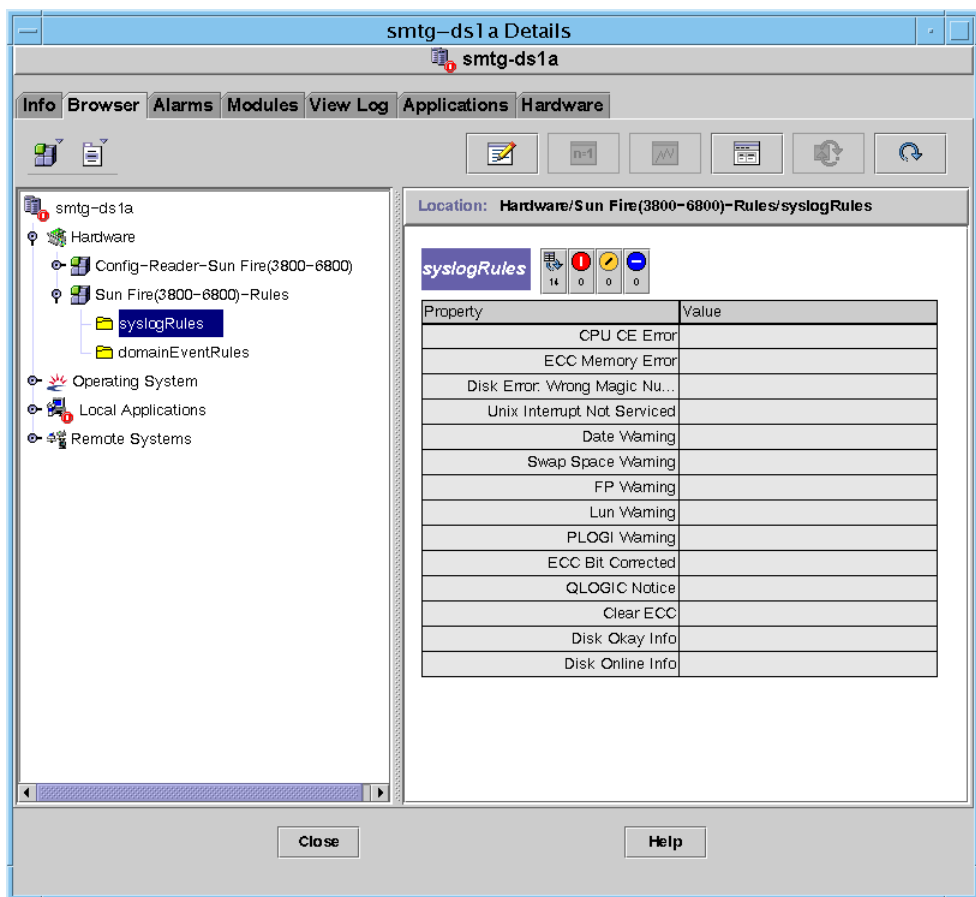


図 4-4 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの規則テーブル

## 構成リーダーモジュールの読み込み

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブに、Sun Fire (3800-6800) 構成リーダーモジュールまたは Sun Fire (3800-6800) 規則モジュールのアイコンが表示されない場合は、対応するモジュールが読み込まれていません。その場合は、以下に示す手順で、どちらか一方または両方のモジュールを手動で読み込みます。

## ▼ モジュールを読み込む

1. Sun Management Center のコンソールで、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのアイコンをダブルクリックします。

「詳細」 ウィンドウが表示されます (図 4-1)。

2. 「詳細」 ウィンドウの「モジュール」 タブをクリックします。

モジュールのデータが表示されます (図 4-5)。

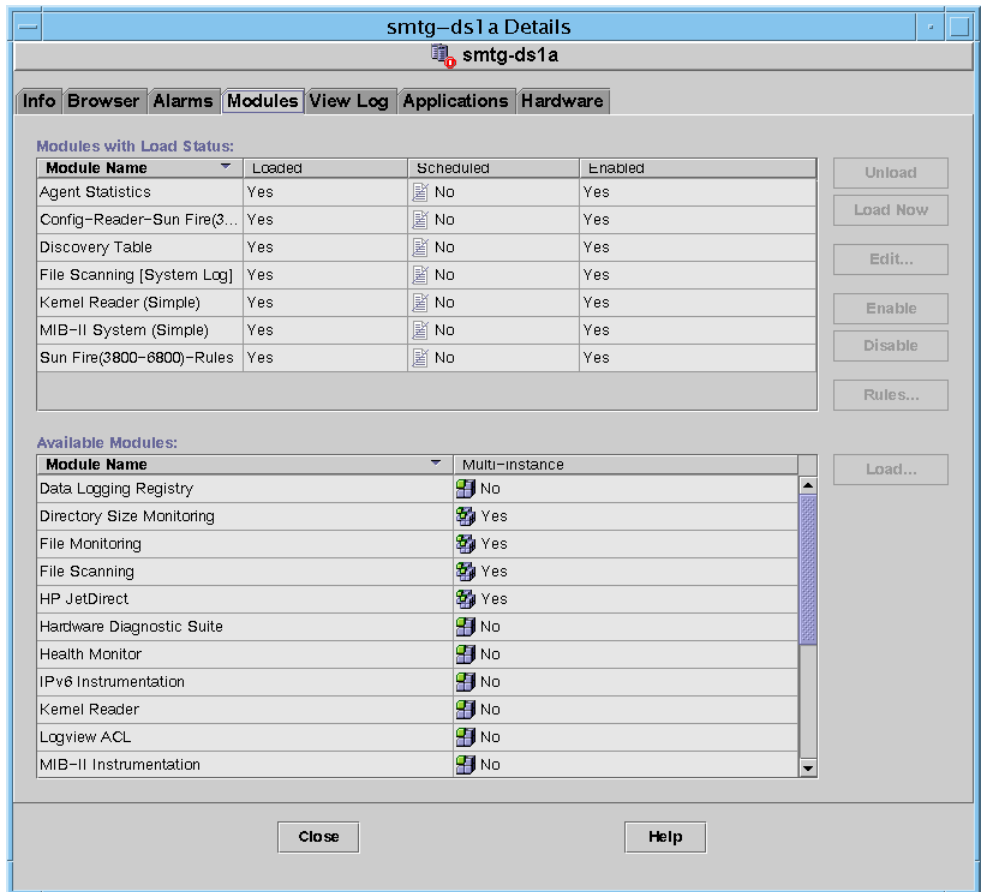


図 4-5 「詳細」 ウィンドウの「モジュール」 タブ

3. 「使用可能なモジュール」一覧から Sun Fire (3800-6800) 構成リーダーまたは Sun Fire (3800-6800) 規則を選択して、「読み込み」をクリックします。

「モジュールローダー」ポップアップウィンドウが表示されます。

#### 4. 「了解」ボタンをクリックします。

適切なアクセス権があると、ポップアップウィンドウが閉じ、選択したモジュールが「モジュールの読み込み状態」一覧に移動します。

適切なアクセス権がない場合は、ポップアップウィンドウにエラーメッセージが表示されます。アクセス権の詳細は、48 ページの「グループへのユーザーの割り当て」を参照してください。

---

## ドメインの構成リーダーモジュールの テーブルへのアクセス

この節では、構成リーダーモジュールの次のデータ属性テーブルをまとめています。

- 125 ページの「ドメインシステム」
- 126 ページの「ドメインのボード」
- 127 ページの「ドメインの CPU ユニット」
- 128 ページの「ドメインの DIMM」
- 128 ページの「ドメインの入出力コントローラ」
- 129 ページの「ドメインの Sun Fire Link ASIC」
- 129 ページの「ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA」
- 130 ページの「ドメインの入出力デバイス」
- 131 ページの「ドメインのディスクデバイス」
- 131 ページの「ドメインのテープデバイス」
- 132 ページの「ドメインのネットワークデバイス」
- 132 ページの「ドメインのメモリーコントローラ」

以下の表は、ドメインの構成リーダーの各データ属性テーブルに含まれるデータ属性をまとめています。構成リーダーのデータ属性を選択すると、「詳細」ウィンドウの「ブラウザ」タブにデータ属性テーブルが表示されます。詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』の「管理オブジェクトの詳細表示」の章を参照してください。

# ドメインシステム

表 4-1 は、ドメインを含む Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの属性を簡単にまとめています。

表 4-1 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインシステム

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		インスタンス名を示す
オペレーティングシステム		マシンで動作しているオペレーティングシステムを示す
オペレーティングシステムのバージョン		オペレーティングシステムのバージョンを示す
システムクロック周波数		メガヘルツ (MHz) 単位でクロック周波数を示す
アーキテクチャー		マシンのアーキテクチャーを示す
システムのホスト名		システムのホスト名を示す
マシン名		マシンのタイプを示す
システムプラットフォーム		システムのハードウェアプラットフォームを示す
シリアル番号		マシンのシリアル番号を示す
タイムスタンプ		タイムスタンプ値を示す
Raw タイムスタンプ		raw タイムスタンプ値を示す
総ディスク数		システム全体の総ディスク数を示す
総メモリー容量		システム全体の総メモリー容量をメガバイト (MB) 単位で示す
総プロセッサ数		システム全体の総プロセッサ数を示す
総テープデバイス数		システム全体の総テープデバイス数を示す

## ドメインのボード

表 4-2 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのボードの属性を簡単にまとめています。

表 4-2 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのボード

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		board(1)、board(3)、board(8) などの、このボードのシステム名とスロット番号を示す
ラベル名		このユニットのラベル名とスロット番号を示す。たとえば、システムボードならば SB1、SB3、入出力ボードならば IB8
ボード番号		1、3、8 などのボードのスロット番号を示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
ホットプラグ		ボードがシステムにホットプラグされたかどうかを示す (yes または no)
ホットプラグ可能		ボードがホットプラグ可能かどうかを示す (yes または no)
メモリーサイズ		メガバイト (MB) 単位でメモリーサイズを示す
状態	rcrse301	ボードの状態として OK、UNKNOWN、FAILED のどれかを示す
タイプ		ボードタイプとして CPU_Board、CPCI I/O board、PCI_I/O_Board などを示す。CPU ボードが COD ボードであるかどうか (COD_CPU_Board)、ボードが不明 (たとえば unknown IO board) であるかどうかなども示される



# ドメインの CPU ユニット

表 4-3は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの CPU ユニットの属性を簡単にまとめています。

表 4-3 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの CPU ユニット

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		cpu-unit (4)、cpu-unit (5) などの、このユニットのシステム名とスロット番号を示す
ボード番号		このプロセッサが装着されているボードの番号を示す
クロック周波数		メガヘルツ (MHz) 単位でタイマーの周波数を示す
CPU タイプ		プロセッサのマシントイプを示す
D キャッシュサイズ		データキャッシュ (D キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
E キャッシュサイズ		外部キャッシュ (E キャッシュ) のサイズをメガバイト (MB) 単位で示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
I キャッシュサイズ		命令キャッシュ (I キャッシュ) のサイズをキロバイト (KB) 単位で示す
モデル		プロセッサのモデルを示す
プロセッサ ID		プロセッサの識別番号を示す
状態	rcrse207	CPU ユニットの状態として OK (正常)、online (オンライン)、--、noncritical、offline のどれかを示す
ユニット		ユニットの識別番号を示す

## ドメインの DIMM

表 4-4 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの DIMM (dual inline memory module) の属性を簡単にまとめています。

表 4-4 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの DIMM

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		dimmm(0)、dimmm(1) などの、このユニットのシステム名とスロット番号を示す
物理バンク 番号		この DIMM が装着されている物理バンク 番号を示す
バンクサイ ズ		メガバイト (MB) 単位でバンクサイズを示す
バンクの状 態		動作状態として pass、unpopulated、fail のどれかを示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
DIMM サイ ズ		メガバイト (MB) 単位で DIMM のサイズを示す

## ドメインの入出力コントローラ

表 4-5 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの入出力コントローラの属性を簡単にまとめています。

表 4-5 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの入出力コントローラ

属性	説明
名前	pcisch(8)、pcisch(9) などの、このユニットのシステム名とスロット番号を示す
デバイスタイプ	デバイスタイプとして pci を示す
インスタンス番号	インスタンス番号を示す
モデル	デバイスのモデルを示す
登録	登録アドレスを示す
ポート ID	ポート識別番号を示す
バージョン番号	バージョン番号を示す

## ドメインの Sun Fire Link ASIC

表 4-6 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの Sun Fire Link ASIC (WCI) の属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 4-6 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの Sun Fire Link ASIC (WCI)

属性	説明
名前	wci (1d)、wci (1f) のような、このユニットのシステム名を示す
Paroli 数	Paroli ドーターカード集合部品 (DCA) カードの番号を示す

## ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA

表 4-7 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの Sun Fire Link ドーターカード集合部品 (DCA) の属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

注 – Paroli カードの有無は、ドメインが Sun Fire Link クラスタの一部である場合にのみ判定することができます。ドメインが、Sun Fire Link クラスタの一部でない場合には、Paroli カードテーブルには何も表示されません。ドメインに Paroli カードがないという意味ではありません。

表 4-7 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA

属性	説明
名前	paroli (0)、paroli (1) のような Paroli カード名を示す
FRU	現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
リンク番号	Paroli カードへの接続ポートの識別番号を示す (0 または 2)。
リンクの妥当性	Paroli カードへの接続が VALID または INVALID を示す

表 4-7 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの Sun Fire Link Paroli DCA (続き)

属性	説明
リンクの状態	リンクの現在の状態として LINK UP、LINK DOWN、LINK NOT PRESENT、WAIT FOR SC LINK TAKEDOWN、WAIT FOR SC LINK UP、SC ERROR WAIT FOR LINK DOWN、UNKNOWN のどれかを示す
遠隔リンク番号	遠隔 Paroli カードへのリンクの識別番号 (0 ~ 2) を示す
遠隔クラスタメンバー	遠隔リンクの最終のクラスタメンバーのホスト名を示す

## ドメインの入出力デバイス

表 4-8 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの入出力デバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-8 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの入出力デバイス

属性	説明
名前	このユニットのシステム名を示す
デバイスタイプ	デバイスのタイプを示す
ディスク数	このユニットに接続されているドライブ数を示す
インスタンス番号	インスタンス番号を示す
モデル	モデルを示す
ネットワーク数	このユニットに接続されているネットワーク数を示す
登録	登録アドレスを示す
テープ数	このユニットに接続されているドライブ数を示す

## ドメインのディスクデバイス

表 4-9 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのディスクデバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-9 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのディスクデバイス

属性	説明
名前	sd(x) などの形式でこのユニットのシステム名を示す。x はディスクデバイスの開発インデックス。
デバイスタイプ	disk、CD-ROM などのデバイスの種類を示す
ディスク名	c110d0、c210d0 などのコントローラ名を示す
FRU	現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
インスタンス番号	インスタンス番号を示す
ディスクのターゲット	ディスクのターゲット番号を示す

## ドメインのテープデバイス

表 4-10 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのテープデバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-10 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのテープデバイス

属性	規則 (ある場合)	説明
名前		st(x) などの形式でこのユニットのシステム名を示す。x はテープデバイスの開発インデックス
デバイスタイプ		tape drive などの、デバイスの種類を示す
FRU		現場交換可能ユニットであるかどうかを示す (yes または no)
インスタンス番号		インスタンス番号を示す
モデル		モデルを示す
テープ名		テープ名を示す
状態	rcrse225	動作状態として OK、ok、drive present、but busy などを示す
テープターゲット		テープのターゲット番号を示す

## ドメインのネットワークデバイス

表 4-11 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのネットワークデバイスの属性を簡単にまとめています。

表 4-11 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのネットワークデバイス

属性	説明
名前	hme(5) などの形式でこのユニットのシステム名を示す
デバイスタイプ	デバイスタイプとして <code>network</code> を示す
Ethernet アドレス	Ethernet アドレスを示す
インターネットアドレス	インターネットアドレスを示す
インタフェース名	インタフェース名を示す
記号名	記号名を示す

## ドメインのメモリーコントローラ

表 4-12 は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのメモリーコントローラの属性を簡単にまとめています。

表 4-12 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインのメモリーコントローラ

属性	説明
名前	memory-controller (14.400000) などのこのユニットのシステム名を示す
互換	互換性のあるソフトウェアパッケージを示す
デバイスタイプ	デバイスタイプとして <code>memory-controller</code> を示す
ポート ID	ポート識別番号を示す
登録	登録アドレスを示す

---

## ドメインの構成リーダーの規則

この節では、ドメイン構成リーダーモジュールのアラーム規則について説明します。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。

### CPU ユニットの状態規則 (rcrse207)

CPU ユニットの状態規則は、CPU ユニットの状態が OK、online、--、noncritical 以外の場合、重大アラームを生成します。

表 4-13 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーの CPU ユニット状態規則

アラームレベル	意味
重大	CPU ユニットが重大な状態

対策：

サンに連絡してください。

### テープの状態規則 (rcrse225)

テープの状態規則は、テープの状態が OK、ok、drive present, but busy 以外の場合に重大アラームを生成します。

表 4-14 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーのテープ状態規則

アラームレベル	意味
重大	テープが重大な状態

対策：

サンに連絡してください。

## システムボードの状態規則 (rcrse301)

システムボードの状態規則は、システムボードの状態が OK 以外の場合に情報アラームを生成します。

表 4-15 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーのシステムボード状態規則

アラームレベル	意味
情報	システムボードの状態が OK 以外

対策：

このアラームは単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## 接続点の状態規則 (rLnkVld)

接続点の状態規則は、状態が VALID 以外の場合に情報アラームを生成します。

表 4-16 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの構成リーダーの接続点状態規則

アラームレベル	意味
情報	接続点の状態が VALID 以外

対策：

このアラームは単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

---

# Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの規則

この節では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのアラーム規則について説明します。システムは、現在の属性とそのしきい値を示すメッセージとともにアラームを提供します。



## CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8 Update 5 以降 (rsr1000)

CPU エラーメッセージ規則は、訂正可能な CPU エラーが検出された場合に重大アラームを生成します。このアラームは、Solaris 8 Update 5 以降のオペレーティング環境に適用されます。

表 4-17 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの CPU エラーメッセージ規則

アラームレベル	意味
重大	/var/adm/messages ファイルで訂正可能な CPU エラーが検出された

対策：

サンに連絡してください。

## CPU エラーメッセージ規則 - Solaris 8 Update 5 以前 (rsr1001)

CPU エラーメッセージ規則は、誤り訂正コード (ECC) メモリーエラーが検出された場合に重大アラームを生成します。このアラームは、Solaris 8 Update 5 より前のオペレーティング環境に適用されます。

表 4-18 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの CPU エラーメッセージ規則

アラームレベル	意味
重大	/var/adm/messages ファイルで ECC メモリーエラーが検出された

対策：

サンに連絡してください。

## SCSI 警告メッセージ規則 (rsr1002)

SCSI (Small Computer System Interface) の警告メッセージ規則は、マジック番号不正を原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-19 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの SCSI 警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルで、マジック番号が不正であることを原因とする SCSI 警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

## UNIX 警告メッセージ規則 (rsr1003)

UNIX 警告メッセージ規則は、割り込みが処理されなかったことを原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-20 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの UNIX 警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルで、割り込みが処理されなかったことを原因とする UNIX 警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

## Genunix 日付の警告メッセージ規則 (rsr1004)

Genunix 日付の警告メッセージ規則は、最終停止時刻が TOD (time-of-day) チップの時刻より新しいことを原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-21 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Genunix 日付警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルで、最終停止時刻が TOD チップの時刻より新しいことを原因とする Genunix 日付の警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

## Genunix クロックの警告メッセージ規則 (rsr1004)

Genunix クロックの警告メッセージ規則は、最大スワップ空間のサイズが未使用空間を下回ったことを原因とする警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-22 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Genunix クロック警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルで、最大スワップ空間のサイズが未使用空間を下回ったことを原因とする Genunix クロック警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

## ファンプレーンの警告メッセージ規則 (rsr1006)

ファンプレーンの警告メッセージ規則は、警告が検出された場合に警告アラームを生成します。

表 4-23 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのファンプレーン警告メッセージ規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルでファンプレーンの警告が検出された

対策：

サンに連絡してください。

## LUN 障害規則 (rsr1007)

論理装置番号 (LUN) 障害規則は、LUN 障害が検出された場合に重大アラームを生成します。

表 4-24 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの LUN 障害規則

アラームレベル	意味
重大	/var/adm/messages ファイルで LUN 障害が検出された

対策：

サンに連絡してください。

## PLOGI 障害規則 (rsr1008)

PLOGI 障害規則は、PLOGI 障害が検出された場合に重大アラームを生成します。

表 4-25 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの PLOGI 障害規則

アラームレベル	意味
重大	/var/adm/messages ファイルで PLOGI 障害が検出された

対策：

サンに連絡してください。

## ECC 訂正規則 (rsr1009)

ECC 訂正規則は、ECC エラーがあり、ECC データビットが訂正された場合に情報アラームを生成します。

表 4-26 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの ECC 訂正規則

アラームレベル	意味
情報	ECC データビットが訂正された

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## Q ロジックエラー規則 (rsr1010)

Q ロジックエラー規則は、Q ロジックループエラーが検出された場合にアラームを生成します。

表 4-27 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの Q ロジックエラー規則

値	アラームレベル	意味
OFFLINE (オフライン)	警告	Q ロジックループがオフラインになった
上記以外	情報	Q ロジックループがオンラインになった

対策：

- 警告アラームの場合は、サンに連絡してください。
- 情報アラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## カーネル訂正規則 (rsr1011)

カーネル訂正規則は、ECC クリア警告が検出された場合に警告を生成します。

表 4-28 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのカーネル訂正規則

アラームレベル	意味
警告	/var/adm/messages ファイルで ECC クリア警告が検出され、カーネルによって ECC エラーがクリアされた

対策：

サンに連絡してください。

## SCSI 情報イベント規則 (rsr1012)

SCSI 情報イベント規則は、SCSI 情報イベントが検出された場合に情報アラームを生成します。

表 4-29 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの SCSI 情報イベント規則

アラームレベル	意味
情報	/var/adm/messages ファイルで SCSI ディスク正常およびその関連メッセージが検出された

対策：

このアラームは単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## SCSI ディスクオンライン規則 (rsr1013)

SCSI ディスクオンライン規則は、SCSI ディスクがオンラインになった場合に情報アラームを生成します。

表 4-30 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの SCSI ディスクオンライン規則

アラームレベル	意味
情報	SCSI ディスクがオンラインになった

対策：

このアラームは、単に注意を促すことを目的にしています。対策は必要ありません。

## 温度状態規則 (rsr1014)

温度状態規則は、温度の状態値が 1 以外になった場合にアラームを生成します。

表 4-31 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの温度状態規則

値	アラームレベル	意味
1		温度状態は正常
2	警告	構成部品の温度が警告レベルを超えた
上記以外	重大	構成部品の温度がエラーレベルを超えた

対策：

サンに連絡してください。

## 電源状態規則 (rsr1015)

電源状態規則は、電源の状態値が 1 以外になった場合にアラームを生成します。

表 4-32 Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの温度状態規則

値	アラームレベル	意味
1		電源状態は正常
2	警告	電源装置が電圧の警告しきい値を超えた
上記以外	重大	電源装置不良

対策：

サンに連絡してください。

---

## ドメインの物理表示と論理表示

「詳細」ウィンドウの「ハードウェア」タブでは、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのハードウェア構成を物理表示および論理表示することができます。詳細は、102 ページの「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムの物理表示と論理表示」を参照してください。

システムが複数のドメインに分割されている場合、ドメイン管理者はアクセス可能なドメインの詳細情報のみ表示できます。アクセス権限のないドメインを表示しようとすると、コンソールウィンドウの最下部に「セキュリティ権限がないため、コンソール情報を読み込めません」というメッセージが表示されます。

図 4-6 はドメイン内の Paroli カードの物理表示です。「ハードウェア」タブをクリックし、「表示」リストボックスのドメインの下の「システム」をクリックすると、表示されます。「視点の変更」リストボックスの「背面」が選択されています。



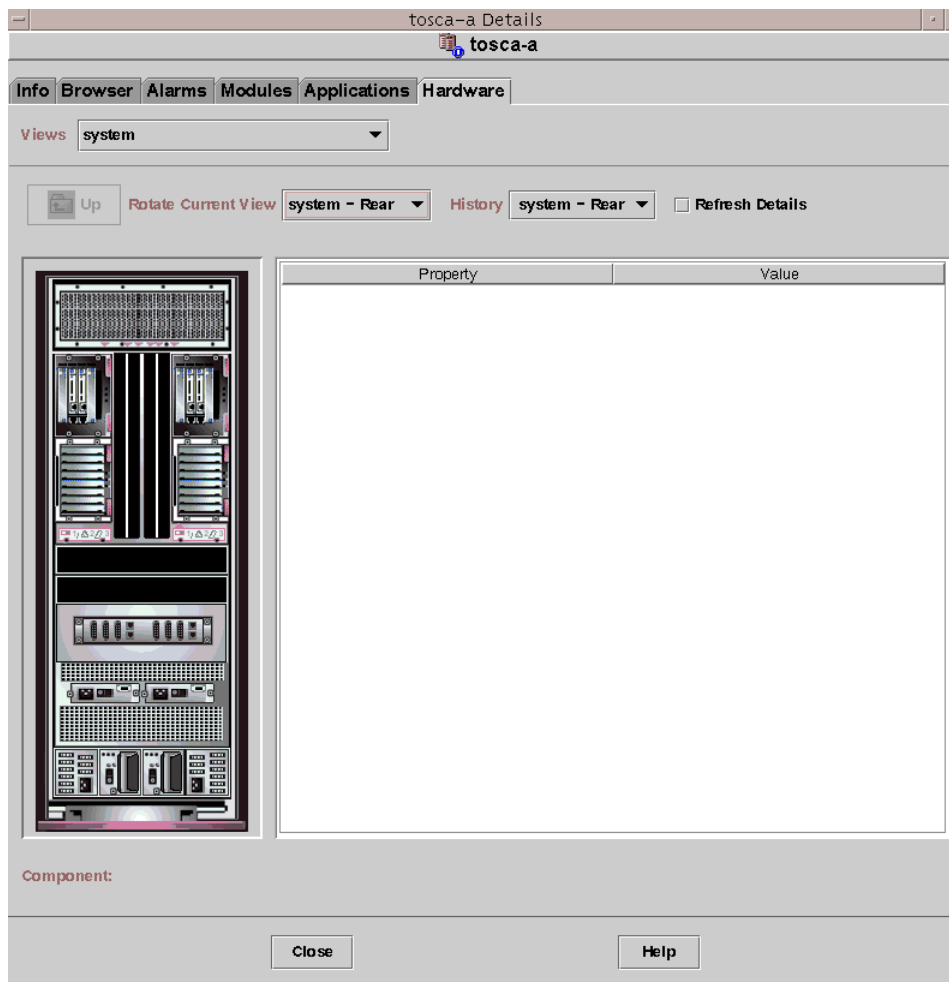


図 4-6 ドメインの Paroli カードの物理表示 (背面)



## 第5章

# ドメインからの動的再構成 (DR)

この章では、Sun Management Center 3.5 の GUI と動的再構成モジュールを使って Sun Fire 15K/12K および 6800/4810/4800/3800 のドメインから DR を行うときの操作方法を説明します。DR 操作は、Sun Fire ドメインに対するボードのアタッチ、ドメインからのボードのデタッチ、Sun Fire ドメインへのボードの構成などの操作です。DR 操作やその他の操作の一部として、ボードのテスト、ボードの電源のオンまたはオフなどの、その他の管理操作を行うことができます。

## 前提条件

Sun Management Center 3.5 の GUI を使って DR 操作を行うには、DR 操作そのものを理解している必要があります。Sun Fire システムにおける DR 操作については、以下のマニュアルを参照してください。

- 『Sun Fire 15K/12K Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーマニュアル』 - Sun Fire 15K/12K に対する DR モジュールの基礎となる操作について解説しています。Sun Fire 15K/12K システムでの DR 操作に関する一般的な注意事項、判明している制限事項および問題点については、『System Management Services (SMS) 1.3 ご使用にあたって』を参照してください。
- 『Sun Enterprise 6800, 4810, 4800, 3800 システム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル』 - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムに対する DR モジュールの基礎となる操作について解説しています。
- `cfgadm (1M)` のマニュアルページ - DR モジュールの基礎となるコマンドについて解説しています。

---

## DR モジュール

DR モジュールでは、ドメインからテーブル内の接続点に対する DR 操作を行うことができます。これらの操作は、**Sun Management Center 3.5** の GUI を使用してのみ、`cfgadm(1M)` コマンドのときと同じ方法で行うことができます。このモジュールは、**Sun Fire 15K/12K** や **3800/4800/4810/6800** システムで動作します。

このモジュールは、**Sun Management Center** ソフトウェアのインストール中に自動的にインストールされますが、初めて使用するときには、自分で読み込む必要があります。また、このモジュールは、必要に応じて読み込み解除することができます。**Sun Management Center** のモジュールの読み込みおよび読み込み解除の具体的な情報は、『**Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド**』を参照してください。

図 5-1 は、ドメインのホストの詳細ウィンドウの「ブラウザ」タブと「ハードウェア」アイコンに表示される、このモジュールのアイコン (**DR Sun Fire (3800-15K)**) を表しています。

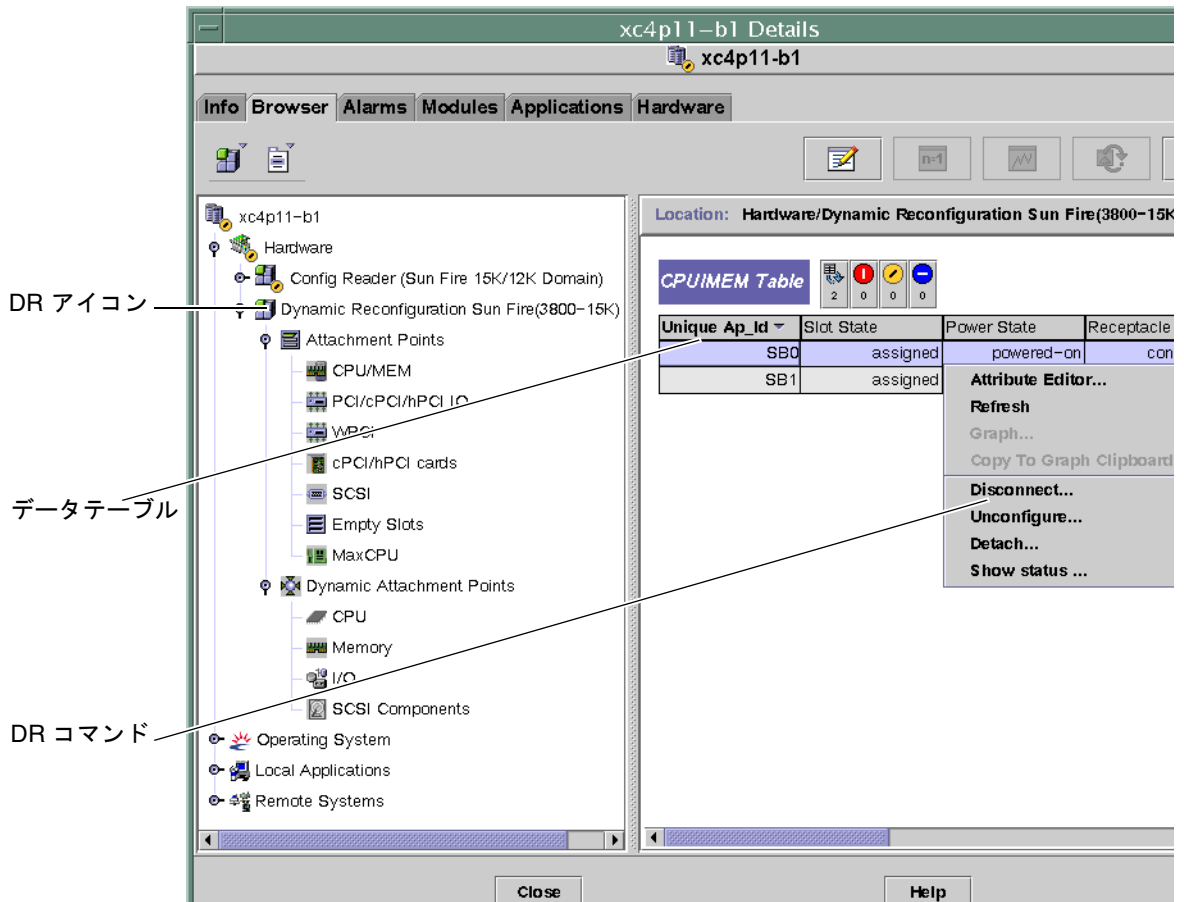


図 5-1 DR の機能

## DR の属性

動的に再構成可能なボードまたはデバイスの最新の状態は、詳細ウィンドウの右側にある DR 関係のデータテーブルを使用して調べます。

DR モジュールが提供するテーブルは、以下の 2 つのセクションに分かれています。

- 接続点 - システムボードや入出力ボードなどの大きなコンポーネントの単一接続点
- 動的接続点 - CPU モジュール、DIMM、SCSI ドライブなどの、個別デバイスとコンポーネントの動的接続点

## 接続点

接続点はボードとそのスロットの総称です。接続点テーブルは、以下のタイプのボードスロットに関する情報を提供します。

- CPU/ メモリー
- PCI/cPCI/hPCI 入出力ボード
- WPCI
- cPCI/hPCI カード
- SCSI
- 空きスロット
- MaxCPU (Sun Fire 15K/12K システムのみ)

## CPU/ メモリー

表 5-1 は、CPU/ メモリーボードの接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-1 CPU/ メモリーボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。SBx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーン のスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned (割当 済み) か unassigned (割り当て解除中)
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、 empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。CPU
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、 assigned など

表 5-1 CPU/ メモリーボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)

## PCI/cPCI/hPCI 入出力ボード

表 5-2 は、PCI/cPCI/hPCI IO 入出力ボードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire 3800/4800/4810/6800 システムの場合、テーブルには、PCI と cPCI 入出力ボードの属性だけが表示されます。Sun Fire 15K/12K システムの場合は、hPCI 入出力カードの属性だけが表示されます。

表 5-2 PCI/cPCI/hPCI 入出力ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。PCI、CPI、HPCI、HPCI+ のどれか
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など

表 5-2 PCI/cPCI/hPCI 入出力ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr/@0:IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)

## WPCI

表 5-3 は、WPCI ボードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire Link システムの詳細は、『Sun Fire Link ファブリック管理者マニュアル』を参照してください。

表 5-3 WPCI ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。WPCI
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など



表 5-3 WPCI ボードの接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。/devices/pseudo/dr/@0:IOx の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロットの番号 (0 ~ 17)

## cPCI/hPCI カード

表 5-4 は、cPCI/hPCI カードの接続点属性を簡単にまとめています。Sun Fire 3800/4800/4810/6800 システムの場合、テーブルには、cPCI カードの属性だけが表示されます。Sun Fire 15K/12K システムの場合は、hPCI 入出力カードの属性だけが表示されます。

表 5-4 cPCI/hPCI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch2:e04b1slot3 など
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		タイプ。pci-pci/hp など
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		一般的な情報。unknown など

表 5-4 cPCI/hPCI の接続点属性 (続き)

属性	規則 (ある場合)	説明
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,7000000:e04b1slot3 など

## SCSI

表 5-5 は、SCSI の接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-5 SCSI の接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch3:e04b1slot2
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		タイプ。scsi/hp など
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このコンポーネントの一般的な情報。unknown など
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,600000:e04b1slot2 など

## 空きスロット

表 5-6 は、空きスロットの接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-6 空きスロットの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 pcisch0:e17b1slot1 など
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned か unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。unknown
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。assigned または unknown
構成日時		このスロットがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pci@9d,6000000:e17b1slot1 など

## MaxCPU

表 5-7 は、MaxCPU ボードの接続点属性を簡単にまとめています。この属性テーブルは、Sun Fire 15K システムの場合にだけ表示されます。

表 5-7 Sun Fire 15K/12K の MaxCPU ボードの接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた MaxCPU ボードの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected、disconnected、empty のどれか
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		ボードのタイプ。MCPU
状態		ボードの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このボードタイプの一般的な情報。powered-on、assigned など
構成日時		このボードがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		MaxCPU ボードの物理的な接続点 ID

## 動的接続点

動的接続点とは、システムボード上の、CPU、メモリー、入出力デバイスなどのコンポーネントを意味します。こうした動的接続点は、DR ドライバによって作成されます。DR ドライバについての詳細は、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の dr(7D) マニュアルページを参照してください。動的接続点テーブルは、以下のタイプのコンポーネントに関する情報を提供します。

- CPU
- メモリー
- 入出力
- SCSI コンポーネント

## CPU コンポーネント

表 5-8 は、CPU コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-8 CPU コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::cpu $y$ の形式で、 $x$ はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 $y$ は CPU 番号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。CPU
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		この CPU タイプの一般的な情報。cpuid 2、speed 750 MHz、ecache 8 MBytes など。このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::cpu $y$ の形式で、 $x$ はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、 $y$ は CPU 番号 (0 ~ 3)

## メモリーコンポーネント

表 5-9 は、メモリーコンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-9 メモリーコンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 SBx::memory の形式で、x はボードが装着されている センタープレーンスロットの番号 (0 ~ 17)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned また は unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。memory
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		このメモリータイプの一般的な情報。base address 0x0、2097 152 KBytes total、420920 KBytes permanent など。このフィールドについては、 『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』 の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が 進行中のときは y、そのような操作が進行中でない ときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:SBx::memory の形式で、 x はボードが装着されているセンタープレーンスロ ットの番号 (0 ~ 17)

## 入出力コンポーネント

表 5-10 は、入出力コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-10 入出力コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた一意の論理接続点 ID。 IOx::pciy の形式で、x はボードが装着されているセンタープレーンのスロット番号 (0 ~ 17)、y は PCI 番号 (0 ~ 3)
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on または powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。 configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。io
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、 unusable のどれか
情報		この io タイプの一般的な情報。device/pci@23d、 700000 referenced など。このフィールドについては、『Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』の cfgadm_sbd(1M) のマニュアルページを参照
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が 進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		物理接続点 ID。 /devices/pseudo/dr@0:IOx::pciy の形式で、x は ボードが装着されているセンタープレーンのスロット 番号 (0 ~ 17)、y は PIC 番号 (0 ~ 3)

## SCSI コンポーネント

表 5-11 は、SCSI コンポーネントの動的接続点属性を簡単にまとめています。

表 5-11 SCSI コンポーネントの動的接続点属性

属性	規則 (ある場合)	説明
一意の接続点 ID		cfgadm から得られた SCSI コンポーネントの一意の論理接続点 ID
スロットの状態		スロットが使用可能かどうかの状態。assigned または unassigned
電源の状態		電源の状態。powered-on か powered-off
受容装置		受容装置の状態。connected
占有装置		占有装置 (ボードとその接続デバイス全体) の状態。configured または unconfigured
タイプ		コンポーネントタイプ。disk、CD-ROM、tape のどれか
状態		コンポーネントの状態。ok、unknown、failed、unusable のどれか
情報		このタイプの一般的な情報
構成日時		このコンポーネントがドメインに構成された日時
ビジー		状態、可用性、条件の面で何らかの変化を伴う操作が進行中のときは y、そのような操作が進行中でないときは n
物理 ID		SCSI コンポーネントの物理的な接続点 ID

## ドメインからの DR 操作

この節では、Sun Management Center 3.5 の DR モジュールを使って、Sun Fire ドメインから DR 操作を行う方法を説明します。ドメインからのすべての DR 操作は、cfgadm(1M) コマンドに依存しています。cfgadm(1M) コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

Sun Fire のドメインには、論理的な側面と物理的な側面の両方があります。



- 「論理」ドメインは、特定のドメインに所属するものとしてグループ化されたスロットの集まりです。スロットには、システムボードが存在することもあれば、存在しないものもあります。
- 「物理」ドメインは、物理的に相互接続された、論理ドメイン内のボードの集まりです。

占有されているか空いているかに関係なく、スロットは論理ドメインのメンバーになることができますが、物理ドメインの構成要素になることはありません。起動後、ボードまたは空きスロットは、論理ドメインに割り当てたり、論理ドメインから割り当て解除したりできます。Solaris オペレーティングシステムからの要求があると、ボードは物理ドメインの構成要素になります。空きスロットが物理ドメインの構成要素になることはありません。

この節では、以下に挙げる、ドメインからの DR およびその他の管理操作について説明します。

- ボードの割り当て
- ボードの割り当て解除
- ボードのアタッチ
- ボードのデタッチ
- ボードの接続
- ボードの切断
- ボードまたはコンポーネントの構成
- ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除
- ボードの電源オン
- ボードの電源オフ
- ボードのテスト
- 状態の表示

## サポートされている cfgadm のオプション

表 5-12 は、DR モジュールがサポートする `cfgadm(1M)` のオプションの一覧です。`cfgadm(1M)` コマンドのさまざまなオプションについては、『Sun Solaris 8 (または 9) Reference Manual Collection』のコマンドの説明を参照してください。

表 5-12 DR がサポートする `cfgadm` のオプション

<code>cfgadm</code> の オプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
<code>-c configure</code>	アタッチ	ボードをアタッチ
<code>-c disconnect</code>	デタッチ	ボードをデタッチ
<code>-x assign</code>	割り当て	ボードを割り当て

表 5-12 DR がサポートする cfgadm のオプション (続き)

cfgadm の オプション	Sun Management Center の GUI メニュー項目	説明
-c disconnect -x unassign	割り当て解除	ボードを割り当て解除
-c connect	接続	ボードを接続
-c disconnect	切断	ボードを切断
-c configure	構成	ボードまたはコンポーネントを構成
-c unconfigure	構成解除	ボードまたはコンポーネントを構成解除
-x poweron	電源オン	ボードの電源をオンにする
-x poweroff	電源オフ	ボードの電源をオフにする
-t	テスト	ボードをテスト

## ドメインからのドメイン情報の表示

Sun Fire のドメインから DR 操作を行うときは、「ハードウェア」タブにある DR モジュールの接続点と動的接続点テーブルを表示します。

## ボードがドメインの ACL に登録されていることの確認

ドメインからシステムボードに対して DR 操作を行うには、そのボードがドメインの ACL リストに登録されている必要があります。

## ボードの割り当て

この操作により、システムボードが論理ドメインに追加されます。

### ▼ ボードを割り当てる

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの割り当て先のドメインにログインします。

2. 適切なボードテーブル内の、割り当てるボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「割り当て」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て」確認ボックスが表示されます。

```
Assign a slot.  
Are you sure you want to assign?
```

4. 選択したボードを割り当てる場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当てない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、割り当て操作を取り消します。

## ボードの割り当て解除

この操作により、システムボードが論理ドメインから削除されます。

### ▼ ボードを割り当て解除する

1. esadm グループのメンバーとして、割り当て解除するシステムボードが存在するドメインにログインします。

2. 適切なボードテーブル内の、割り当て解除するボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「割り当て解除」をクリックします。

次のメッセージの入った「割り当て解除」確認ボックスが表示されます。

```
Unassign.  
Are you sure you want to unassign?
```

4. 選択したボードを割り当て解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。割り当て解除しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、割り当て解除操作を取り消します。

## システムボードのアタッチ

ボードのアタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティングシステムに指定されたシステムボードをアタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て
- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- システムコントローラ経由でのドメインへのシステムボードの物理的な接続
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティングシステムでのシステムボード上のコンポーネントの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できるようになります。

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってアタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

### ▼ システムボードをアタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードのアタッチ先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、アタッチするシステムボードの一意的接続点 ID を右クリックします。  
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「アタッチ」をクリックします。  
次のメッセージの入った「アタッチ」確認ボックスが表示されます。

```
Attach a board.  
Attach will connect and configure the selected board.  
Are you sure you want to attach?
```

4. 選択したボードをアタッチする場合は、「了解」ボタンをクリックします。アタッチしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、アタッチ操作を取り消します。

## システムボードのデタッチ

ボードのデタッチ機能は、特定のドメインで動作している Solaris オペレーティングシステムから指定されたシステムボードをデタッチします。この操作では、DR モジュールによって一連の処理が自動的に行われます。

- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティングシステムでのシステムボード上のコンポーネントの構成解除。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションは、それらのコンポーネントを利用できなくなります。
- システムコントローラとの通信を通じての、ドメインからのシステムボードの物理的な切断。これ以降、システムボードは論理ドメインの構成要素ではありますが、物理ドメインの構成要素ではなくなります。
- システムボードの電源オフ

システムボードとその他のコンポーネントの初期状態によっては、あるいはハードウェア上の問題によってデタッチ操作が正常終了しない場合、一部の自動処理は行われません。

## ▼ システムボードをデタッチする

1. esadm グループのメンバーとして、デタッチするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、デタッチするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。  
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「デタッチ」をクリックします。  
「デタッチ」確認ボックス (図 5-2) が表示されます。

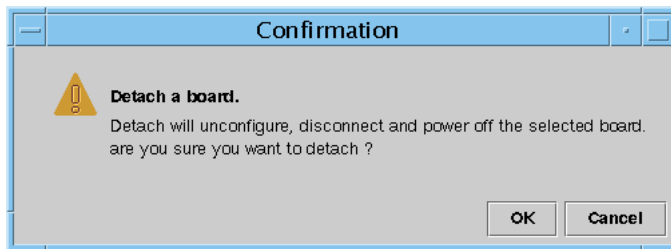


図 5-2 「デタッチ」確認ボックス

4. 選択したボードをデタッチする場合は、「了解」ボタンをクリックします。デタッチしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、デタッチ操作を取り消します。

## ボードの接続

この操作により、以下の処理が行われます。

- 論理ドメインへのシステムボードの割り当て (ボードが使用可能で、論理ドメインの構成要素でない場合)

- システムボードの電源オン
- システムボードのテスト
- 物理ドメインへのシステムボードの接続

## ▼ システムボードを接続する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードの接続先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、接続するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。  
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「接続」をクリックします。  
次のメッセージの入った「接続」確認ボックスが表示されます。

Connect  
Are you sure you want to connect?

4. 選択したボードを接続する場合は、「了解」ボタンをクリックします。接続しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、接続操作を取り消します。

---

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

---

## ボードの切断

この操作により、以下の処理が行われます。

- システムボードの構成解除 (必要な場合)
- 物理ドメインからのシステムボードの切断

## ▼ SCSI ボード以外のシステムボードを切断する

1. esadm グループのメンバーとして、切断するシステムボードが存在するドメインにログインします。

- 適切なボードテーブル内の、切断するシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

- メニューから「切断」をクリックします。

「切断」パネル (図 5-3) が表示されます。

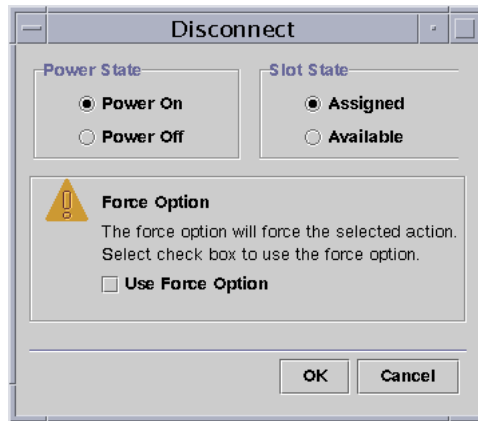


図 5-3 「切断」パネル

- 適切な「電源の状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
- 適切な「スロットの状態」オプションのラジオボタンをクリックします。切断後、ボードは指定された電源状態になります。
- 切断操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスをクリックします。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
- 選択したボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

---

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

---

## ▼ SCSI ボードを切断する

esadm グループのメンバーとして、切断する SCSI ボードがあるドメインにログインします。

1. 適切なボードテーブル内の、切断する SCSI ボードの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボード操作のメニューが表示されます。

2. メニューから「切断」をクリックします。

次のメッセージの入った「切断」パネルが表示されます。

```
Disconnect
Are you sure you want to continue?
```

3. 選択した SCSI ボードを切断する場合は、「了解」ボタンをクリックします。切断しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、切断操作を取り消します。

## ボード、コンポーネント、メモリーの構成

この操作により、以下の処理が行われます。

- システムボードの接続 (必要な場合)
- ドメイン上で動作する Solaris オペレーティングシステムでのシステムボードまたはボード上のコンポーネントかメモリーの構成。この処理によって、ドメイン上で動作するアプリケーションがボード、ボード上のコンポーネント、またはボード上のメモリーを利用できるようになります。

### ▼ システムボード、コンポーネント、またはメモリーを構成する

1. esadm グループのメンバーとして、システムボードかコンポーネント、メモリーの構成先のドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成するシステムボード、コンポーネント、またはメモリーの一意的接続点 ID を右クリックします。

ボード、コンポーネント、またはメモリー操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「構成」をクリックします。

次のメッセージの入った「構成」確認ボックスが表示されます。

```
Configure
Are you sure you want to configure?
```



4. 選択したボード、コンポーネント、またはメモリーを構成する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、構成操作を取り消します。

---

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

---

## ボード、コンポーネント、メモリーの構成解除

構成解除機能は、システムコントローラ、またはボード上のコンポーネント、メモリーを構成解除します。この処理により、ドメイン上で動作するアプリケーションは、ボード、コンポーネント、またはメモリーを利用できなくなります。

### ▼ システムボードまたはコンポーネントを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するシステムボードまたはコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。  
ボードまたはコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。  
次のメッセージの入った「構成解除」パネルが表示されます。

```
Select Force Option
The force option will force the selected action.
Select check box to use the force option.
```

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. 選択したボードまたはコンポーネントを構成解除する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

---

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

---

## ▼ メモリーを構成解除する

1. esadm グループのメンバーとして、構成解除するメモリーがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、構成解除するメモリーコンポーネントの一意の接続点 ID を右クリックします。  
メモリーコンポーネントの操作メニューが表示されます。
3. メニューから「構成解除」をクリックします。  
「メモリーの構成解除」パネル (図 5-4) が表示されます。

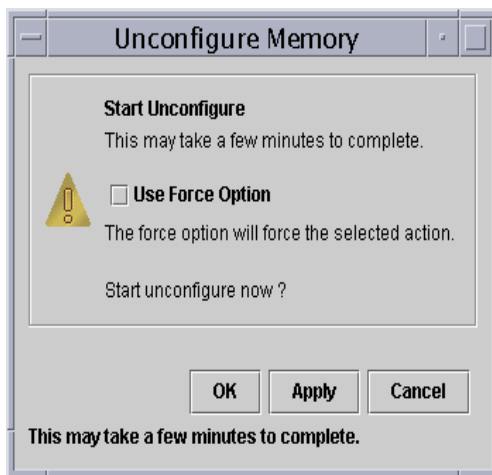


図 5-4 「メモリーの構成解除」パネル

4. 構成解除操作を強制的に行う場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを選択します。強制的に行わない場合は、「強制オプションを使用する」チェックボックスを空白のままにしておきます。
5. メモリーの構成解除を開始する場合は、「了解」ボタンをクリックします。構成解除しない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、構成解除操作を取り消します。

## ボードの電源オン

ボードの電源オン機能は、システムボードの電源をオンにします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

### ▼ ボードの電源をオンにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオンにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオンにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。  
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「電源オン」をクリックします。  
次のメッセージの入った「電源オン」確認ボックスが表示されます。

```
Power On a board.  
Are you sure you want to power on?
```

4. システムボードの電源をオンにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オンにしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、電源オン操作を取り消します。

## ボードの電源オフ

ボードの電源オフ機能は、システムボードの電源をオフにします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

### ▼ ボードの電源をオフにする

1. esadm グループのメンバーとして、電源をオフにするシステムボードがあるドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、電源をオフにするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。  
ボード操作のメニューが表示されます。

3. メニューから「電源オフ」をクリックします。

次のメッセージの入った「電源オフ」確認ボックスが表示されます。

Power Off a board.  
Are you sure you want to power off?

4. システムボードの電源をオフにする場合は、「了解」ボタンをクリックします。オフにしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、電源オフ操作を取り消します。

## ボードのテスト

ボードのテスト機能は、システムボードをテストします。テストするシステムボードは、論理ドメインに割り当てられている必要がありますが、物理ドメインの構成要素である必要はありません。

### ▼ ボードをテストする

1. esadm グループのメンバーとして、テストするシステムボードが存在するドメインにログインします。
2. 適切なボードテーブル内の、テストするシステムボードの一意の接続点 ID を右クリックします。  
ボード操作のメニューが表示されます。
3. メニューから「テスト」をクリックします。  
「ボードのテスト」パネル (図 5-5) が表示されます。

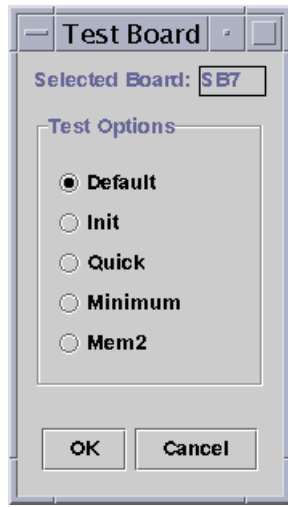


図 5-5 「ボードのテスト」 パネル

4. テストオプション横のラジオボタンをクリックします。
5. 適切なボードと適切なオプションを選択したことを確認したら、「了解」ボタンをクリックして、テストを開始します。テストしない場合は、「取り消し」ボタンをクリックして、テストを取り消します。

---

注 – Sun Fire 15K/12K システムでは、「中止」ボタンをクリックすると、完全に操作を中止できます。

---

## 状態の表示

状態の表示機能は、ボードまたはスロットに対して最後に実行された DR 関係のコマンドの状態を表示します。この状態表示は、現在実行されているコマンドの状態に基づいて動的に更新されます。実行中のコマンドがエラーで停止した場合は、`cfgadm(1M)` プログラムからエラーメッセージが表示されます。ただし、コマンドが実行されていないか、コマンドがエラーなしで終了した場合は、「No status from the agent」というメッセージが表示されます。

### ▼ 状態を表示する

1. `esadm` グループのメンバーとして、状態を表示するシステムボードまたはスロットがあるドメインにログインします。

- 適切なボードテーブル内の、状態を表示するシステムボードまたはスロットの一意の接続点 ID を右クリックします。

ボードまたはスロットの操作メニューが表示されます。

- メニューにある「状態の表示」をクリックします。

「状態の表示」ダイアログボックスが表示され、最新の DR コマンドの実行状態が表示されます (コマンドが実行されている場合)。

このとき、DR 処理で問題が発生した場合は、状態として、図 5-6 に示すようなメッセージが表示されます。



図 5-6 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (異常終了の場合)

構成処理が正常終了するか、コマンドが実行されていない場合は、図 5-7 に示すメッセージが表示されます。

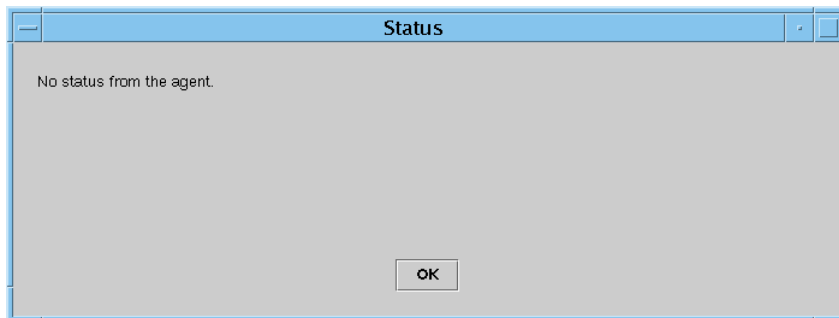


図 5-7 ドメインの DR 操作に関する状態の表示 (正常終了の場合)

- 状態の表示を確認したら、「了解」ボタンをクリックします。

## 付録 A

# CLI による Sun Management Center ソフトウェアのインストール、設定、アンインストール、起動、停止

---

この付録では、CLI から Sun Management Center ソフトウェアをインストール、設定、アンインストール、起動、停止する方法を説明します。詳細は、『Sun Management Center 3.5 ユーザーガイド』を参照してください。

---

## ソフトウェアのインストール

まずシステムに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールを行います。Sun Management Center 3.5 ソフトウェアのインストールについては、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。このマニュアルは、「Sun Management Center 3.5 CD のディスク 3 of 3」にあります。

また、システムには、必要なパッチがすべてインストールされている必要があります。今回のリリースに必要なパッチについては、『Sun Management Center 3.5 ソフトウェアご使用にあたって』を参照してください。

### ▼ CLI を使用して補助ソフトウェアをインストールする

補助ソフトウェアとマニュアルは、完全な Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージが収録されている 3 枚の CD で提供されます。その 3 枚の CD は次のとおりです。

- Sun Management Center 3.5 ディスク 1 of 3
- Sun Management Center 3.5 ディスク 2 of 3
- Sun Management Center 3.5 ディスク 3 of 3

1. Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインに Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージをインストールします。

- a. Sun Fire 補助ソフトウェアだけインストールする場合は、アップデート CD 内または Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージがインストールされているディレクトリ内の `sbin` ディレクトリから `es-inst` を実行します。

`es-inst` スクリプトからソースディレクトリの入力が必要です。

- b. ソースディレクトリを入力します。

CD を `/cdrom/cdrom0` にマウントして、インストールディレクトリから `es-inst` を実行した場合は、ソースディレクトリとして `/cdrom/cdrom0/image` を指定します。

`es-inst3.5` コマンドとそのオプションについての詳細は、『Sun Management Center 3.5 インストールと構成ガイド』を参照してください。



---

**注意** – 主要 Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージがインストール済みで、Sun Fire 補助ソフトウェアだけインストールする場合は、設定の開始を促すメッセージが表示されたときに `n` (いいえ) を入力してください。 `y` (はい) を入力すると、セキュリティーキーなどの、カスタマイズした設定情報が失われることがあります。

---

---

**注** – Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージをフルインストールする場合は、インストール手順の最後で設定スクリプトを使用できます。そのとき、設定スクリプトを実行しないで、後で実行することもできます。設定スクリプト (`es-setup`) は `パス/sbin` ディレクトリ内にあります。 `パス` は Sun Management Center がインストールされているディレクトリです。設定スクリプトによる設定では、プラットフォームエージェントをはじめとする、Sun Management Center のすべてのエージェントが設定されます。

---

Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムのプラットフォーム管理に使用するすべてのシステム (エージェントマシン) に Sun Management Center 3.5 ソフトウェアパッケージをインストールします。手順 1 の注意と注を参照してください。



以下のメッセージが表示されます。

```
-----  
Sun Management Center Product Selection  
-----  
-----
```

```
The following Add-On Products are available for your selection:  
-----
```

```
Sun Fire Domain Administration  
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire 3800/4800/4810/6800/15000 platforms  
Sun Fire Platform Administration
```

```
Do you want to install the product: Sun Fire Domain Administration? [y|n|q]  
Do you want to install the product: Dynamic Reconfiguration for Sun Fire  
3800/4800/4810/6800/1500 platforms? [y|n|q]  
Do you want to install the product: Sun Fire Platform Administration? [y|n|q]  
-----
```

## 2. インストールする製品ごとに **y** と入力します。

すべての追加製品に対して **y** と入力した場合は、次のメッセージが表示されます。

```
-----  
The following Add-On Products will be installed:
```

```
Sun Fire Domain Administration  
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire 3800/4800/4810/6800/15000 platforms  
Sun Fire Platform Administration
```

```
Do you want to proceed? [y|n|q]  
-----
```

## 3. **y** と入力して、追加製品のインストールに進みます。

---

# Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のプラットフォーム管理モジュールの設定

この設定作業は、以下の 3 つの作業で構成されます。

- システムコントローラの設定 - 175 ページの「Sun Fire 6800/4810/4800/3800 のプラットフォーム管理モジュールの設定」を参照

- エージェント階層の設定 - 179 ページの「エージェントマシン上の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する」を参照
- サーバー階層の設定 - 180 ページの「サーバー上の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールのサーバー階層だけを設定する」を参照

## システムコントローラ上の SNMP の設定

システムコントローラ上の SNMP の設定とは、プラットフォーム、およびドメイン上に SNMP を設定することです。この節では、その両方の手順を示します。この 2 つの手順は両方とも必要です。

- プラットフォーム上の SNMP の設定
- ドメイン上の SNMP の設定

### ▼ プラットフォーム上の SNMP を設定する

---

注 - 複数のプラットフォーム管理エージェントが、同じ Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラを管理するような設定は行わないでください。システムの動作が遅くなったり、場合によってはハングアップしたりします。

---

1. コード例 A-1 で示すように、スーパーユーザーで telnet (1) コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします。

コード例 A-1      telnet でシステムコントローラにアクセスして、プラットフォームのシェルに入る

```
% telnet schostname
System Controller schostname:SC>

Type 0 for Platform Shell

Type 1 for domain A
Type 2 for domain B
Type 3 for domain C
Type 4 for domain D

Input: 0
schostname:SC>
```

この場合、*schostname* は、システムコントローラのホスト名です。

2. コード例 A-1 に示すように、システムコントローラのメインメニューで、0 (または P か p) を入力して、プラットフォームのシェルに入ります。  
プラットフォームのシェルプロンプトの `schostname:SC` が表示されます。
3. コード例 A-2 に示すように、`setupplatform -p snmp` と入力して、質問に答えていきます。

コード例 A-2      プラットフォーム上の SNMP エージェントの設定

```
schostname:SC> setupplatform -p snmp
SNMP
----
Platform Description [description]: your_description
Platform Contact [contactname]: contact_name
Platform Location [location]: your_platform_location
Enable SNMP Agent? [no]: yes
Trap Hosts [hostname]: server_name
Public Community String [string]: your_string1
Private Community String [string]: your_string2
```

Trap Hosts には、プラットフォームの管理元となる Sun Management Center サーバーのホスト名を入力します。

4. CTRL キーを押しながら ] キーを押して、`telnet>` プロンプトに戻ります。
5. `q` を入力して、`telnet` を終了します。

## ▼ ドメイン上の SNMP を設定する

1. コード例 A-3 で示すように、スーパーユーザーで `telnet` コマンドを使用して、システムコントローラにアクセスします。

コード例 A-3      `telnet` でシステムコントローラにアクセスして、ドメインのシェルに入る

```
% telnet schostname
System Controller schostname:SC>

Type 0 for Platform Shell

Type 1 for domain A
Type 2 for domain B
Type 3 for domain C
Type 4 for domain D
```

コード例 A-3      telnet でシステムコントローラにアクセスして、ドメインのシェルに入る (続き)

```
Input: 1
schostrname:A>
```

この場合、*schostrname* は、システムコントローラのホスト名です。コード例 A-3 では、ドメイン A の例を示しています。

- ドメインに入ります。コード例 A-3 で示すように、1、2、3、4 (または a、b、c、d、A、B、C、D) のいずれかを入力して、適切なドメインのシェルに入ります。ドメインのシェルプロンプトの *schostrname:X* が表示されます。X は、選択したドメインを表します。
- ドメインがアクティブで、ドメインのキースイッチが on、diag、secure、(Solaris オペレーティング環境を実行しているか、OpenBoot PROM モードであるか、あるいは POST を実行しているか) のいずれかの場合は、次の操作を行います。
  - CTRL キーを押しながら ] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
  - telnet> プロンプトで、send break と入力します。コード例 A-3 は、ドメイン A との接続例を示しています。
- コード例 A-4 に示すように、**setupdomain -p snmp** と入力して、質問に答えていきます。

コード例 A-4      ドメイン上の SNMP エージェントの設定

```
schostrname:A> setupdomain -p snmp
SNMP
----
Domain Description [description]: your_description
Domain Contact [contactname]: contact_name
Trap Hosts [hostname]: server_name
Public Community String [string1]: your_string1
Private Community String [string2]: your_string2
```

Trap Hosts には、プラットフォームの管理元となる Sun Management Center サーバーのホスト名を入力します。

Public Community String および Private Community String には、ドメインおよびプラットフォームごとに異なる文字列を入力します。

- disconnect** と入力して、ドメインのシェルとの接続を終了します。
- 追加するドメインがある場合は、そのドメインごとに手順 2 ~ 手順 5 を繰り返します。

7. CTRL キーを押しながら ] キーを押して、telnet> プロンプトに戻ります。
8. q と入力して、telnet を終了します。

## エージェントとサーバー階層の設定

ここでは、エージェントとサーバー階層の設定の方法を説明しています。

### ▼ エージェントマシン上の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する

エージェントマシンにサーバーとエージェントの両方の階層がインストールされている場合、以下の手順で自動的に両方の階層を設定します。

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `PUn_path/addons/SunFirePltAdmin /sbin` ディレクトリに移動します。この場合の *n* は、Platform Update の番号、`PUn_path` は、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

3. `es-setup.sh` スクリプトを実行します。

デフォルトのプラットフォームエージェントのインスタンスに対してこのモジュールの設定を行うには、以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh
```

スクリプトから以下の情報の入力が必要です。

- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が求められます。
- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号

---

**参考** – 上記の設定で提供した情報を変更するには、このスクリプトを再実行します。

---

Sun Management Center 3.0 ソフトウェアには、**platform** という名前のプラットフォームエージェントが 1 つ用意されています。

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。起動方法についての詳細は、190 ページの「Sun Management Center コンポーネントの起動」を参照してください。

## ▼ サーバー上の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールのサーバー階層だけを設定する

ここでは、サーバー階層だけを設定する手順を説明します。サーバー上のサーバー、エージェント、コンソール階層の設定については、179 ページの「エージェントマシン上の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する」を参照してください。

---

**注** – コンソールやエージェント階層を設定せずに、サーバー階層だけを設定する場合は、以下の手順で示すように **-s** オプションを使用しないと、ユーザーグループは自動的に `/etc/group` に追加されません。表 A-1 のユーザーグループの一覧を参照してください。

---

1. `su` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. `PUn_path/addons/SunFirePltAdmin /sbin` ディレクトリに移動します。この場合の `n` は、Platform Update の番号、`PUn_path` は、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。  
たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。
3. **-s** オプションを付けて `es-setup.sh` スクリプトを実行します。

```
# ./es-setup.sh -s
```

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。Sun Management Center 3.0 ソフトウェアには、**platform** という名前のプラットフォームエージェントが 1 つ用意されています。起動方法についての詳細は、190 ページの「Sun Management Center コンポーネントの起動」を参照してください。

---

# Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームエージェントのインスタンスを作成と設定

デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1つの Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視できます。複数の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視するには、プラットフォームエージェントのインスタンスをそれぞれ1つずつ追加作成する必要があります。

## ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを作成する

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、/opt/SUNWsymon/sbin ディレクトリに移動します。

3. es-platform スクリプトを実行します。

```
# ./es-platform -a instanceName
```

*instanceName* は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

このスクリプトにより、新しいプラットフォームのポート番号とセキュリティーシードの入力が求められます。Sun Management Center の設定でデフォルト以外のシードを使用した場合は、このエージェントに対して、そのシードを指定してください。

## ▼ 新しいプラットフォームエージェントのインスタンスに対する Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォーム管理モジュールを設定する

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。

## 2. Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリに移動します。

たとえば、`/opt/SUNWsymon` に Sun Management Center ソフトウェアがインストールされている場合は、`/opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin` ディレクトリに移動します。

## 3. 以下を入力します。

```
# ./es-setup.sh -I instanceName
```

`instanceName` は、新しいプラットフォームエージェントのインスタンスの名前です。

`es-setup.sh` スクリプトから以下の情報の入力が必要です。

- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラの IP アドレス
- システムコントローラとすべてのドメインに対する書き込みコミュニティ文字列。スクリプトがシステムコントローラからドメインのアドレスを取得できない場合は、すべてのドメインの IP アドレスの入力が必要です。
- すべてのドメインの Sun Management Center エージェントのポート番号

---

注 – 上記の設定で提供した情報を変更するには、このスクリプトを再実行します。

---

モジュールの設定を完了すると、適切なエージェントを起動できます。起動方法についての詳細は、190 ページの「Sun Management Center コンポーネントの起動」を参照してください。

## ▼ 管理者およびオペレータグループにユーザーを割り当てる

ユーザーのユーザー名が `esusers` ファイルに登録されていない場合は、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムにログオンし、ドメイン管理エージェントに対して読み取り専用でアクセスできます。プラットフォームエージェントの下でプラットフォームまたはドメイン情報の読み取りと書き込みを行うには、サーバー上の `group` にもユーザー名が登録されている必要があります。



この設定手順では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 サーバマシン上に最大 10 個のグループを作成できます。それらのグループは次のとおりです。

表 A-1 ユーザーグループ

グループ名	ユーザーカテゴリ	アクセスのタイプ
spltadm	管理者	プラットフォーム
sdaadm	管理者	ドメイン A
sdbaadm	管理者	ドメイン B
sdcadm	管理者	ドメイン C
sddaadm	管理者	ドメイン D
spltop	オペレータ	プラットフォーム
sdaop	オペレータ	ドメイン A
sdbop	オペレータ	ドメイン B
sdcop	オペレータ	ドメイン C
sddop	オペレータ	ドメイン D

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. /etc/group ファイル内の適切なグループに各ユーザーを追加します。
  - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 プラットフォームの管理者がプラットフォームエージェントのプラットフォーム表示を使用してプラットフォームを管理できるようにするには、その管理者を spltadm に追加します。
  - Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインの管理者は、適切なドメイン管理者グループに追加します。たとえば、sdaadm にドメイン管理者を追加すると、プラットフォームを使用してドメインを管理できるようになります。
3. /var/opt/SUNWsymon/cfg/esusers ファイルに各ユーザーを追加します。

---

## CLIによるソフトウェアの設定

### ▼ Sun Management Center サーバーでドメイン管理モジュールを設定する

- スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-setup -p SunFireDomAdmin
```

以下が表示されます。

```
-----  
This script will help you to setup Sun (TM) Management Center 3.5.  
-----  
  
Setting up Addon[s]
```

### ▼ プラットフォームでプラットフォーム管理モジュールを設定する

1. スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-setup -p SunFirePltAdmin
```

以下が表示されます。

```
-----  
This script will help you to setup Sun (TM) Management Center 3.5.  
-----  
  
Setting up Addon[s]  
  
For setting up Sun Fire (6800/4810/4800/3800) platform administration module  
you need to provide SC IP address, community strings, port numbers for domain  
agent etc.  
  
Do you want to setup Sun Fire (6800/4810/4800/3800) platform administration  
module [y|n|q]
```

2. ここで、プラットフォーム管理モジュールを設定する場合は **y**、設定しない場合は **n** と入力します。

以下のいずれかの状態になります。

- **n** を入力した場合は、設定スクリプトが終了します。
- **y** を入力した場合は、以下が表示されます。

```
Enter the IP address of System Controller
```

3. システムコントローラの IP アドレスを入力します (例 : 10.8.28.209)。

以下が表示されます。

```
Enter the read community for platform
```

4. プラットフォームの読み取りコミュニティ文字列を入力します (例 : P-public)。

以下が表示されます。

```
Enter the write community for platform
```

5. プラットフォームの書き込みコミュニティ文字列を入力します (例 : P-private)。

以下が表示されます。

```
Enter the write community for domainX
```

X はドメイン名を表す英字 1 字 (A ~ R) です。

6. 各ドメインについて書き込みコミュニティ文字列を入力します。たとえば、ドメイン A であれば、A-private を使用します。

すべてのドメインについて書き込みコミュニティ文字列の入力を完了すると、たとえば以下のように表示されます。

```
Please wait, Pinging the host 10.8.23.209.  
Host 10.8.38.209 is networked.  
Please wait, getting domain info from system controller  
Enter the Sun Management Center agent Port for domainX
```

X はドメイン名を表す英字 1 字 (A ~ R) です。

7. 各ドメインについてポート番号を入力します。たとえば、すべてのドメインに対して 161 を使用します。

すべてのドメインについてポート番号の入力を完了すると、以下のように表示されます。

```
Updating the configuration, Please Wait...  
Done.  
....  
....  
....  
Do you want to start Sun Management Center agent and server  
components now? [y|n|q]
```

---

## CLI によるソフトウェアのアンインストール

CLI を使用して、以下をアンインストールできます。

- Sun Management Center ソフトウェア全体 (187 ページの「CLI を使用して Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする」を参照)

- Sun Fire 6800/4810/4800/3800 用の追加ソフトウェアのうち 1～3 つのモジュール (188 ページの「追加モジュールを個別にアンインストールする」を参照)

## ▼ CLI を使用して Sun Management Center ソフトウェア全体をアンインストールする

1. スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
Following Sun Management Center Products are installed:
-----
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS
-----
Production Environment                  All Addons
Sun Fire Domain Administration          None
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire 15K-3800 pl  None
Sun Fire Platform Administration        None

Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

2. 製品環境をアンインストールする場合は `y` と入力します。これで、Sun Management Center ソフトウェア全体がアンインストールされます。  
以下のメッセージが表示されます。

```
This will uninstall ALL Sun Management Center Products. !!!
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

3. 以下のいずれかの操作をします。
  - a. 選択内容を変更する場合は、`y` と入力します。  
選択内容が表示され、手順 2 の先頭に戻ります。

b. 選択内容を変更しない場合は、n と入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to preserve database? [y|n|q]
```

**注** - **y** (はい) と入力すると、開状態および閉状態のアラーム、読み込み済みのモジュールとその設定、検出情報、管理対象オブジェクト、規則しきい値などの、データベース内のあらゆるデータが残されます。

4. 現在のトポロジやイベントデータを残す場合は y、廃棄する場合は n と入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールする場合は y、アンインストールしない場合は n と入力します。

**y** と入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

## ▼ 追加モジュールを個別にアンインストールする

1. スーパーユーザーで以下を入力します。

```
# ./es-uninst
```

以下のメッセージが表示されます。

```
This script will help you to uninstall the Sun Management Center software.
```

```
Following Sun Management Center Products are installed:
```

```
-----  
PRODUCT                                DEPENDENT PRODUCTS  
-----  
  
Production Environment                  All Addons  
Sun Fire Domain Administration         None  
Dynamic Reconfiguration for Sun Fire 15K-3800 pl  None  
Sun Fire Platform Administration       None
```

```
Do you want to uninstall Production Environment? [y|n|q]
```

- 製品環境をアンインストールしない場合、つまり、モジュールを個別にアンインストールする場合は n と入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to uninstall Sun Fire Domain Administration? [y|n|q]  
Do you want to uninstall Dynamic Reconfiguration for Sun Fire 15K-3800  
platforms? [y|n|q]  
Do you want to uninstall Sun Fire Platform Administration? [y|n|q]
```

- モジュールをアンインストールする場合は y、アンインストールしない場合は n と入力します。

アンインストールされるモジュールと以下のメッセージが表示されます。

```
Do you want to change selection? [y|n|q]
```

- 以下のいずれかの操作をします。

- 選択内容を変更する場合は、y と入力します。

選択内容が表示され、手順 3 の先頭に戻ります。

- 選択内容を変更しない場合は、n と入力します。

以下のメッセージが表示されます。

```
Proceed with uninstall? [y|n|q]
```

5. アンインストールする場合は `y`、アンインストールしない場合は `n` と入力します。

`y` と入力した場合は、アンインストールするパッケージの一覧が表示され、アンインストールされたパッケージ、アンインストール状況、ログファイルの場所が表示されます。

---

## Sun Management Center コンポーネントの起動

`es-start` スクリプトには、3つのオプションがあります。

- `-A` オプションは、コンソール以外のすべての Sun Management Center コンポーネントを起動します。
- `-l` オプションは、デフォルトのプラットフォームエージェントを起動します。
- `-y` オプションは、指定されたエージェントだけを起動します。

### ▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを起動する

1. `su` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス `/sbin` ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、デフォルトのプラットフォームエージェントを起動します。

```
# ./es-start -l
```

### ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを起動する

1. `su` コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス `/sbin` ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。



3. 以下を入力して、特定のプラットフォームエージェントのインスタンスを起動します。

```
# ./es-start -y instanceName
```

たとえば、プラットフォームエージェントのインスタンスの名前が P1 の場合は、以下を入力します。

```
# ./es-start -y P1
```

## ▼ すべての Sun Management Center コンポーネントを起動する

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス /sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、コンソール以外のすべての Sun Management Center コンポーネントを起動します。

```
# ./es-start -A
```

---

## Sun Management Center コンポーネントの停止

es-stop スクリプトには、3つのオプションがあります。

- -A オプションは、コンソール以外のすべての Sun Management Center コンポーネントを停止します。
- -l オプションは、デフォルトのプラットフォームエージェントを停止します。
- -y オプションは、指定されたエージェントだけを停止します。

## ▼ デフォルトのプラットフォームエージェントを停止する

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス /sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、デフォルトのプラットフォームエージェントを停止します。

```
# ./es-stop -l
```

## ▼ プラットフォームエージェントのインスタンスを停止する

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス /sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。
3. 以下を入力して、特定のプラットフォームエージェントのインスタンスを停止します。

```
# ./es-stop -y instanceName
```

たとえば、プラットフォームエージェントのインスタンスの名前が P1 の場合は、以下を入力します。

```
# ./es-stop -y P1
```

## ▼ すべての Sun Management Center コンポーネントを停止する

1. su コマンドでスーパーユーザーになります。
2. パス /sbin ディレクトリに移動します。パスは、Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。

3. 以下を入力して、コンソール以外のすべての Sun Management Center コンポーネントを停止します。

```
# ./es-stop -A
```



# 用語集

---

- ACL 「アクセス制御リスト」を参照してください。
- ASIC Application-specific integrated circuit の略語です。
- CLI command-line interface (コマンド行インタフェース) の略語です。
- COD Capacity on Demand オプションのことです。
- DCA Paroli のための Daughter Card Assembly です。
- DIMM dual inline memory module の略語です。
- DR 「動的再構成 (*DR*)」を参照してください。
- D キャッシュ データキャッシュのことです。
- ECC Error-Correcting Code (誤り訂正コード) の略語です。
- E キャッシュ 外部キャッシュのことです。
- FRU field-replaceable unit (現場交換可能ユニット) の略語です。
- FT Fan tray (ファントレイ) の略語です。
- GUI graphical user interface (グラフィカルユーザーインタフェース) の略語です。
- HPCI、hPCI、hsPCI Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) 集合部品のことです。
- HPCI+、hPCI+、hsPCI+ Hot-swap PCI (ホットスワップ PCI) プラス集合部品のことです。
- IB6 ~ IB9 入出力アセンブリのことです。
- IP Internet Protocol (インターネットプロトコル) の略語です。
- I キャッシュ 内部キャッシュのことです。
- LUN logical unit number (論理装置番号) の略語です。
- Paroli 並列光リンクのことです。

PCI	peripheral component interconnect の略語です。
POST	Power-On Self-Test (電源投入時セルフテスト) の略語です。
PS	power supply (電源装置) の略語です。
RP0 ~ RP3	リピータボードのことです。
RSM	remote shared memory (遠隔共有メモリー) の略語
SB0 ~ SB5	CPU/メモリーボードのことです。
SC	system controller (システムコントローラ) の略語です。
SCSI	small computer system interface の略語です。
SNMP	Simple Network Management Protocol の略語です。
SSC	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムコントローラのことです。
SSM	scalable shared memory (スケーラブル共有メモリー) の略語です。
Sun Fire 6800-3800 システム	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムと同じです。
V	Volts (ボルト) または Voltage (電圧) の略語です。
WCI	Sun Fire Link Interface ASIC のことです。
WPCI	Sun Fire Link PCI のことです。
W キャッシュ	書き込みキャッシュのことです。
アクセス制御リスト	ドメインに割り当てることのできる、使用可能なボードのリストです。
管理ドメイン	Sun Management Center 管理ドメインは、1 つ以上のホストシステムで構成されます。「ドメイン」という用語のその他の使用法と混同しないようにしてください。「ハードウェアドメイン」も参照してください。
デフォルトのプラットフォームエージェント	Sun Management Center 3.5 補助ソフトウェアをインストールすると、プラットフォーム管理モジュールエージェントが作成されます。デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1 つの Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視できます。複数の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視するには、プラットフォームエージェントのインスタンスをそれぞれ 1 つずつ追加作成する必要があります。
動的再構成 (DR)	動的再構成ソフトウェアは、Solaris オペレーティングシステムの一部で、このシステムのもとでシステムが稼働している間に、システムボードやコンパクト PCI I/O カードを安全に取り外し、取り付けることを可能にします。さらに、Solaris オペレーティングシステムのもとで、システムボードやコンパクト PCI I/O カードを別のドメインへ移すこともできます。

ドメイン	「管理ドメイン」と「ハードウェアドメイン」を参照してください。
ドメインの管理	このマニュアルでは、「ドメインの管理」はハードウェアドメインの管理を意味します（「ハードウェアドメイン」を参照）。ドメインの管理では、手順に従って、ホストシステム内のハードウェアリソース上で動作するソフトウェアやアプリケーションだけでなく、ハードウェアリソースそのものを管理します。『Sun Management Center 3.5ユーザーガイド』などの他のマニュアルでは、「ドメインの管理」は、複数のホストシステムからなるグループの管理を意味することがあります。「管理ドメイン」を参照してください。
パス	Sun Management Center ソフトウェアがインストールされているディレクトリです。たとえば、/opt/SUNWsymon に Sun Management Center がインストールされている場合、このディレクトリは /opt/SUNWsymon/addons/SunFirePltAdmin/sbin になります。
ハードウェアドメイン	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 ドメインは、1つのホストシステム内に内蔵されているシステムボードなどの装置を論理的なグループにまとめたものです。このマニュアルでは、この種のドメインを「ハードウェアドメイン」と呼び、「管理ドメイン」と区別しています。
開く (Uncompress)	アイコンの階層の下に隠れている下位項目を展開して表示させることです。
プラットフォームエージェントのインスタンス	デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1つの Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視できます。複数の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視するには、プラットフォームエージェントのインスタンスをそれぞれ1つずつ追加作成する必要があります。
プラットフォーム管理	Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システム全体を管理、監視することです。プラットフォームの管理では、Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを複数のハードウェアドメインに分割できます。ドメイン管理者は各ハードウェアドメインを個別に管理、監視できますが、プラットフォーム管理者は、プラットフォーム全体に加えて、個々のハードウェアドメインのすべてを管理、監視できます。
プロキシ	デフォルトのプラットフォームエージェントのコピーを「プロキシ」といいます。デフォルトのプラットフォーム管理モジュールは、1つの Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視できます。複数の Sun Fire 6800/4810/4800/3800 システムを監視するには、プラットフォームエージェントのインスタンスまたはプロキシをそれぞれ1つずつ追加作成する必要があります。





# 索引

---

## A

ACL、「アクセス制御リスト」を参照

## C

CPU コンポーネント、属性  
動的接続点, 155

CPU/ メモリーボード、属性  
接続点, 148

## E

es-platform 手順, 44, 181

es-setup 手順, 179, 180

es-start のオプション, 190

es-stop のオプション, 191

## F

FRU 情報の表示, 100

## H

hPCI、属性

カード  
接続点, 151

ボード  
入出力, 149

## M

MaxCPU ボード、属性  
接続点, 154

## P

"platform"、プラットフォームエージェントのデ  
フォルト名, 180

*PU<sub>n</sub>\_path*、SunMC ソフトウェアの場所, 179, 180

## S

SCSI コンポーネント、属性  
動的接続点, 158

SCSI、属性  
接続点, 152

setupdomain コマンド, 21, 178

setupplatform コマンド, 19, 177

SNMP、設定

ドメイン, 20, 177

プラットフォーム, 19, 176

SNMP の設定

ドメイン, 20, 177

プラットフォーム, 19, 176

Sun Fire オブジェクト, 54

Sun Fire 補助ソフトウェア  
定義, 1

Sun Fire システムのアイコン (絵), 5

Sun Fire システムのノード表示, 58

Sun Fire システムの複合表示, 59

## T

telnet コマンド, 19, 20, 176, 177

## W

WPCI ボード、属性  
ドメインの DR, 150

## あ

空きスロット、属性  
接続点, 153

アクセス権限, 54

アクセス制御 (ACL)  
ボードがドメインの ACL に登録されていること  
の確認, 160

アクセス制御リスト、編集, 101

アラームの生成規則, 134

## い

インストールと設定  
エージェントのインスタンス、設定の取り消し  
, 50

管理ドメイン、作成, 52

補助ソフトウェアのインストール, 173

デフォルトのプラットフォーム管理モジュール、設定の取り消し, 50

特定のプラットフォームエージェント、削除  
, 51

ハードウェアドメイン、作成, 51

プラットフォームエージェントのインスタンス、設定, 46, 181

プラットフォームエージェントのインスタンス、追加作成, 44, 181

ユーザー、グループへの割り当て, 48, 182

## お

オブジェクトの作成, 55

## か

仮想キースイッチ, 71

仮想キースイッチのモード

オフ, 72

オン, 72

診断, 72

スタンバイ, 72

保護, 72

管理者

ドメイン管理者とプラットフォーム管理者の比較, 2

管理ドメインの定義, 3

## き

キースイッチ、「仮想キースイッチ」を参照  
規則、アラームの生成, 134

起動

すべてのプラットフォームエージェント, 191  
デフォルトのプラットフォームエージェント  
, 190

特定のプラットフォームエージェントのインスタンス, 190

## く

グループへのユーザーの割り当て, 48, 182

## こ

構成解除、ドメインからの  
コンポーネント, 167

ボード, 167

メモリー, 168

構成、ドメインからの  
コンポーネント, 166

ボード, 166

- メモリー, 166
- 構成リーダーの属性テーブル, 125
- 構成リーダーモジュール
  - アイコンの位置, 118
  - システムの物理表示と論理表示, 118
- 構成リーダーモジュールによる物理表示, 118
- 構成リーダーモジュールによる論理表示, 118
- コンソール
  - 設定, 24, 25, 30, 31, 32, 33, 35, 36, 37

## し

- システムアラームの生成, 134
- システムコントローラの設定, 97, 176, 186
- シャーン情報テーブル
  - FRU 情報, 94
  - 移動, 94
  - システムコントローラの設定, 94
  - テーブルのソート, 94
  - テスト, 94
  - 電源の投入と切断, 94
  - ログホストの設定, 94
  - 割り当て、割り当て解除, 94
- 使用可能なボードの割り当て, 94
- 状態の表示、ドメインからの, 171

## す

- スロット、定義, 159

## せ

- 切断、ドメインからの
  - SCSI, 165
  - ボード, 164
- セットアップ
  - ネットワーク上の共通の場所, 24, 25, 30, 31, 32, 33, 35, 36, 37
  - ワークステーション, 24, 25, 30, 31, 32, 33, 35, 36, 37
- 前提条件, xxi, 145

## て

- 停止
  - すべてのプラットフォームエージェント, 192
  - デフォルトのプラットフォームエージェント, 192
  - 特定のプラットフォームエージェント, 192
- データ収集テーブル, 114
- 電源オフ
  - ボード
    - ドメインからの, 169
- 電源オン
  - ボード
    - ドメインからの, 169

## と

- ドメインアクセス, 60
- ドメイン管理者のアクセス, 2
- ドメインテーブルの操作
  - アクセス制御リスト..., 71
  - キースイッチ..., 71
  - テーブルのソート, 71
  - ドメインの管理, 71
  - ログホストの設定..., 71
- ドメインのアクセス制御リスト (ACL) の編集, 101
- ドメインの仮想キースイッチ設定の変更, 71
- ドメインのタイプの定義, 3
- ドメインの定義, 196
- ドメインの DR
  - 接続点, 147
  - 属性
    - CPU/ メモリー, 148
    - SCSI, 152
- ドメインの動的再構成 (DR)
  - SCSI の切断, 165
  - アイコン, 146
  - サポートされている cfgadm のオプション, 159
  - 状態の表示, 171
  - 属性
    - CPU コンポーネント, 155
    - hPCI カード, 151
    - hPCI 入出力ボード, 149
    - MaxCPU, 154

SCSI コンポーネント, 158  
WPCI, 150  
空きスロット, 153  
入出力コンポーネント, 157  
メモリーコンポーネント, 156

動的接続点, 147, 154  
物理、定義, 159  
ボードのアタッチ, 162  
ボードの構成、コンポーネント、メモリー, 166  
ボードの接続, 163  
ボードの切断, 164  
ボードのテスト, 170  
ボードのデタッチ, 162  
ボードの電源オフ, 169  
ボードの電源オン, 169  
ボードの割り当て, 160  
ボードの割り当て解除, 161  
ボードまたはコンポーネントの構成解除, 167  
メモリーの構成解除, 168  
論理、定義, 159

ドメインのログホストの設定, 73

## に

入出力コンポーネント、属性  
動的接続点, 157

## は

ハードウェア  
関連モジュール, 118  
パス、SunMC ソフトウェアの場所, 50

## ひ

表示  
アラーム規則, 120  
システム内のすべてのデバイス, 120  
システムの物理表示, 102  
システムの論理表示, 102  
ノード表示, 58  
複合表示, 59

表示、システムの表示, 102

## ふ

プラットフォームエージェント  
すべてのエージェント、起動, 191  
すべてのプラットフォームエージェント、停止  
, 192  
デフォルトのプラットフォームエージェント、  
起動, 190  
デフォルトのプラットフォームエージェント、  
停止, 192  
特定のエージェントのインスタンス、起動, 190  
特定のプラットフォームエージェント、停止  
, 192  
プラットフォーム管理者のアクセス, 2  
プラットフォーム管理の属性テーブル, 61  
プラットフォーム管理モジュール, 53

## ほ

ボードのアタッチ、ドメインからの, 162  
ボードの接続、ドメインからの, 163  
ボードのテスト, 96  
ドメインからの, 170  
ボードのデタッチ、ドメインからの, 162  
ボードの割り当て解除, 95  
ボードの割り当て解除、ドメインからの, 161  
ボードの割り当て、ドメインからの, 160  
ボードは1つのドメインにのみ割り当て可能, 95

## め

メモリーコンポーネント、属性  
動的接続点, 156

## も

モジュール  
ドメインの動的再構成 (DR), 146  
ハードウェア, 118

読み込み, 123  
モジュールの読み込み, 123

## ゆ

ユーザー  
    アクセス権の付与, 48, 182  
    グループへの割り当て, 48, 182  
ユーザーのアクセス権, 48, 182  
ユーザーのマシンアクセス権, 48, 182  
ユーザーへのマシンアクセス権の付与, 48, 182  
有用なヒント  
    検索機能における英大文字と小文字の区別, 108

## ろ

ログホスト  
    設定, 73  
    複数のログホストの指定, 73  
ログホストの設定, 99

